

542  
33



始



「日本産昆蟲類科の検索表」正誤表

頁	行	誤	正	頁	行	誤	正
三	二	翅には	翅は	六一	三	末短	末端
五	一四	前翅	前脚	六二	一四	頭部はしく	頭部は著しく
六	一一	第一腹部	第一腹部	七八	九	Tennoculidae	T. n. nochlidae
九	八	蛇蜻蛉目	廣翅目	八三	二	Trichopteryx	Aerotriolus
九	九	長翅目	蝸蟲目	九八	七	Isa R.	Ist R.
一三	一〇	奇鞘目	奇蟲目	一〇二	五	毛端	末端
一五	三	長翅目	蝸蟲目	一〇四	九	單短	單眼
一六	一一	擬疊翅目	削除	一〇五	八	Leplopanorpa	Lepk panorpa
一七	一一	貝本	貝一本	一一〇	二	Eupnot's	Lithosiidae
一八	八	蛇蜻蛉目	廣翅目	一一二	二二	Herak'ela	De r. de e n
二二	一一	複板	腹板	一一五	一三	カコ	カコ
二九	一〇	"	"	一一七	二	Tinogeridae	Tinogeridae
三〇	四	Cox popaidae	Campodidae	一二一	一〇	Tortricidae	Tortricidae
四二	二	Oecanthus	Oecanthus	一二四	一一	アリ	蛾
四五	五	Hemimeridae	Hem meridae	一二五	一	内縁小片	翅底鱗
"	"	talpoides	talpoides	"	四	"	"
四九	一〇	珠数を	珠数状を	"	三	Tabanidae	Tabanidae
五〇	一〇	Zomaptera	Zomaptera	一二九	五	Syrphidae	Syrphidae
五七	八	四節、は	四節、或は	一三三	五	Pentatomidae	Pentatomidae

f42-33



農學博士丸毛信勝著

日本産  
昆蟲類

科の檢索表

東京 古今書院發行

大正  
14.6.27  
内交

## 緒言

昆蟲の分類は古來幾多の學者が試みて出来る限り自然の系統に近いものを得んと企て、居るが神ならぬ人類の事て到底絶對正確を期する事は出来ない。然しながら最近に至つて昆蟲の分類も顯著な進歩をして現在の人知の範圍を以て自然分類に近いものと認むべきものが發表せられて來た。就中獨逸のハンドッ  
ルシユ A. Handlirsch 北米の克蘭プトン G. C. Crampton 及びコムストック J. H. Com  
の發表したものゝ如きは其の主なるものである。

我國に産する昆蟲の種類は勿論多數で之れを一々知るといふ事は又到底不可能であるが、科の程度位迄を知るといふ事は苟も昆蟲學に關係ある人士の必要とする處である。然るに今迄出版された此の類の書物を見るに簡に失せざれば

詳しくに過ぎるといふ風で兎角一般の要求に適しないかの感がある。之の點を補はんとするのが著者の目的で、従つて又完全を期したいのは山々であるが中々多忙の身には容易な事ではなく、漸次補正する他はない。

本書の採る分類法は大體ハンドリルシュに従つて居るが又多少の變更を加へてある事も承知して見られたい。

大正十四年四月

丸毛信勝

日本産  
昆蟲類 科の檢索表



檢索表

尖の表は主として成蟲の同定をせんがために作られてあるが、同時に若干の未成蟲も之の表によつて同定せらるる便宜がある。

- 一 翅を存する。翅の甚しく退化せる事があつても翅たる事は認め得られるのみならず、關節に依つて體と接續して居る。頭、胸、腹の三部は明瞭に區分せられ、頭部には多數の環節からなる觸角を、胸部には完全なる脚を有して居る……………二
- 翅を失つて居るか、或は僅かに痕跡を存する。或は又（若齡）皮囊中に納められ翅として役に立たない。脚は存するか、或は多少退化して居る……………三一
- 二 後翅は小さい棍棒狀に化し、稀に全然欠けて居る。前翅は薄膜狀で、多くの場合鱗片を有し……………三一

目檢索表

- て居ない。翅脈は少くて、網状を呈せず。横脈は少いか或は欠けて居る。口器は吸収に適して居るか或は全く退化して居る。大腮は釘拔状を呈せずして、欠けて居るか或は剛毛状に化して居る。尾毛は著しからず……………三
- 後翅は棍棒状に化せず。甚だ小なるか或は全く退化せる時には前翅が全く前項のものと異なるか、或は大腮が釘拔状をなすか又は長い尾毛を有する……………四
- 三 口器は吸収に適して居る。稀に甚しく退化せる時には觸角が不同て第三節上に剛毛を有して居る。體の後端には蠟質の絲狀物を有して居ない。跗節は數環節からなる……………雙翅目 *Diptera*
- 口器は全く退化し、觸角は正しく多數の環節からなる。體の後端には大抵蠟質の絲狀物を有し、跗節は一節からなる……………同翅目 *Homoptera* (介殼蟲の雄)
- 四 口器は環節を有する嘴狀の吸收器と化して居る (半翅首目 *Hemiptera*)……………五
- 口器は前項と全く異なりたる構造を有し、決して環節を有する嘴狀の吸收口とならず……………一〇
- 五 前翅は大抵腹上に水平に重ねて疊まれ、基部は堅く革質で先端は膜質なるが通常である。口吻は咽喉の方に起らずして、多く頭部の先端に起つて居る。頭部が甚しく傾斜して居る場合には三對の脚は游泳に適して居る……………異翅目 *Heteroptera*

- 前後翅は共に同質なるが通常で、前翅には革質部と膜質部との區別が明瞭でない。静止の際翅には體上に屋斜状に置かれる。口吻の附着點は下方に移動し前脚の基節に近づいて居る……………同翅目
- 六 前後兩翅は狭く多少羽毛状を呈し、鱗片を被らず。跗節は一個或は二個の甚だ小さい環節と一個の胞狀物とよりなる、口器は上下唇と兩腮とよりなる不均齊の錐狀物となり、下口式で一對の刺毛と一本の刺毛とを有して居る……………總翅目 *Thysanoptera*
- 前後兩翅は羽状を呈せず。甚しく狭い時は跗節は普通である……………七
- 七 後翅は太くして扇状を呈し、前翅は退化して居る。後胸は著しく大きく、前胸は著しく小さい。觸角は不同の少數の環節から出來て居る……………捻翅目 (ハ) *Strepsiptera*
- 前項と全く異なる構造を有するもの……………八
- 八 翅には多少厚く且つ著しく廣く毛を生じて居るか、或は鱗片で被はれて居る。前後兩翅共に同様な構造を有し、膜質で、分枝せる縦走脈の若干を有し、横脈は僅少なるか或は全然欠けて居る。大腮の明瞭なる場合は甚だ稀で、刺毛となる事もない。觸角は長く、多數の環節からなり、尾毛は小さく、多くは欠けて居る……………九

九 翅は多く厚く且つ長く毛又は鱗片を生ぜずして、前後兩翅の構造の異なる事が甚だ多い……一〇  
 翅は廣く且つ多數の毛を生じて居る。小腮及び下唇はよく發達し、鬚も存し、口器が卷鬚狀を呈する事はない。脚は細くしてよく發達せる距を有し、觸角は長くして絲狀を呈する……

毛翅目 Trichoptera

翅は明に鱗片で被はれて居るが、一部裸出せる事もある。口器は多く卷鬚狀を呈して居る……

鱗翅目 Lepidoptera

一〇 尾毛は釘拔狀を呈し、翅は前後不同で、前翅は小さい被覆物となり、後翅は甚だ廣く、二重に疊まれて前翅下に納まる、三對の脚は同形で、跗節は三節である……疊翅目 Dermaptera  
 尾毛は釘拔狀をなさず。脚と翅とは全く前項と異なる……一一

一一 前後兩翅は同様に柔かい膜質で、後翅は甚だ小さく、往々全く退化して居る事もある。疊まれない。尾毛は長く且つ弱く、多數の環節からなつて居る。通常第十一環節上に環節を有する一本の附屬物が存する。觸角は小さく、針狀を呈し、基節は肥大して居る。口器は退化して居る……  
 蜉蝣目 Ephemera

翅は構造が不同で、尾毛は短かく、第十一環節上に附屬物がない。觸角は長く多數の環節か

らなり、口器は發達して居る……一二

一二 前後翅或は少くとも前翅の基部の近くには翅を横斷する襞があつて、之れに沿うて容易に切斷する。前後翅は同様の構造を有し、多くの場合大さ及び形も等しい。尾毛は短かい多くの環節から成り。脚は同形である。觸角は絲狀で多數の環節から成つて居る……等翅目 Isoptera  
 翅には切斷さるべき仕掛がない……一三

一三 翅の附着點は背板が著しく狭くなつて居るために胸部背面に移つて互に接近して居る。翅は同質で、密なる網狀脈、竝に前縁に顯著なる縁紋と結節とを有して居る。後翅は疊まれない。觸角は短かく、剛毛狀をなし、尾毛は短かく、葉狀或は釘拔狀にして多數の環節より成る事はない……蜻蛉目 Odonata

翅は普通の通り胸部の側面に附着し、胸節の背板は普通の廣さを有して居る……一四

一四 前後兩翅は同様の構造を有し、膜質である……一五  
 前後兩翅は其の構造を異にし、前翅は堅くキチン化して居る。此の構造上の區別が明でない時には後翅の臀部は甚だ廣いか、或は前脚が捕獲脚に、或は後脚が跳躍脚に化して居る……二六  
 一五 前翅の第一跗節は膨大して、紡績器となり、前後翅は殆んど全く同様で、翅脈は退化し、僅

少の縦走脈と横脈とを認め得るに過ぎない。尾毛は短かく、二節からなり、多くの場合左右不均齊である。胸環節は堅く癒合せずして、第二、第三兩節は殆んど同大、第一節は稍小である。跗節は三節から成つて居る……………奇蟲目 *Eurhiodera*  
 前脚の第一跗節は紡績器とならずして、膨大しないか、或は他の目的のために膨大して居る。其他の點も異つて居る……………一六

一六 後翅の臀部は廣くして疊まれる。觸角は長くして、多数の同様の環節から成つて居る。尾毛は存し、多くの場合長くして多数の環節から出來て居るが、稀に甚しく退化せる事もある。胸節は稍扁平で同様に、互に固く癒合して居ない。脚は同様に、可なり長く、跗節は三節である。口器は咀嚼に適し、大腮は強大でない……………積翅目 *Perlaeinae*  
 後翅の臀部は廣くない。尾毛、胸節並に脚に於ても全く異なる……………一七

一七 胸節は甚だしく集中し、前胸の背部は中胸と固く癒合し、第一腹部は後胸と固く結合して所謂前伸腹節となり、多くの場合胸部及び前伸腹節と腹節との間は強く縊れて居る。前後翅は脈相を異にし、後翅は大抵前翅より小で、前縁にある鈎によつて前翅の内縁に結合されて居る。雌は産卵管或は毒針を有して居る。跗節は五節から成るのが多い……………膜翅目 *Hymenoptera*

前胸及び腹部は中胸及び後胸に夫々柔かい皮膚によつて連接されて居るので、動かす事が出来る。第一第二兩腹節の間には何等の縊れがなく、毒針もない……………一八  
 一八 後翅は前翅より著しく小で、疊まれない。脈相は少數の纖弱な分枝して居る縦走脈から成り、横脈は僅かに存するか或は全く無い。跗節は二、三節から成つて居る……………一九  
 後翅の前翅より小なる事は極く稀である。翅脈は大抵の場合よく發達し、多数の横脈を有して居るが、稀に翅脈が僅少となつて居る。此の場合には口器が異り且つ跗節が五節から成つて居る……………二〇

一九 前胸は他の胸節より稍大。小腮の附屬物は普通である。觸角は珠數狀を呈し九節から成る。脈相は大體大きな分枝脈から出來て居る……………Zoraptera  
 前胸は多くの場合中胸より著しく小。小腮は鑿狀の葉節を有し、觸角は細くして多数の環節よりなり、鞭狀を呈する。翅脈は多く多数に分枝して居る……………嘴蟲目 *Corrodentia*  
 二〇 頭部は水平に置かれ、後頭は伸長して、甚だ動き易く、長い頸狀の前胸上に置かれて居る。口器は咀嚼に適し、よく發達し、前口式である。後翅は前翅に酷似し、殆ど同大である。脈相は網狀で、縁紋は顯著である。雌は尾端に對をなさない附屬物を有し、雄の腹部には大きな



な附屬物はない。觸角は長く、同様な多數の環節からなり、絲狀を呈して居る。跗節は四節からなり、前脚は普通である……………駱駝蟲目 Raphidides

後頭並に前胸は通常左程伸長せずして頸狀を呈して居ない。口器は多くの場合下方に向いて居る。後翅の臀部は廣いか、或は前脚は捕獲脚となつて居るか、或は觸角と跗節とは前項と異なつて居るか、或は腹部の附屬物は種々である……………二一

後翅は狭長なる帶狀となり、前翅は普通である。頭部は垂直に置かれ、口器の方に伸長して居る……………脈翅目 Neuroptera

前翅は帶狀となつて居ない……………二二

二二 頭部は著しく嘴狀に伸長して其の先端に比較的小さい大腮がある。尾毛は短かく、互に近接して明に環節を有して居る。前胸は短かく、基節は甚だしく伸長し、縦に分たれて居る。翅は殆んど同様で、縦走脈の末端には狭い分枝部がない……………蠅蟲目 Panorpatae

頭部は嘴狀に伸長して居ない。尾毛の明瞭にして環節を有する事は極めて稀で、多くは缺けて居るか或は殆ど認め難い。基節は多くの場合通常である……………二三

甚だ小さい昆蟲で、翅脈は退化して少數となり、細粉を被りて乳白色を呈して居る。後翅は

前翅より小である……………脈翅目

大きな昆蟲で多數の發達せる翅脈を有して居る。後翅は前翅と同大なるか或は前翅より大きく、稀に退化して居る……………二四

二四 縦走脈は翅縁に向つて多數の狭い室を作る様に分枝して居る。後翅の臀部は廣くなく又疊まれる事もない。多數の横脈を有し、多く規則正しい排列をなし、尾毛を有して居ない……………脈翅目

縦走脈は翅縁に向つて分枝して狭い室を作る事がないか、或は後翅の臀部は廣い。横脈は多くの場合其の排列が左程規則正しくなく、短かい尾毛を有する事も屢々である……………二五

二五 基節は普通で、短かく、相離れて居る。後翅の臀部は多くの場合廣い……………蛇蜻蛉目 Megaloptera

基節は細長で、相近接し、前後翅は畧同様である……………長翅目

二六 前脚は捕獲脚となり、頭部は垂直に置かれて居るが胸部に覆はれて居ない……………螳螂目 Mantodea

前翅は捕獲脚となつて居ない……………二七

二七 前翅は眞の翅鞘と化し、甚だ固くキチン化し、翅脈も認める事が出来ず、左右の翅は體の中央にて一直線上に相接し相重なる事はない。尾毛は認められない。觸角は十二環節以上より成る事が極めて稀である……………鞘翅目 Coleoptera

- 前翅は固くキチン化して翅脈を認め得ないといふ事は殆どない。又前翅が體の中央に於て一直線に相接する事はなく、相重つて居るか、或はよく發達せる尾毛を有し、觸角は甚だ多數の環節から成つて居る……………二八
- 二八 前胸は多少扁平にして、圓板狀に擴大し、多く下向せる頭部を覆ふて居る。尾毛はよく發達し、明瞭に環節を有する事が多い。雌は突出せる産卵管を有して居ない。脚は同様で、跗節は五節より成り、基節は甚だ太くして相近接し、胸板の大部分を占有して居る……………蜚蠊目 Blattariae  
前胸は圓板狀を呈せず、又頭部を覆うて居ない。然し若し前胸が擴大して居る場合には基節其他の點が異つて居る……………二九
- 二九 前脚は開掘脚と化し、尾毛は長い。産卵管は突出して居ない……………跳躍目 Saltatoria  
前脚は開掘脚と化して居ない。産卵管は突出して居る事が多い……………三〇
- 三〇 跗節は五節(稀に四節)、後脚は中脚と似て居る……………竹節蟲目 Phasmida  
跗節は四節又は其れ以下、後脚は跳躍に適して居る……………跳躍目  
三二 環節を有する胸脚は多少よく發達し、其の胸脚なる事を常に明瞭に認める事が出来る……………三二  
環節を有する胸脚を缺いて居る……………一〇〇

- 三三 頭部及び胸部の附屬物は充分に作用をなし、自由に動き且つ正規の位置にある……………三三  
頭部及び胸部の附屬物は殆ど或は全く動かし得ない許りでなく、極く僅かのものが作用し得る許りである(蛹)……………八四
- 三三 腹部は多くとも五個或は六個の環節を有し、時としては腹環節の區分の不明瞭な事もある。觸角及び脚は完全に發達し、口器は小さくして頭の中に埋没し、普通の複眼竝に翅を缺いて居る。腹部には跳躍器を有する事が多く、跗節は一節よりなる……………跳蟲目 Collembola  
腹部は少くとも八個の明瞭なる環節から成つて居る……………三四
- 三四 口器は環節を有する嘴狀と化し、尾毛を有して居ない……………三五  
口器は環節を有する嘴狀と化せず。或は退化して居る……………三七
- 三五 嘴狀の口器は頭部の前端より發して居る……………異翅目  
嘴狀の口器は頭部の前端より發せずして下方或は頭部の基部に發して居る……………三六
- 三六 嘴は短かくして下方に移つて居るが、前脚の方へ近寄つて居ない。觸角は曲り、脚は游泳に適して居る……………異翅目  
嘴は多くの場合長く、頭部の基部に發して居る。陸棲て脚は游泳に適して居ない……………同翅目

- 三七 尾端には多數の環節から成る長い尾毛を有し、大抵第十一環節上には一本の環節を有する附屬物を存する。腹環節の多數は氣管腮又は基節器管を有する……………三八
- 尾端には多數の環節より成る長い尾毛を有して居ないが、若し有する時には第十一節上の附屬物竝に氣管腮を有して居ない……………三九
- 三八 腹環節の多數は側方に向つた、或は上方に撫で付けられた氣管腮を有して居る。一般に顯著なる翅鞘を有し、水棲である(幼蟲)……………三九
- 腹環節の多數は下面に基節器管を有して居る。跗節は三節で、翅鞘の痕跡を有して居ない……………四〇
- 三九 少くとも第一腹節は下面に基節器管を有し、翅の痕跡を有して居ない。口器は異常で、小さくなつて頭中に没して居る……………四〇
- 腹環節は基節器管を有せず。屢々翅の痕跡を有して居る……………四二
- 四〇 尾毛及び觸角は多數の環節から成り、長い……………長跳蟲目 Entetropi
- 尾毛は多數の環節より成らずして長くない……………四一
- 四一 觸角は小乳頭狀に退化し尾毛はない(第六圖)……………Prohura

- 觸角は多數の環節から成り、長い。尾毛は存する……………長跳蟲目
- 四二 前脚は捕獲脚と化して居る。觸角は長く、四節より成り、附節は五節より成る……………螻蛄目
- 前脚は捕獲脚と化して居ない。其他の點も前項と異なる……………四三
- 四三 下唇は伸縮の出来る假面となつて居る。尾毛は栓狀或は葉狀で、多くは環節を有して居ない。脚は長く、翅鞘は第一齡に於てのみ缺けて居る。水棲である(幼蟲)……………蜻蛉目
- 小腮及び下唇は普通で、伸縮の出来る捕獲器となつて居ない……………四四
- 四四 前脚はモグラの如く開掘に適して居る……………跳躍目
- 前脚は開掘に適して居ない……………四五
- 四五 前脚の第一跗節は著しく膨大して、紡績器となり、跗節は三節より成る。第二、第三胸節は固く癒着して居ない。尾毛は二節より成つて居る……………奇鞘目
- 前脚の第一跗節は紡績器となつて居ない……………四六
- 後脚の腿節は基部に向つて著しく膨大し跳躍に適して居る。觸角は多數の環節から成り、跗節は二乃至四節である……………跳躍目
- 後脚は跳躍に適して居ないのみならず、其他の構造も全く異つて居る……………四七

- 四七 頭部は下方に伸長して嘴状を呈し、其の尖端に小さい大腮を有して居る。跗節は五節、基節は長くして相近接し、前胸は小さく、尾毛は短くして近接して居る…………… 蝸蟲目  
頭部は嘴状を呈せず。其他の點も異つて居る…………… 四八
- 四八 尾毛は環節を有せずして、多くの場合釘拔状を呈して居る。跗節は三節。脚は同様で長い…………… 疊翅目  
尾毛は釘拔状を呈せずして退化せる事が屢々である。脚竝に跗節も異つて居る…………… 四九
- 四九 大腮は常に確然と認められ、釘拔状を呈してよく發達して居るが、中には小さいものもあるし、或は短刀状となつて吸收する事の出来るやうになつて居るものもある…………… 五〇  
大腮は釘拔状でなく、全く萎縮して居るか或は剛毛状と化して口吻中に藏せられて居る…………… 七八
- 五〇 腹環節の多くは下面に環節からなつて居ない短かい脚を有し、翅の痕跡を有して居ない。イモムシ状である…………… 五一  
腹環節は下面に短かい脚を有して居ない…………… 五三
- 五一 腹脚には鈎装置を有し、第五體節には脚を缺く。頭部の兩側には多數の單眼を有して居る…………… 鱗翅目  
腹脚には鈎装置を有せず。第五體節は脚を有して居る…………… 五二
- 五二 頭部の兩側には多數の單眼を有して居る。幼蟲…………… 長翅目  
頭部の兩側には一個づゝの單眼を有して居る。幼蟲…………… 膜翅目
- 五三 尾毛は顯著にして、多くは環節を有して居る…………… 五四  
尾毛は缺けて居るか、或は甚しく退化して居るか、或は尾毛として認め得られざる迄に變化して居る…………… 六五
- 五四 觸角は太く、約九個の環節から成り、珠數状を呈して居る。頭部は自由で、眼を有するものと缺くものとある。跗節は二節より成り、基部は太くして接近して居る。前胸は圓板状に擴大して居ない…………… Zoraptera  
觸角竝びに其他の點も異つて居る…………… 五五
- 五五 前胸は大きくして圓板状を呈し、頭部を覆うて居る。基節は大きくして相近接し、跗節は五節、觸角は多數の環節から成つて居る…………… 蜚蠊目  
前胸の状態は異なつて居る。或は基節は廣く相離れ、跗節竝に觸角は異つて居る…………… 五六

- 五六 跗節は五節或は少くとも四節から成つて居る……………五七  
跗節は四節以下から成つて居る……………五九
- 五七 中胸は前胸より太い。基節は中等の大きさで相離れ、脚は長いか或は葉狀に擴大されて居る。複眼はよく發達して居る……………竹節蟲目  
中胸は前胸より大きくない。基節は大きくして相近接し、脚は普通である。複眼は退化せる事が屢々である……………五八
- 五八 多少蟻に似た昆蟲で、尾毛は短かく、雌には産卵管がない……………嚙蟲目  
蟋蟀に似た形を呈し、尾毛は長く、多數の環節から成り、雌は産卵管を有する……………跳躍目
- 五九 體は扁平、胸部は廣く、翅の痕跡を有して居ない。前胸は中、後兩胸より大きく、頭部はシヨベル狀を呈し、基部は廣く、口器は下向して居る。眼を有せず。跗節は三節から成り、尾毛は長く環節を有して居ない。基節は廣く相隔り、觸角は相當に長く、基節は長く他は短かい。齧齒類動物の毛皮に寄生して居る……………擬蠱翅目 *Diploglossata*  
全く異つた構造を有して居る……………六〇
- 六〇 觸角は長く、多數の環節から成り、翅の退化せるものか或は翅芽を存する事が屢々ある……………六一

- 六一 觸角は短かく、少數の環節から成つて居る……………六四  
退化せる翅竝に多數の環節から成る甚だ長い尾毛を有して居る。跗節は三節から成つて居る……………積翅目
- 六二 翅芽を有して居るか或は飛翔器管を缺いて居る。幼蟲……………六二  
跗節は三節から成り、末節には二本の爪を生じて居る。多くは陸棲で、小形で、長い尾毛を有して居る……………蠱翅目
- 六三 跗節は二乃至三節から成り、末節には二本の爪を生じ、尾毛は甚だ長い。水棲である……………六三  
胸節には氣管總を存する事が屢々である。爪は二本。翅は多くの場合己に明瞭に區分せられて居る……………積翅目
- 六四 氣管總及び翅の分界を缺いて、爪は一本である……………蜚蠊目  
尾毛及觸角は顯著で、多數の環節から成り、脚には只本の爪を有するか或は缺いて居る。樹枝に自ら巢を營んで中に生活して居る。幼蟲……………膜翅目  
尾毛及び觸角は環節の不明瞭なる場合が屢々で、爪は一本或は二本ある。生活状態も異なる。幼蟲……………鞘翅目

- 六五 腹環節の多くは、關節で連接して居る腹脚に相當する氣管腮を有して居るか、或は其他總狀をなさざる且つ背面に生ぜざる氣管腮を有して居る。幼蟲……………六六
- 腹部は氣管腮を有せざるか、或は有するとも腹脚に相當するものとは認められない……………六八
- 六六 大腮は小腮と密接して吸収に適する構造と化して居る。淡水産海綿中に生活する幼蟲である……………脈翅目
- 大腮は小腮と密着して吸収に適して居ない……………六七
- 六七 腹脚は明に環節を有し、末環節には長い一本の突起を存して居るか、或は明瞭な環節を有しないで、最後の一對は基部に強い鈎を有し、末環節は尾狀附屬物を有して居ない。幼蟲：蛇蜻蛉目附屬物は決して脚の如き環節を有して居ない。固着鈎及び對をなさない尾狀附屬物を有して居ない。幼蟲……………鞘翅目
- 六八 胸節は甚しく集中して、環節は固く癒着して居る。第一腹節は胸部に移り、第二腹節とは縊れによつて分たれて居る。脚はよく發達し、跗節は大抵五節より成り、觸角は多數の環節から成つて居る。雌は産卵管或は刺針を有して居る……………膜翅目
- 胸節は甚しく集中せずして、少くとも前胸は動かし得る。第一腹節と第二腹節とは縊れによつて區分されて居ない……………六九

- 六九 大腮は大きく、小腮と結合して吸収に適する様になり、翅芽を有して居ない……………脈翅目
- 大腮と小腮とは結合して吸収に適する様になつて居ない……………七〇
- 七〇 矮小に造られ、多少蝨狀を呈した多くは小形の昆蟲で、下口式である……………七一
- 蝨狀を呈せずして、多くは細長く、屢々前口式であるか、或は大きな大腮を有して居る……………七二
- 七二 觸角は多數の環節から成り、長い。脚は固着器として用ゐられずして、單に歩行に用ゐられる。翅の痕跡或は翅芽は屢々存する……………嚙蟲目
- 觸角は短く、少數の環節から成つて居る。脚は屢々固着するために用ゐられ、飛翔器管は全く缺けて居る。體は甚しく扁平で、小腮は遊離した小腮鬚を有して居ない。大腮は甚だ小さい。温血動物の外部に寄生する……………食毛目 Mallophaga
- 七三 生殖器は發達し。翅の痕跡を存する場合が多い。雌……………鞘翅目
- 生殖器は精々幼芽の状態で存在して居る。全然無翅の幼蟲である……………七三
- 七三 尾毛狀の附屬物は絲狀或は栓狀で、屢々自在に動かす事が出来る……………七四
- 尾毛狀の附屬物を欠いて居るか、或は精々短かい全く動かす事の出来ない角として尾端に残……………七四

- つて居る。尾端には固着器管を有する事が屢々である……………七五
- 七四 脚には二本の爪がある……………鞘翅目  
脚には一本の爪があるか、或は全く無い……………膜翅目
- 七五 爪は二本で、頭部は自在で、前口式である。前胸は膨大し、以下の環節は總てよく區分せられて居る……………駱駝蟲目
- 七六 爪は一本或は全く無い。例外として二本の爪がある時には其他の點で異つて居る……………七六  
筒の中に棲む、尾端には二本の鈎を有し。體は圓筒形で、腹部には屢々絲狀の氣管總を有する。脚は長く、眼は存する……………毛翅目  
尾端には鈎を有して居ない……………七七
- 七七 イモムシ狀の幼蟲……………若干の蝸蟲目。鱗翅目。膜翅目  
種々異つた形をして居る……………鞘翅目
- 七八 下口式で、第二跗節には胞狀の附屬物を有して居る……………總翅目  
口器及び脚は全く異なる構造を有し、口器は屢々全く退化して居る……………七九
- 七九 口器は全く退化し、外部からは見えぬ……………八〇

- 八〇 口器は退化して居ないが、若し退化して居るとも外部から見える……………八一  
微少の幼蟲で尾端にはキチン質の絲狀物を有して居る……………撚翅目  
雄は蠟質の絲狀物を有して居る……………同翅目
- 八一 前口式。甚だ細い剛毛狀の口器は全く引き込んで、只一個の短かい嘴が突出して居る。體は扁平で、跗節は固着に適し、一節である……………蝨目 *Siphunculata*  
口器は自在で、小腮は普通であるか、或は吸収に適して居るか、或は甚しく萎縮して居る……………八二  
側扁の小昆蟲で、脚は多くの場合跳躍に適し、よく發達せる刺を有して居る。基節は長く、跗節は五節より成り、觸角は短かい。口器は吸収に適し、鬚は遊離し、胸環節は分離して居る……………蚤目 *Suctoria*  
全く異なる構造を有する……………八三
- 八三 大腮は退化して居る。口吻の存する時には小腮より成つて、小腮鬚は遊離して居る。胸部には屢々厚く毛或は鱗を被る、觸角は多く多數の環節より成り、稀に退化して居るが、決して第三節に剛毛を生じて居ない……………若干の鱗翅目。毛翅目  
大腮は口吻の構成に加つて居る。口器は多く甚しく退化し、觸角の第三節には剛毛を生じて

- 居る。第三胸節には平均棍を存する事が屢々ある……………雙翅目
- 八四 四肢並に若し存するなら翅は體に固着せられて居る……………八五
- 四肢並に若し存するなら翅は多少體に密接して居るが、膠着されては居ない……………八七
- 八五 大腮は釘拔狀で明瞭に發達して居る……………若干の鞘翅目
- 釘拔狀の大腮は認められない……………八六
- 八六 大きな翅の二枚あるもの……………若干の雙翅目
- 大きな翅の四枚あるもの……………鱗翅目
- 八七 釘拔狀の大腮の顯著なるもの……………八八
- 釘拔狀の大腮のないもの……………九五
- 八八 前胸は廣くして中胸より大きく、頸狀を呈して居ない。前後翅は甚しく異なつて居る……………鞘翅目
- 前胸は中胸より大きくない許りでなく、反つて甚だ小さい事が屢々あるか、或は頸狀を呈して居る……………八九
- 八九 前胸は頸狀を呈し、頭部は長く、前口式である。脚は同様である……………駱駝蟲目
- 前胸は頸狀を呈せざるか、或は前脚が特に發達して居る……………九〇

- 九〇 大腮は特種に遊離して居る。甚だ小形の陸棲類……………若干の鱗翅目
- 大腮は異なる。多くは大形……………九一
- 九一 頭部は口吻狀に伸長し、基節は大い……………蝸蟲目
- 頭部は口吻狀に伸長しない。其他も異なる……………九二
- 九二 幼蟲の作つた筒の中に在つて水中に棲んで居る。觸角は甚だ長く多數の環節から成つて居る……………毛翅目
- ……………
- 陸棲で、筒の中には無くて、繭中に在るか、或は裸出して居る……………九三
- 九三 後胸は中胸に比し甚しく小さく、翅芽の脈相は少數の大い室を有して居る……………膜翅目
- 後胸と中胸とは畧同大で、脈相は多くの場合多數の室を有して居る……………九四
- 九四 裸出して繭を造らない。後翅は多くの場合前翅より目立つて大きく、前胸は大抵甚だ大い。觸角は大きく、多數の環節から成つて居る……………蛇蜻蛉目
- 繭中であつて、後翅は前翅と同大であるか、或は前翅より小さい。前胸は中等の大さである……………脈翅目
- ……………
- 九五 蠟質の被覆物の下にあつて、植物に密着し、口器は全く退化し、二枚の翅だけが明瞭である……………

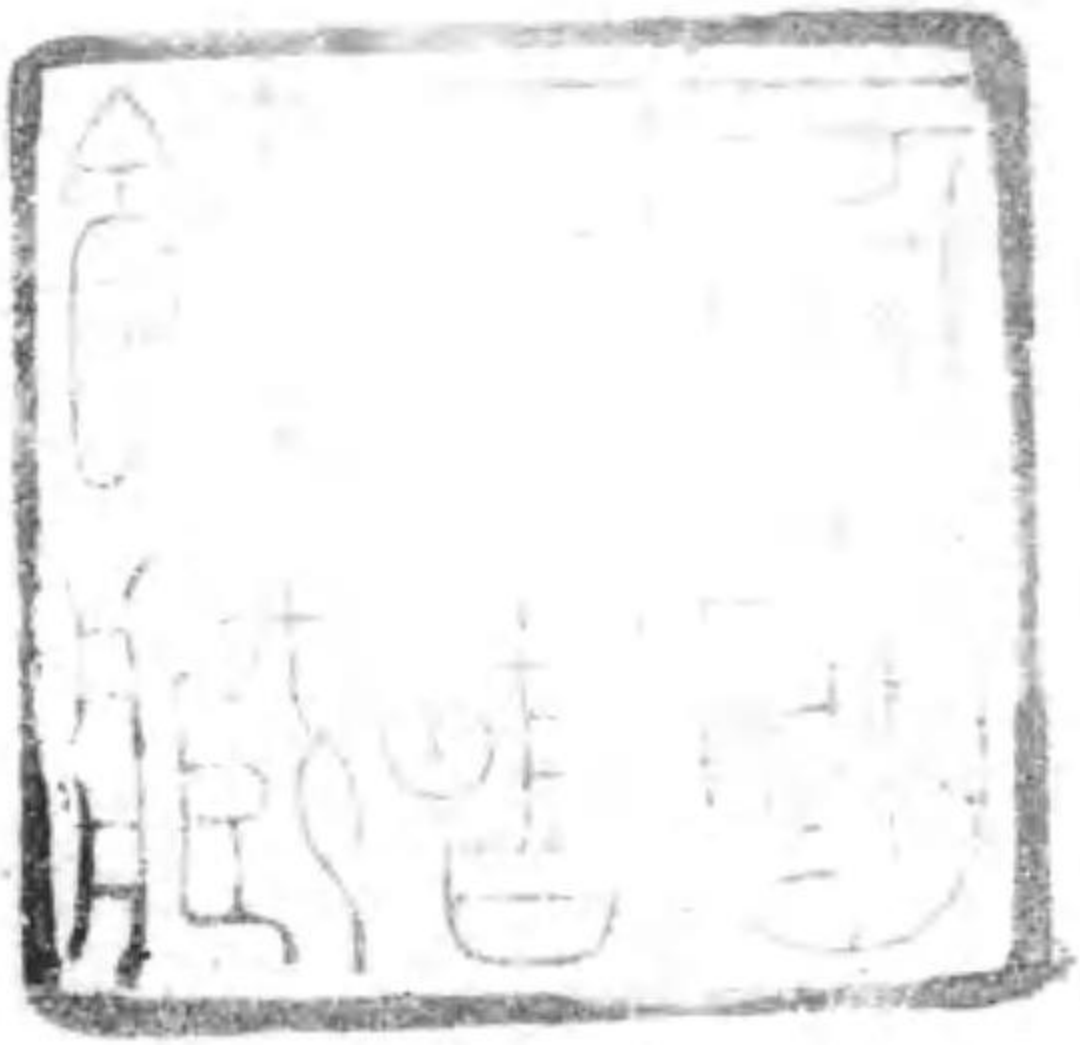


- ..... 同翅目
- 蠟質の被覆物の下で植物に密着して居ない。其の他の點も異なる..... 九六
- 九六 甚だ小さい昆蟲で、硬化せる幼蟲の皮膚の下にあつて植物に密着し、吸収口を具へ、同大の四枚の翅を有する..... 同翅目
- 幼蟲の皮膚の下に無く、其の他の點も異なる..... 九七
- 九七 前翅だけよく發達して居る..... 雙翅目
- 同大の四枚の翅を有するか、或は翅を缺く..... 九八
- 九八 跗節は甚だ小さくして短かく且つ退化して居る。口器は特有の圓錐形に變つて居る..... 總翅目
- 跗節、口器共に異つて居る..... 九九
- 九九 四枚の翅を有するもの..... 若干の鱗翅目
- 翅を有せざるもの..... 蚤目
- 一〇〇 キチン質の被覆物が硬くして、動かないが、環節は全然消失して居ない..... 一〇一
- 一〇一 キチン質の被覆物は軟くして、動く。或は體は硬化して環節は消失し且つ植物に密着して居る..... 一〇三

- 一〇一 膜翅目、同翅目、或は直翅首目に屬する昆蟲の體環節の間に壓縮されて存在し、小形で、特有の扁平な頭部を有して居る..... 燃翅目
- 生活狀態及び構造が全く異なつて居る..... 一〇二
- 一〇二 眞の四肢並に頭部の痕跡が認められる。甚だ短大で、氣門は普通である..... 鞘翅目
- 四肢の痕跡がない。頭部も確認せられないし、體は細長い。氣門は尾端に只一對だけ残つて居る..... 雙翅目
- 一〇三 板狀或は球形で環節を有せず、植物に密着し、昆蟲としての外見を少しも具へない..... 同翅目
- 動かし易い軟い環節を有するもの..... 一〇四
- 一〇四 口吻を搜入して植物に密着し、被覆物の下に隠れたるもの..... 同翅目
- 口吻を有せざるか、或は口器が甚しく退化せるか、或は全く欠くもの..... 一〇五
- 一〇五 頭部は甚しく退化し、口器は鉤狀と化して居るか、或は全く認められない..... 雙翅目
- 頭部は存し、多くの場合釘拔狀の、時としては甚しく小さい口器を有して居る。或は頭部は所謂頭胸部を構成する迄擴大し、口器は缺けて居る..... 一〇六
- 一〇六 生熟せるもので頭胸部と腹部との間に産卵門を有し、膜翅目、同翅目、直翅首目の腹部に寄

- 生して居る……………撚翅目
- 幼蟲で全く異つた構造を有する……………一〇七
- 一〇七 口器は全然退化して居る……………撚翅目
- 口器は存在する……………一〇八
- 一〇八 末節或は最後より第二の環節上にもみ氣門を有するか、或は尾端に呼吸管を有する。水棲のものが屢々ある……………雙翅目
- 他の氣門を有し、呼吸管を有して居ない。或は氣門を有して居ない……………一〇九
- 一〇九 尾端の他に體の前部にも尙一對の氣門を有する……………雙翅目
- 多數の氣門を有するか、或は全然氣門を有して居ない……………一一〇
- 一一〇 各種の昆蟲に寄生するもの……………膜翅目
- 他の昆蟲に寄生せざるもの……………一一一
- 一一一 植物の蟲癭中にあるもの……………膜翅目及び若干の鞘翅目
- 生活状態の異なるもの……………一一二
- 一一二 成蟲の作つた巢の中に在つて、肛門は塞がれ、蛹化の際開かれる……………膜翅目

- 成蟲の作つた巢の中に無くて、肛門は塞がれて居ない……………一一三
- 一一三 植物の蟲癭中にあるもの……………鞘翅目及び若干の鱗翅目、膜翅目
- 土地、朽木、泥、落葉、菌類等の中にあるもの……………雙翅目、蚤目



## 無翅亞綱

Subclass: Apterogonae

翅は全然無い。腹部は明瞭に十或は十一の環節からなり、其の環節の多數は退化せる脚を有し、第十一節は多くの場合尾毛を有する。又腹部が六個の環節から成り、多くの場合其の中の第一、第三及び第四(第五)節上に跳躍器を有するが、極く稀には全く退化して居る事もある。不變態である。

### 第一衣魚目 Order Thysanura

小形で稍紡錘形を呈し、體の環節は明瞭である。多くは鱗片を被つて居る。觸角は長く、鞭狀を呈し、多數の環節から成つて居る。腹部は十一節から成り、末節には多數の環節から成る長い尾毛と、中央に發する一本の尾毛狀の長い附屬物を存する。第二乃至第七腹節の腹板上には一節より成る針狀突起と裏返しされ得る小囊とがある。雌にありては第八、第九腹板上に一對の短かい圓錐形の産卵器がある。口器は露出して居る(第一、二、三圖)。

活潑な陸棲昆蟲で、温帶特に其の南部に廣く分布して居る。蘆芥、澱粉含有物、地衣等を食ふて生活して居る。本邦には次の二科を産する。

複眼は大きくして、多くは頭頂で相接して居る。單眼は三箇、小腮鬚は七節から成る。腹部腹板上には裏返しされ得る小囊を有し、中、後兩脚の基節には柄を有して居る。(第一、二圖)。(イシノミ *Machilis*).....イシノミ科 *Machilidae*  
 複眼は小さいか、或は全く缺き、單眼は無い。小腮鬚は五乃至六節から成る。複板上に小囊を缺き、基節には柄を有して居ない(第三圖)。(シミ *Lepisma*).....シミ科 *Lepismatidae*

### 長跳蟲目 Order Entrophi

小形で、無色、跳躍不能な不活潑な昆蟲である。體環節は明瞭で、鱗片を被つて居ない。觸角は長く、多數の環節から成り、眼を缺いて居る。腹部は十一節からなつて居るが、第十一節は退化し、環節から成る觸角狀の尾毛か、又は環節のない釘拔狀の尾毛を有して居る。中央に發する一本の尾毛狀附屬物はない。若干の複板上には針狀突起、時としては小囊をも有して居る。口器は口腔内に包まれて一部現はれて居る。

寒い地方を除けば至る處に分布し、土中、腐植質、苔や木材の中、樹皮下等に棲んで居るが食物は明瞭でない。本邦には次の二科を産する。

- 一 尾毛は釘拔状で、環節を有しない(第四圖)(ハサミトビムシ *Japyx*)…ハサミトビムシ科 *Japygidae*  
尾毛は環節を有する……………二
- 二 尾毛及び觸角は長くして、多數の環節から成る(第五圖)。(ナガトビムシ *Campolea*)……………ナガトビムシ科 *Campopidae*  
……………ハサミトビムシ科の幼蟲  
尾毛は短かく、環節の数が少ない……………ハサミトビムシ科の幼蟲

跳 蟲 目 Order Collembola

小形、柔軟な昆蟲で、往々鱗片を被り、美しい色彩を有するものも屢々ある。觸角は三乃至六個の多少不整な環節を有し、複眼は一種の聚眼の状態を呈し、單眼は屢々存在する。腹部は六箇の甚だ不同な環節から成り、其の分界は多少消失せる事が屢々ある。末端には尾毛、尾毛狀附屬物を有して居ないし、基節にも柄を欠いて居る。第一節上には腹管を、第四節上には跳躍器を存する事が多い。第三節上には鈎器と稱するものが存する。口器は口腔内に隠れ、鬚を缺いて居る。跗節は一節である。多くは腐朽物を食として居るが、中には生きた植物を食ふものもあるので、時としては害蟲として取り扱はれるものもある。陸棲の昆蟲類中では最も廣い分布を有するもので、熱帯から寒帯まで、雪

の上、氷河の上、水の上、洞穴の中、家の中、或は蟻や白蟻と共に其の他至る處で發見する事が出来るが、落葉の下、苔の下、樹皮の下などに最も多い。中には發光するものもある。本邦には次の三科を産する。

- 一 胸の環節は互に明瞭に區分せられ、精々二箇の腹環節が癒着するに過ぎない。體は多少伸長し、頭は水平に置かれ、稀に甚しく曲つて居る。觸角は頭部の前半の中に發し、氣管を缺いて居る。跳躍器は屢々缺けて居る。屢々鱗片を被る(跳蟲亞目 *Siborder Arthropleona*)……………二  
胸は二つに區劃せられ、精々末節だけが縊れて分れて居る。多小球形を呈し、頭部は垂直、前口式、觸角は頭の中央又は後半部の中に發し、稀に前半の中に發して居る。頭部の氣管は通常明瞭で、跳躍器は大い。鱗片を有して居ない(圓跳蟲亞目 *Siborder Symphleona*) (第七圖)。(ヤルトビムシ *Dicyrtoma*)……………ヤルトビムシ科 *Sminthuridae*
- 二 第一胸節の背板は背面から明瞭に見え、毛を生じて居る。跳躍器は存在するものと存在しないものとあつて、鱗片を被るものはない(第八圖)(トビムシモドキ *Onychiurus*。トビムシ *Achorutes*。セスチトビムシ *Xenylla*)……………トビムシ科 *Poduridae*  
第一胸節の背板は背面から見えないで、毛を生じて居ない。跳躍器は多くの場合存在し、屢々

鱗片を被る(第九圖)(クロトビムシ *Isotoma*。キトビムシ *Entomobrya*。トゲトビムシ *Tomocer-*  
*us*).....ヒゲナガトビムシ科 *Entomobryidae*

### 有翅亞綱

Subclass Pterygota

翅を有するか、或は翅は退化して存しないが、翅を存しない場合でも無翅亞綱に屬する昆蟲の如く腹部に基節小柄、小囊、跳躍器、腹管等を有しない。腹環節の數は精々八個より少ない事はない。多くは大きい變態をする。

### 蜉蝣首目

Superorder Ephemeroidea

### 蜉蝣目

Order Ephemeraida

一般に繊弱な昆蟲で、觸角は甚だ短く、第一節は肥大し、他は剛毛狀を呈する。口器は退化する。前後兩翅は同様の構造を有して居るが、後翅は前翅より甚しく小さく、時としては全く消失して居る。静止の際には背上に垂直に疊む。腹部末端には多數の環節から成る二本の細くして長い尾毛と、且つ、通常之れよりも短かい一本の鞭狀附屬物とを有する。

多くは卵の態で産まれるが、稀に幼蟲の態で産まれる事もある。幼蟲は通常よく發達せる觸角を有し、口器は發達して咀嚼に適する。脚は六本共よく發達し、跗節及び爪は各一個より成つて居る。多くの環節は其の背面の方に氣管腮を有し、尾端には環節から成る長い尾毛と鞭狀附屬物とを有する。前變態をする(第十一圖)。

成蟲の壽命は短かいが、然し一般の人が唱へて居る程短かくはない許りでなく、中には相當に長く二十日間許りも生きて居るものもある。幼蟲の時代は非常に長く一年乃至三年位なのが多い。多く流水中の石に附着して居るが、中には泥土の中に棲むものもあつて、肉食のものと草食のものとのある。實用上大して重要なものではないが、豚や魚類の食となつたり、肥料となつたりする。

熱帯から寒帯に迄分布して居るが、溫帯地方で山の多い地方に一番多い。  
本目に屬するものは只一科ある(第十圖)。(モンカゲロウ *Ephemerella*。シロハラカゲロウ *Baetis*。フタバカゲロウ *Cloeon*).....カゲロウ科 *Ephemeroidea*

### 蜻蛉首目

Superorder Libelluloidea

### 蜻蛉目

Order Odonata

成蟲は細長い昆蟲で、形は概して大きく、飛翔力が強い。頭部は大きくして自在に動き、甚だ大い複眼と三個の單眼とを有する。觸角は微小で、剛毛状を呈し、基部は肥大して居る。口器は甚だよく發達し、大顎は強い。前胸は小さくて遊離し、中後兩胸は癒着し、側板は甚だ大きく、胸板竝に背板は甚だ小さい。翅は前後共殆ど相似て、柔かく、膜質で、決して疊まれない。靜止の際には水平に伸ばされるか、或は垂直に斜に後方に立てて置かれる。脈相は甚だ複雑で、横脈多數で網状を呈し、亞前緣脈の終る處は結節となり。徑脈と肘脈及び中肘と肘脈との間には基部に近く特有の横脈及び三角室を有し、徑脈分枝  $R_1$  は中脈の前半の分枝を横斷して走り  $M_2$  と  $M_3$  との間にある(第十二圖)。脚は三對共に同形で、比較的柔かく、跗節は三節からなる。腹部は細長く、第十一節は甚しく退化し、種々の形をして一節より成る附屬物を有する(第十三圖)。變態は不完全である。

卵は塊状或は個々に水草の表面水草の組織中或は陸生植物上に産まれる。幼蟲の形は色々あるが、通じて下唇は扁平で伸長して一種特有の假面を成して居る(第十四圖)。觸角は多くの環節から成り、複眼及び單眼を有する。脚はよく發達し、或は歩行に、或は開掘に、或は游泳に適し、跗節は三個、爪は二個より成る。翅の幼芽を有する。呼吸は腹部末端にある三本の葉狀附屬物或は腮によつて行はれる(第十五圖、第十六圖)。

多數の種類を含み、寒帶地方に棲むものも若干はあるが、概して熱帶地方は種類に富んで居る。

幼蟲時代には往々小魚等に害を加へる事があるが、概して成蟲となつては他の昆蟲を食ふ事が多いので有益とされて居る。

- 一 後翅の臀部甚だ廣くして前翅と異つて居る。  $M_1$  と  $C_u$  との間には三角室  $T_1$  竝に三角上室  $H_1$  とを有して居る。(第十二圖)(Suborder Anisoptera).....四
- 後翅と前翅とは全く、或は殆ど同形を呈し、  $M_1$  と  $C_u$  との間には三角室を有せずして種々の形をした單一の四角室を有する。(第十七、第十八圖).....二
- 二 複眼は雄にあつては頭頂で甚だ近接し(第十九圖)。雌にあつては相離れて居るが、然し眼の幅以上離れては居ない(第二十圖)。胸部は頑丈で、腹部は末端に近く肥大して居る(第十八圖)(ムカシトンボ Epiphybia)(Suborder Anisozygoptera).....ムカシトンボ科 Epiphybiidae
- 複眼は雄、雌共に眼の幅以上離れ、(第二十一圖)。體は細長く、腹部は末端に近く肥大して居ない(第十七圖)(Suborder Zygoptera).....三
- 三 結節は基部に遠く、結節前の横脈は多數ある(第二十二圖)(カハトンボ Mnais。ハグロトンボ Calopteryx).....カハトンボ科 Calopterygidae

結節は基部に近く、結節前の横脈は僅かに二本、稀に三本乃至五本あるに過ぎない(第二十三圖)(ハラナガイトトンボ *Laetes*。グンバイイトトンボ *Psiloeemis*。オホイイトトンボ *Agrion*)  
 .....イトトンボ科 *Agrionidae*  
 四 前縁室及び亜前縁室にある結節前の横脈は大多数喰ひ違つて一致して居ない(第廿四圖)下唇鬚は二節から成つて居る(ギンヤンヤ *Anax*。ウチハトンボ *Ictinus*。オニヤンヤ *Antogaster*。サナヘトンボ *Gomphus*)  
 .....ヤンヤ科 *Aeshnidae*  
 前縁室及び亜前縁室にある結節前の横脈は大多数喰ひ違はずに一致して居る(第二十五圖)下唇鬚は一節から成つて居る。(ウスバキトンボ *Pantala*。ミヤマアカネ *Sympetrum*。シホカラトンボ *Orthetrum*)  
 .....トンボ科 *Libellulidae*

積翅首目 Superorder Perlariae

積翅目 Order Perlariae

體は柔かく、大きさは中等なものから可なり大きいものまである。頭部は基部廣く、自在には動かないで、多少扁平である。觸角は絲狀を呈し、眼と口との間に發して、長くして多數の環節から成つて居

る。口器は咀嚼に適して居るが大抵幾分退化して居る。胸部の三節は殆ど同大、癒着して居ないで背板は大い。翅は四枚あるが、稀に甚だしく退化して居る事もある。四枚の翅は同様の構造を有し、柔くして透明で、前翅は幾分後翅より長いが、後翅は多くの場合臀部が多少擴大して且つ疊まれる。通常多數の翅脈を有する(第二十六、第二十七圖)。静止の際には翅は疊まれて腹背上に水平に重ねて置かれる。脚は三對共に同様で、細長くして、跗節は三節から成つて居る。腹部末端にある尾毛は多くは長くして多數の環節から成つて居るが、多小退化したり、或は不均齊な場合も屢々ある。變態は不完全である。

卵は水中に生まれ、幼蟲(第二十八圖)は食肉性で、形は成蟲に似て居るが、よく發達した咀嚼口を有する。尾毛は長く、多數の環節から成つて居る。腹部末端の中央に尾毛狀の附屬物を缺いて居るが、脚の基部及び體に腮を生じて居る事が屢々ある。多くは急流に棲んで居る。

相當廣く分布して居るが、温帶地方に種類が多く發見されて居る。(カハゲラ *Parla*。アミメカハゲラ *Peronarcy's*。ヲナシカハゲラ *Zemura*)  
 .....カハゲラ科 *Perlidae*

奇蟲首目 Superorder Embiidea

## 奇 蟲 目 Order Embiodes

細長い昆蟲で、雄は通常翅を有するが雌は翅を缺く。頭部は自在に動き、比較的大くして、前口式である。複眼を存するも單眼を缺く。觸角は中等の長さで多數の環節から成り、口器はよく發達して咀嚼に適する。胸部は細長く固く癒着せずして、前胸は中後兩胸より小さい。四枚の翅は殆ど同様で、翅脈は一般に可なり退化して居る。靜止の際には腹背上に水平に置かれる。三對の脚は體の側面に附いてよく發達し、三個の跗節と二本の爪とを有して居るが、後脚は他よりも強く、又前脚の第一跗節は膨大して中に一種の線を藏して居る。腹部は胸部と其の長さが殆ど同じで、二節から成る短かい尾毛（雄に於ては常に左右不均齊）を有して居る。變態は漸進である。

幼蟲も成蟲も共に植物質を食つて居ると云はれて居る。主として熱帶地方に産し、本邦では長崎、鹿兒島以南に多く産する。

一 左右の尾毛は不均齊の度が著しくなく、左方のものは簡單で、圓筒形で、眞直か、或は少しく彎曲し、或は棍棒狀を呈し、内側に鋸齒を有して居ない。翅脈は甚しく退化して居る（第二十九圖）（シロアリモドキ *Oligotoma*）……………シロアリモドキ科 *Oligotoridae*

尾毛は不均齊の度が著しく、左方のものの第一節は色々な形で、通常内側に鋸齒を有する。

翅脈は完全なのが普通である（第三十圖）（ソナムシ *Embia*）……………ソナムシ科 *Embiidae*

## 直 翅 首 目 Superorder Orthoptera

口器は咀嚼に適するのを基本として居るが、吸收に適する様に變つて居るものもある。脚の基節は甚しく膨大して居る事はなく、前胸は遊離し、他は固く結合して居る。雌は多くの場合よく發達せる産卵管を有して居る。觸角並に脚は常によく發達して居る。變態は完全でなく漸進である。元來水棲のものはないが第二次的に水棲に適するものが僅かに存する。次の五目を有するが本邦には中四目を産する。

## 跳 躍 目 Order Saltatoria

中等乃至大形で、成蟲は翅或は翅の退化せるものを有して居るが、稀に全然無翅のものもある。頭部は垂直で、觸角は多數の環節から成り、複眼並に一個乃至三個の單眼を有するのが通常である。口は咀嚼に適する。體は多くの場合多少側扁か、或は少くとも断面は圓筒形をなして居るが、扁平なる



事は決してない。胸部の環節は全然癒合して居ないで、明瞭に區分せられて居るが、中後兩胸は固く結合し、前胸は他より著しく大で、背板は鞍狀で著しく大い。翅は四枚あつて、前翅は革質で硬く、後翅は膜質で柔かく、大い扇狀の内縁部を有するのが常であるが、時としては翅が多少或は全く退化して居る。三對の脚はよく發達し、前中兩脚は多く同形で歩行に適して居るが（稀に前脚の開掘に適し居るものがある）、後脚は其の腿節が長く且つ肥大して跳躍に適して居る。跗節は一乃至五節からなる。腹部は通常大きくして、通常尾毛を有し、雌は産卵管を有する。

成蟲も幼蟲も共に植物質又は昆蟲を食とし、地の上、植物の上、或は地中、洞穴の中、其他隠れた場處等に生活して居る。稀には水面上或は水中に居る事の出来るものもある。

- 一 觸角は通常體よりも短かく、一般に絲狀で決して末端に向つて明かに尖つて居ないが、時として扁平な事がある。單眼は三個ある。跗節は多くとも三節、産卵管は短かい。聽覺器が存するならば腹部の基部にある……………二

- 觸角は通常體よりも長く、鞭狀を呈して、末端に向つて微かに尖つて居る。單眼は缺けて居る事が屢々して、産卵管は通常長い。聽覺器は前脛節の基部に近く存するのが常である……………三
- 二 跗節末端には褥盤を有し、前胸の背板は腹部の基部以上には伸長して居ない(第三十一圖)。前

翅は通常よく發達して居る(第三十二圖)。(イナゴ *Oxya*。トノサマバッタ *Pachytylus*。ツチナイゴ *Aoridium*。シャウリヤウバッタ *Tryxalis*)……………バッタ科 *Acrididae*  
 跗節末端には褥盤を缺き、前胸の背板は腹部全部を被ふまで伸長して居る(第三十三圖)。前翅は退化し、後翅の基部に鱗片狀となつて存する(第三十四圖)。(ヒシバッタ *Tetix*)……………ヒシバッタ科 *Tetigidae*

- 三 跗節は四節から成り、産卵管は通常長くして劍狀を呈し、單眼は一般には缺けて居る。前翅の存する時には兩側は傾斜して居る(第三十五、第三十六圖)(クビキリバッタ *Coreocephalus*。ギリギリス *Gompsocleis*。ウイオロムシ *Hexacentrus*。クツムシ *Mecopoda*。ツノムシ *Planeroptera*。マダラオカマコホロギ *Diestrumena*)……………ギリギリス科 *Loasidae*  
 跗節は三節、産卵管の存する時には突出して針狀を呈して居るが、時としては上方に曲つたり、或は先端が膨大して居たりする。前翅は存在する時には上面扁平で兩側は急激に下方に曲つて居る……………四

- 四 前脚は多少廣くなつて開掘に適して居る。雌は産卵管を缺いて居る……………五  
 前脚は細くして歩行に適して居る。雌は針狀の産卵管を有して居るが、時として小さくなつて

居る事もある(第三十七圖)(エンマコホロギ *Grylodes*、ヤンムシ *Caopyryphus*、スズムシ *Homoeryllus*、カンタン *Oecanthus*、アリツカコホロギ *Myrmecophilus*)…コホロギ科 *Gryllidae*

五 單眼は二個在つて大い。前脛節は先端に向つて大くなつて、外側は鋸齒状を呈して居る。後腿節は殆んど膨大して居ない。跗節は三節からなつて居る(第三十八圖)。(ケラ *Gryllotalpa*) ……………ケラ科 *Gryllotalpidae*

單眼は三個あつて小さい。前脛節は殆んど先端に向つて大くなつて居ないが、先端には三、四本の強い刺を有する。後腿節は甚しく膨大し、跗節は一節から成つて居る(第三十九圖)。(ノミバツタ *Tridactylus*) ……………ノミバツタ科 *Tridactylidae*

竹節 蟲 目 Order Phasmida

中等の大きさのものから甚だ大形のものまであつて、大抵は樹枝、樹葉の形態をして居る。頭部は稍水平に置かれ、基部は大いが、自在に動く。口器は幾分前方に置かれ、大腮は強くして咀嚼に適して居る。複眼はよく發達し、單眼は往々缺ける事がある。觸角は多數の環節から成り、時としては甚だ

長く、珠數状を呈したり、或は櫛齒状を呈したりするものがある。前胸は甚だ短く、中胸は多くの場合甚しく長くして後胸と癒着して居る。基節は小さくして離れ、脚は歩行に適して居るが、前脚の甚だ長くなつて居るものや、後腿節の肥大して跳躍に適するものがある。跗節は五節を通常とするが四節の場合もある。前後翅は不同で、前翅は多く後翅より甚しく退化して居るが、全然無翅のものも亦中に多い。第一腹節は後胸と密着して所謂前伸腹節を形成し、時としては全く融合して居る事もある。尾毛は多く短くして一節から成つて居る(第四十圖)。

卵は比較的大くして個々に産み放され、硬い卵殻を有するので別に保護されない。植物を食ふて生きて行くので、中には實用上害蟲として認められるものもある。温帯から熱帯に分布して居るが、熱帯地方には特に多い。

(ナノフシ *Phraortes*、トゲナノフシ *Acanthoderus*)……………ナナフシムシ科 *Phasmidae*

疊 翅 目 Order Dermaptera

多少扁平で、大さは中等である。頭部は自在に動き、前口式で、胸部からは明瞭な縫によつて區分

されて居る。複眼は存するも、單眼は退化して居る。觸角は絲狀或は珠數狀を呈し、基節は大きく、多數の環節から成つて長い。口は咀嚼に適し、大腮は可なり大きくして齒を有する。前胸は扁平、自在に動き、中後兩胸は固く結合して居る。基節は小さくして離れて居る。三對の脚は同形で、跗節は三環節から成つて居る。前後翅は甚だしく異なり、時としては退化して居るか或は全く缺けて居る。前翅は短くて硬い覆翅となり、後翅は大きくして、畧圓形を呈し、縦横に疊まれて前翅の下に置かれ僅かに現はれる。第一腹節は後胸と固着し、尾毛はよく發達して動かし易く、若干の幼蟲を除いては皆環節を有せずして釘拔狀を呈して居るのが普通である(第四十一圖)。

卵生、陸棲の昆蟲で、或るものは植物質を食ひ、又或るものは肉食をするが、特殊の場合の他は一般に實用上大切なものではない。

分布區域は廣いが、熱帶地方は特に種類に富んで居る。

(ハサニムシ *Anisobas*。 オホハサニムシ *Labidura*。 クギスキハサニムシ *Fo ficula*。 エゾハサニムシ *Tabia*).....ハサニムシ科 *Forficulidae*

Order *Diploglossata*

扁平、無翅の昆蟲で齧齒類に寄生して居る。頭部は水平で、自在に動き、下口式で、口は咀嚼に適して居る。觸角は短くして、眼を缺いて居る。前胸は大きくして、遊離し、脚は短くして強く、跗節は三節から成り、基節は小さくして離れて居る。尾毛は長くして鞭狀であるが、環節から成つて居ない。變態は漸進である(第四十二圖)。

本目には現在アフリカ産の只一科 (*Hemimeritidae*)、一屬 (*Hemimeris*)、一種 (*talpodes Walker*) が發見されて居るに過ぎないので、本邦には勿論未だ發見されなす。

總 翅 目 Order *Thysanoptera*

微小の昆蟲で、細長くして、多くは多少扁平である。頭部は基部の幅廣く、下口式で、大きな小眼の集まりから出來て居る眼(聚眼)と、多くの場合三個の單眼とを有して居る。口器は吸収に適し、不均齊の圓錐形を形成して居る。前胸は自在に動き、他の二節より大きく、中後兩胸は癒合して居る。基節は小さく、遠く離れ、前脚は多くの場合膨大して居る。跗節は一箇乃至二箇の環節から成り、二本の爪の間には小胞を存して居る。翅は缺けて居る事が屢々であるが、存する時には四枚の翅は殆んど同形で、細長く、縁には長い毛を密生し、精々一、二本の縦走脈及び時としては一本の短かい臀脈

を有するに過ぎない。第一腹節は短かくして後胸と固く結合し、尾毛を缺いて居る。雌は屢々第八及び第九腹節に産卵管を存する。

植物の液汁を吸収するので害蟲とされて居る。廣く分布して居るが、歐州竝に北米は最も種類に富んで居る。

雌は鋸状の産卵管を有して居る(第四十三圖)。腹部末節は雌に於ては圓錐形で、雄に於ては圓くなつて居る。觸角は六節乃至十節から成つて居る。翅の面には毛を生じ、前翅は幾分柔くして、多くの場合二本の顯著な翅脈を有して居る(第四十四圖)。(アザミウマ *Thrips*。シマアザミウマ *Aeolothrips*).....アザミウマ科 *Thripidae*

雌は産卵管を有しない。腹部末節は雌雄共に管状である。觸角は七乃至八節から成つて居る。

翅の面には毛を生じて居ないで、前翅には一本の退化せる翅脈を有するのみである(第四十五圖)(クダアザミウマ *Phloeothrips*).....クダアザミウマ科 *Phloeothripidae*

蜚 蠊 首 目 *Supero der Blatteformia*

扁平で、基節は多少大く、雌には産卵管がない。觸角、脚はよく發達して居る。變態は漸進である。

本首目は現在七目を含んで居るが、本邦には其の六目を産する。

蜚 蠊 目 *Order Blattarine*

大さは小さいものから可なり大いものまであつて、卵形で、甚だ扁平である。頭部は自在に動き、下方竝に後方に強く傾斜して居るために、丈夫な口器は後方に置かれ、全部或は殆ど全部前胸の下に隠れて居る。觸角は多數の環節から成つて長い。單眼は通常二個ある。口は咀嚼に適し、大腮は強くして齒を有する。前胸背板は擴大して多少圓板状を呈し、自在に動く。中後兩胸は畧同大で、明瞭に區分せられて居るが、自在に動かない。基節は甚だ大で相近接し、三對の脚は同形で、走行に適し、多くの距を生じ、趾節は五節から成る。前後兩翅は多く共によく發達して居るが、甚しく異なつて居て、前翅は硬化して翅脈は不明瞭となり、後翅は柔くして翅脈が明瞭である(第四十六圖)。然し翅の甚しく短小となつて居る場合や全然缺けて居る場合もある。尾毛は存在し、環節から成つて居る(第四十七圖)。

多くは暗い處に棲み、其の食物は色々で、動物の屍體、或は人類の食物又は食物原料であるから、室内害蟲として取り扱はれて居る。又中には一時的であるが、水中に居る事の出来るものもあるし、

或は又蟻、蜂と共に棲んで居るものもある。主として卵生であるが、中に胎生のものもある。蜚蠊目は熱帯地方には甚だ多く、温帯の北部には僅かに存し、寒帯地方には全く居ないものであるが、世界共通となつて居る種類が多い。

(ワモンゴキブリ *Periplaneta*。コバネゴキブリ *Blatta*。チャバネゴキブリ *Phyllodromia*).....ゴキブリ科 *Blattidae*

蠃 螂 目 Order Mantodea

形は中等のものから大形のものまであつて、多くは細長くして扁平である。頭部は垂直で自在に動き、前胸に被はれない。口器は咀嚼に適して下方に向ひ、觸角は多数の環節から成つて、往々櫛齒を有する事があるが、多くは絲狀である。三個の單眼の顯著な場合が多い。前胸は自在に動き、伸長して居る場合が多く、時としては擴大して居る事もある。中後兩胸は殆ど同様で、明瞭に區分されて居るが動かない。基節は大い。前脚は模範的の捕獲脚と變化し、中後兩脚は歩行に適し、跗節は五節から成つて居る。前後翅は不同で、前翅は後翅よりも多少硬化して居る場合が多く、後翅は内縁部が擴大して居る。静止の際には腹部の上に平に重ねて置かれる。翅は時としては多少退化して居る事もあ

る。腹部末端には常に多少長くして環節を有する尾毛を有する(四十八圖)。

地上樹上にあつて他の昆蟲を捕食するを常として居るが、時として小さい脊椎動物をも襲ふ事がある。

熱帯、亞熱帯地方には種類も多く形も大きいものを産するが、温帯には種類も少く、形もあまり大きいものがない。

(ウスバカマキリ *Mantis*。ハラビロカマキリ *Hierojula*。カマキリ *Tendera*)...カマキリ科 *Mantidae*

等 翅 目 Order Isoptera

小形又は中等の昆蟲で、社會組織の下に生活し、王、女王、職蟲、兵卒の階級がある。頭部は自在に動き、多くは傾斜し、口は咀嚼に適し、下方に向つて居る。大腮はよく發達し、時として甚だ大い。觸角は珠數を呈し、多数の環節から成り、複眼は生殖器の完全に發達せるものにはよく發達して居るが、其の他のものには退化して居るか或は全く缺けて居る。往々單眼を二個有する事がある。前胸は自在に動き、稀に圓板狀に擴大して居るが、背板は常に扁平で長さよりも幅の方が廣い。基節は甚しく大きくして互に近接し、三對の脚は同様で、五又は四節から成る跗節を有する。翅は生殖器の完全に

發達せる雄と雌とは元來存在して居るもので、體よりは餘程長く、四枚共同形で柔く、基部に近く横皺を有し、之れに沿うて翅が脱落する。若い幼蟲、職蟲、兵卒に於ては翅は缺けて居る。腹部は甚しく圓味を帯び、幾分短くして、基部は廣く、短くて環節から成る尾毛を有する(第四十九—第五十圖)。

所謂シロアリと呼ばれて居るもので、あらゆる物を食ふが、木材、土壤、自己の排泄物を好むやうである。従つて木材即ち家屋の害蟲としては恐しいものとなつて居る。

熱帯から溫帶迄分布して居るが、熱帯に著しく多い。

(オホシロアリ *Holotermitopsis*、サツマシロアリ *Calotermitis*、ヤマトシロアリ *Leucotermitis*、イヘシロアリ *Coptotermes*、タカサゴシロアリ *Entermes*) ……………シロアリ科 *Termitidae*

#### Order Zoraptera

微小の昆蟲で、皮膚は柔く、翅を有するものと(第五十二圖)有しないもの(第五十三圖)とある。頭部は自在に動き、口器は咀嚼に適し、下向して居る。大腮は強くして鋸齒を有し、複眼並に三個の

單眼は有翅のものにはよく發達して居るが、無翅のものには缺けて居る。觸角は珠數狀で九節から成り、第一節は長い。前胸は自在に動き、長さよりも幅が廣く、胸部の長さとは略々等しい。基部は大きく、三對の脚は殆んど同様で、跗節は二節より成り、第一節は短かく第二節は長い。後腿節は幾分膨大して居る。翅は落ち易く、細長くして柔く、翅脈は甚しく退化し、毛を生じて居る。腹部は十環節から成り、基部は幅廣く、末端には多くの剛毛を生じ一節から成る尾毛を有する。

本目は樹皮下、地下に棲んで居るもので、ジャワ、セイロン、西部アフリカ、中央アメリカ、北米の南部に産する一科(*Zorotypidae*)、一屬(*Zorotypus*)が發見せられて居るに過ぎない。我國には未だ嘗て發見せられない。

#### 嚙 蟲 目 Order Corrodentia

小形の昆蟲で、頭部は大きくして自在に動き、多くは垂直に置かれてある。複眼は大いが、單眼は在つたり、無かつたりする。觸角は長く、鞭狀或は絲狀を呈して居る。口器は咀嚼に適して居る。前胸は一般に甚だ小さくして中胸背板に覆はれて居る事が多い。基節は可なり大きくして近接し、脚は三對共同様で、歩行に適し、跗節は二節又は三節から成つて居る。翅は柔かい膜質で、後翅は前翅より著

しく小さい(第五十四圖)。時としては翅の退化して居るものもある。静止の際には腹部の上に屋根形に置かれる。腹部は九及至十節から成り、基部は廣く、尾毛は缺けて居る。

主として下等の植物又は動植物質の廢物を食つて生きて居る。

暑い地方に多く、寒帯には居ないものである。

跗節は三節から成る(第五十五圖)(コナムシ *Troctus*).....コナムシ科 *Atropidae*

跗節は二節から成る(第五十四圖)(アリマキモドキ *Psocus*).....アリマキモドキ科 *Psocidae*

食 毛 目 Order Mallophaga

稀に十ミリに達するものがあるが、一般に小形で、甚しく扁平となり、全然翅を缺き、通常キチン質が發達して硬化して居る。頭部は大きくして水平に置かれ、前口式である。腹眼は多少退化せるか、全然缺けて居り、單眼は全く無い。觸角は三乃至五節で、時としては甚だ短くして頭側の凹處に隠れて居る。口器は咀嚼に適し、大腮は強い。前胸は遊離し、中後兩胸は多くの場合小さくして、固く癒着し、時としては腹部と共に一塊をなして居る。脚は同様で、短かくして、基節は可なり擴大して居る。跗節は一乃至二節から成つて居る。腹部は八乃至十個の明瞭な環節からなり、尾毛は缺く。

鳥類、哺乳類の外部に寄生して、羽毛、毛、或は皮膚を食つて生活して居るものであるから、鳥類、哺乳類の存在する處なら世界の何處にも存するものである。従つて其の分布は甚だ均等で、寒帯に居る種類も熱帯に居る種類も全く同一な事が多い。

一 觸角は露出し、絲狀で、三節或は五節から成つて居る。小腮鬚は缺け、大腮は垂直に動き、中後兩胸は通常癒合して居る.....二

觸角は棍棒狀或は球桿狀で、隠れ、四節から成つて居る。小腮鬚は四節から成り、大腮は水平に動く。中後兩胸の境界線は通常明である(第五十七圖)(ニハトリハシラミ *Menopon*。

カモハシラミ *Trinoton*).....ハシラミ科 *Iriothelidae*

二 觸角は五節、跗節には二本の爪を有し、鳥類に寄生する(第五十六圖)(ツノハシラミ *Goniodes*。

マルハシラミ *Gonioptes*。ナガハシラミ *Lipenrus*).....ナガハシラミ科 *Phlopteriidae*

觸角は三節、跗節には一本の爪を有し、哺乳類に寄生する(第五十八圖)(イヌネシラミ *Trichodactes*).....ケモノシラミ科 *Trichodactidae*

蝨 目 Order Siphunculata

小形、扁平な昆蟲で、哺乳類の外部に寄生する。頭部は遊離して、自在に動き、水平に置かれ、前口式で、吸収に適して居る。複眼は退化して一個のレンズと化して居るか或は全く缺けて居る。單眼は無い。觸角は露出して、多くとも五節から成る。胸節は癒合して區分不明で、其の各節の部分も不明である。跗節は一乃至二節から成り、爪は強い。基節は遠く離れて居る。腹部は九節から成つて居るが、時として其の區分不明である。尾毛は無い(第五十九圖)。

哺乳類の外部に寄生して其の血液を吸収するもので、従つて其の分布は哺乳類の分布と一致し、且つ何處でも同種の場合が多い。

(カトシラニ Pediculus。ケシラニ Phthirus。ウマシラニ Haematopinus)……シラニ科 Pediculidae

### 鞘翅 首目 Superorder Coleopteroidea

此の首目は鞘翅目並に撚翅目を含んで居て、前翅は所謂翅鞘(Elytra)に變化せんとする傾向を有つて居るので、従つて實際翅の作用をする後翅を存する後胸が特に著しい發達をして居る。觸角は同様な多數の環節から成るものではなく、跗節の基本數は五節であるが屢々減少して居るものがある。變態は完全である。

### 鞘翅 目 Order Coleoptera

微小なものから大形のもの迄種々あつて一般に硬い。頭部は自在に動き、よく區分されて居る。複眼は缺けて居る事は殆ど無いが、單眼は大抵缺けて居る。觸角の形狀は様々で十一節より多い事は殆どない。口器は咀嚼に適し、大腮はよく發達して居る。前胸は自在に動き、中胸と後胸とは固く結合し、後胸は大抵中胸より大い。前翅は大抵よく發達し、後翅に比して著しく硬くキチン化して所謂翅鞘を形成し、翅脈はないが様々の彫刻を有する場合が多い。静止の際は背上に置かれて左右の翅は中央で一直線上に合し相重なる事はない。後翅は膜質で多く縦横に疊まれるが、往々缺けて居る事がある。三對の脚はよく發達し、多くは歩行に適して居るが、中には開掘、跳躍、游泳に適したものもある。轉節を存する事が屢々ある。跗節は五個から成るのが基本であるが、其れより減少して居る事が屢々ある。腹部の胸部に接する基部は幅廣く、尾毛を缺いて居る。

極く稀に單性生殖をするものもあるが、大抵有性の卵生で、稀に胎生のものもある。幼蟲は様々の形をして居るが、脚や眼は存するものと然らざるものとあるし、中には多少變化した尾毛を有するものもある。水棲のものでは氣管腮の存する場合もあるが、多くは矢張り氣門で呼吸される。蛹は多く



環節が自在に動くやうに出来て居る。

鞘翅類には陸棲のものも水棲のものもあつて、昆蟲類中では種類の最も多いものである。而して其の分布區域も寒帯から熱帯に、陸上から水中に世界の至る處に居ない處はない。

一 翅は少くとも一對は存する。脚及び觸角はよく發達して居る……………二

翅は全く缺けて居る。脚及び觸角は甚しく退化して居るか、短かいか、或は全然缺けて居る……………一三三

二 前翅は甚しく短く、後方は殆ど直線狀に切られ、後翅を覆ふて居るが、腹部の大部分は露出して居る(第六十圖)(アカバハネカクシ *Staphylinus*。オホハネカクシ *Creophilus*)……………ハネカクシムシ科 *Staphylinidae*

前翅は多くの場合腹部全部を覆ふて居るか、或は僅かに尾端に近い環節だけが露出して居るに過ぎなく……………三

三 頭部は眼の前方が多少伸長して、多くの場合吻狀を呈し(第六十三圖、第六十四圖)。其の先端に口器を存する。跗節は四節、或は三節、咽喉縫合線は中央で癒合し、觸角は多く膝狀で球稜狀を呈し、前胸の後側板は胸板と結合し、前胸板縫合線は缺けて居る(ゾウムシ類 *Rhyu. hophora*

……………九

頭部は吻狀に伸長せず。其他の點も異なる……………四

四 觸角の末端に近い多數の環節は腮葉狀となつて居る(第六十八圖)。中後脚の跗節は五節から成つて居る(コガネムシ類)……………一三

觸角は腮葉狀を呈せざるか、或は脚の跗節の数が異なる……………五

五 後脚は游泳に適して居る(第七十圖)……………一五

後脚は游泳に適して居ないで歩行に適して居る……………六

六 跗節の数は五節、稀に前脚だけ四節、或は前脚だけ五節で他は悉く四節の場合もある。且つ退化した環節は一つもない……………七

七 前胸板は後方に顯著な突起を有して、此の突起は中胸板の前縁にある凹處に嵌つて居る(第七十五圖)。體は多く細長くして、頭部は遊離して居るが然し多くの場合著しく縮れて居ない。觸角は多く絲狀、鋸齒狀或は櫛齒狀で、末端の膨大せるものは殆どなく、脚は溝に置かれな

いものが多い。前胸は概して扁平で、後方に擴がつて居る……………一八  
前胸板は後方に顯著な突起を有しない。若しこんな突起を有するならば脚は體の下面にある  
溝に置かれる。其他の點も異なる……………八

八 後胸板には基節の前方で多少離れた處に横斷縫合線が明瞭で(第六十一圖)觸角は簡單な絲狀  
或は鞭狀である。第一腹節は後脚の基節によつて完全に二分せられ、第二、三、四の三節は互に  
癒合して縫合線が不明瞭である(第六十二圖)(カタビロフサムシ *Alosoma*。アヲヲサムシ *Car-*  
*abus*。マイマイカブリ *Darraster*。ハウタンゴムシ *Scarites*。アヲゴムシ *Chlenius*。ゴモクム  
シ *Harpalus*。ミキテランメウ *Pherosophus*。フタツメゴムシ *Labida*。ハンメウ *Cicindela*)  
……………ゴムシ科 *Carabidae*

九 後胸板には基節の前方に横斷縫合線を缺き、其他の點も異つて居る……………二〇  
觸角は膝狀で、多少長い軸を有し、且つ多くは明瞭な球桿狀を呈して居る……………一〇  
觸角は膝狀でない……………一一

一〇 體は圓筒形で、口吻は甚だ短い。脚は短かく、前脛節の外側には鋸齒を生じて居る(第六十  
三圖)(リンゴマルコシクヒ *Xyleborus*。ヤツバコシクヒ *Ips*。ニレノコシクヒ *Scolytus*

a)……………コシクヒムシ科 *Ipidae*  
體は圓筒形でないか、或は口吻が長い。脚は長くして鋸齒を有して居ない(第六十四圖)(コク  
ゾウ *Calandra*。ナシノチョッキリゾウムシ *Rhynchites*。オトシブシ *Atelabus*。マツノキボシ  
ゾウムシ *Pissodes*。コフキノウムシ *Engrathus*)……………ゾウムシ科 *Curetoniidae*  
一一 上唇は缺けて居るか、或は極めて小さい。前翅は腹部と等長である……………一二  
上唇は顯著で、多くは四角形を呈し、縁に毛を生じて居る。觸角は甚だ長いものが多い。前  
翅は腹部の末端に近い環節を覆ふて居ない(第六十五圖)(ヒゲナガゾウムシ *Phloeobius*。シ  
ロヒゲナガゾウムシ *Anthrribus*。キノコヒゲナガゾウムシ *Coccorhinus*)……………  
……………ヒゲナガゾウムシ科 *Anthrribidae*  
一二 細長い昆虫で、眞直に突出した口吻を有し、觸角は様々であるが、多くは球桿狀を呈して居  
ない(第六十六圖)(ミツギリゾウムシ *Baryrhynchus*)……………ミツギリゾウムシ科 *Brachidae*  
多くは肥大して、口吻は下向し、觸角は球桿狀である(*Apion*)……………ゾウムシ科  
一三 觸角は膝狀で末端腮葉狀を呈し、柄は長い。腮葉は動かない短いが屢々ある。前翅は腹  
部全體を覆ひ、雄は非常に大きい大腮を有するのが常である(第六十七圖)(ミヤマクハガタ *Tene-*

anus。ノコギリクハガタ *Cladognathus*。クハガタムシ *Macroderus*。クハガタムシ科 *Lucanidae*

觸角は膝状を呈して居ない……………一四

一四 觸角末端は捲き込めないで、腮葉は書物の如く環節の收縮によつて疊まれる。上唇は頭楯によつて覆はれて居るか、或は遊離し、前翅は腹部末端に達して居ない事が多い(第六十八圖)(マダコガネ *Aphodius*。センチコガネ *Georhynchus*。カブトムシ *Xylotrupes*。スゲコガネ *Anomala*。マメコガネ *Popillia*。ビロウドコガネ *Seria*。カナブン *Rhomborhina*。ハナムグリ *Cetonia*。フキコガネ *Melolontha*。トラハナムグリ *Triplaris*)……………コガネムシ科 *Scarabaeidae*  
觸角末端は捲き込まれるので、動かない腮葉が疊まれる。上唇は動き。前翅は腹部末端を覆ふて居る……………ヒラタクハガタムシ科 *Passalidae*

一五 複眼は二分せられ、中後兩胸は短くして扁平な權状と化して居る。觸角は短大で、前脚は伸長して居る。前翅は幾分短くなつて居る(第六十九圖)(ミヅスマシ *Gyrinus*。オホミヅスマシ *Dineutes*)……………ミヅスマシ科 *Gyrinidae*  
複眼は二分して居ない。後脚だけ長い權状となつて居るが、稀に中脚の權状と化して居るものもある。或は長い游泳毛だけを有するものもある……………一六

一六 觸角は細くして同様の環節から成つて居るものが多いが、稀に環節の擴大して居るものもある。小腮の外葉は環節を有し、鬚は通常である……………一七  
觸角は短くして不同の環節から成り、末短の方が肥大して居る。小腮鬚は大い(第七十圖)(ガムシ *Hydrophilus*)……………ガムシ科 *Hydrophilidae*

一七 後胸板は基節の前方に横斷縫合線を有して居ないで、游泳脚は極めてよく發達し、伸長して扁平となり、距は大きく、爪は小さい(第七十一圖)(ゲンゴロウ *Cybister*。ゲンゴロウダマシ *Dytiscus*。スナムグリゲンゴロウ *Ilybius*)……………ゲンゴロウ科 *Dytiscidae*  
後胸板は基節の前方に横斷縫合線を有し(第七十四圖)。脚には游泳毛だけを有して居る(第七十二圖)(ヒメコガシラミツムシ *Haliphys*)……………コガシラミツムシ科 *Haliphidae*

一八 小形の昆蟲で爪は甚だ大きく、觸角は様々で、短くして、絲状或は球桿状などである(第七十三圖)(ホンゴロムシ *Stenelmis*)……………ゴロムシ科 (*Paridae*) *Dryopidae*  
概して大きくして細長い昆蟲で、爪は普通で、觸角は簡單であるか、或は鋸齒状又は櫛齒状である……………一九

一九 前胸は前翅の基部に向つて傾斜し、多くは背腹の方向に甚だ動き易く、後方は鋭角をなして

- 居る(第七十四・七十五圖)(シモフリコメツキ *Corymbites*。オホアカコメツキ *Elatar*。カバイ  
ロコメツキ *Agriotes*).....コメツキムシ科 *Elatridae*
- 前胸は前翅の基部に向つて傾斜して居ない。甚だ動き易くもない(第七十六圖)(タママムシ *Chrysochiron*。オバタママムシ *Chalcoiphora*。クロタママムシ *Buprestis*。ケヤキナガタママムシ *Agrius*)  
.....タママムシ科 *Buprestidae*
- 二〇 觸角の鞭節の環節は顯著に分たれて居る.....二一  
觸角の鞭節の全部又は殆んど全部が一大塊となつて環節が不明瞭となつて居る(第七十七圖)  
(ツノブトゴミムシ *Pausinus*).....ツノブトゴミムシ科 *Pausidae*
- 二二 觸角は顯著な膝狀を呈し、前胸背板は翅鞘から強く溢れて區分されて居ないで後方に擴がつ  
て居る。前翅の後方は截斷せられ、脚には鋸齒を有して居る。胸板は甚だ太くして、基節は  
遠く離れ、觸角末端は球桿狀を呈して居る(第七十八圖)(ヒラタエンママムシ *Hololepta*。ヒ  
ンママムシ *Hister*).....ヒンママムシ科 *Histeridae*
- 觸角は膝狀をなさないか、或は不明瞭な膝狀をなして居る。其の他の點も異なる.....二二  
脚は體の下面にある溝に置かれ、頭部は甚しく引き込め得られる.....二三

- 脚は體の下面にある溝に置かれぬ.....二四
- 二三 前翅は接合線に極めて密接して明瞭な細線(少くとも後方だけでも)を有し、多くは前頭の  
中央に一個の單眼を有して居る(第七十九圖)(ハラジロカツラブシムシ *Drimetes*。チビマル  
カツラブシムシ *Anthrenus*).....カツラブシムシ科 *Dermestidae*
- 前翅は接合線に密接して走る線を有せずして、單眼もない(第八十圖)(ツヤマルトゲムシ *Implocaria*。カラフトマルトゲムシ *Byrrhus*).....マルトゲムシ科 *Byrrhidae*
- 二四 觸角は顯著な棍棒狀か或は球桿狀を呈して居る.....二五  
觸角は棍棒狀でも球桿狀でもなく、絲狀、鋸齒狀、櫛齒狀、扁平、鋭つて居るか、或は不正形、  
或は著しく短くして殆んど突出して居ない.....五一
- 二五 前翅は少くとも腹部末節を覆ふて居ない.....二六  
前翅は腹部末節を覆ふて居るが、若し然らざる時には甚しく球形で肥大し、脚には多數の鋸  
齒を有し、鬚が大い.....三六
- 二六 後胸板には其の後縁から少し離れて横斷縫合線を有する (*Protopausinus*).....  
.....ツノブトゴミムシ科

- 後胸板には横断縫合線がない……………二七
- 二七 第一第二腹節の背板は柔かいが他は硬い。頭部は突出して居る(第八十一圖)(Anthobium, Talarimaum)……………ハネカクシムシ科
- 遊離して居る背板は硬くキチン化して居る……………二八
- 二八 少くとも一、二の跗節は下面に小片を有して居る……………二九
- 小片を有しないが、屢々裏に毛を生じて居る……………三〇
- 二九 多くは扁平な昆虫で、前胸背板は多少圓板状である。前翅は弛く置かれ比較的柔かい。腹部は七乃至八個、稀に六個の腹板を有する……………ホタル科 Telephoridae
- 圓筒形で、前胸背板圓板状でなく圓く隆起して、明瞭な兩側がない。腹板は五乃至六個ある……………カツコウムシ科 Cleridae
- 三〇 小腮鬚は顯著で、末節前の環節は膨大し基節は小さい錐状か或は退化して居る場合が多い。(第八十三圖)(コケムシ Scydmaenus)……………コケムシ科 Scydmaenidae
- 小腮鬚は通常である……………三一
- 三一 前胸は前方に向つて幅の広い場合が多く、觸角の膨大部は多環節から成り、口器は強大である……………

- ……………三二
- 前胸は後方に向つて甚だしく幅が廣くなつて居るか、或は口器が僅かに凸出し、觸角の膨大部が短かいか又は僅かに棍棒状を呈して居る……………三三
- 三三 頭部は基部の幅が廣くして前胸に嵌入し、脚は短くして多數の鋸齒を有する。前脚の基節は短くして横置され僅かに突出して居る……………エンマムシモドキ科 Synhelinae
- 頭部は遊離し、前脚の基節は著しく突出し、栓状を呈して居る(第八十四圖)(シテムシ Neoprophorus)……………シテムシ科 Silphidae
- 三三 前胸は甚だ幅廣く、前方は通常截ち切られて居る。前脚の基部は大きくして突出し、脛節端の距は大い。大形又は中形の昆虫である(第八十五圖)(ヒラタシテムシ Silpha)……………シテムシ科
- 前胸は幅が甚しく廣くなく、多くは幅が狭いか或は前方が截ち切られて居ない。脛節の距は顯著でない。或は頭部が大いか其他が異つて居る……………三四
- 三四 腹部は少くとも中央に於ては前胸背板よりも著しく廣く、觸角は長くして、棍棒部は弛く連結して居る。脚は長い(第八十六圖)(テラキノコムシ Saphidium)……………テラキノコムシ科 Saphididae

- 腹部は前胸背板と同じ幅であるが或は狭い。他の點も異なる……………三五
- 三五 短くして幅が廣く、多くは胸部が廣くして、觸角の膨大部は多數の環節から成つて居る。前脚の基部には遊離せる小轉節を有する(第八十七圖)(Ptyoplagus)……テヲキスヒムシ科 Nitidulidae 體は細長く、觸角の膨大部は小さい。前脚の基部には遊離せる小轉節がない(第八十九圖)(Mionotoma)……………ヒラタムシ科 Ctenichneumonidae
- 三六 咽喉縫合線は消失し、多少圓筒形を呈して居る。前胸背板には顯著な側縁がなく、前胸の基部は突出し、脚は鋸齒を有する……………コシクヒ科
- 三七 咽喉縫合線は存在し、其他も異なる……………三七
- 三七 跗節には下向する葉狀片を有するか(第一百十七圖a)或は末節前の環節は二葉になつて居るか、或は末節は膜質の附屬物を有する……………三八
- 四〇 跗節は簡單であるか、或は擴大して、下面が屢々扁平である……………四〇
- 三八 前胸は翅の基部の前方で狭くなつて居ない。觸角の膨大部は三節から成り、頭部は廣い。小形、長形の昆蟲である……………キスヒモドキ科 Bythiridae
- 前胸は翅の基部の前方で狭くなつて居る。或は觸角の膨大部は多數の環節から成つて居る……………

- ……………三九
- 三九 腹部腹板は六個或は其れ以上ある。體、殊に縁のつけられてある前胸は一般に扁平で、前翅は弛く置かれて柔かい。前脚の基節は圓錐形である……………ホタル科
- 腹部腹板は六個ある。體、殊に縁をつけられない前胸は圓筒形である(第九十二圖)(カツコウムシ(Clerus)……………カツコウムシ科
- 四〇 小腮鬚は甚だ顯著で、特に大きくして長く、突出して居るか、或は末節前の環節は甚しく大きく、末節は退化して居るか又は針狀である……………四一
- 小腮鬚は全體として見れば普通で、多くの場合突出して居ない。其の末節或は末節前の環節は往々肥大して居る……………四二
- 四一 小腮鬚の末節は普通であるか又は大きくなつて居る。觸角は眼の前方で頭部の前縁の下方に發し、前胸は廣くして短く、體は隆起して居る(第九十三圖)(セスジガムシ Helophorus。マダラガムシ(Ceryon)……………ガムシ科
- 小腮鬚の末節は小さいか或は退化して、末節前の環節は大い。觸角は頭部の前方顔面上に發し、胸部は特に幅廣くなく、多小翅から溢れて區分せられる。頭部は遊離して突出して居る……………

- ..... コケムシ科
- 四二 複眼の前縁の近くに單眼を有する。頭部は遊離し、脚の爪及び爪の生ずる環節は普通の大さである..... カツコウムシダマシ科 Derodontidae 四三
- 單眼はない。他の點も異なる..... 四三
- 四三 爪は著しく大きく、前胸は後方に突起を有し、此の突起は中胸の凹處に嵌つて居る..... ドロムシ科 四四
- 爪は普通である。前胸には突起がない..... 四四
- 四四 頭部は上方から見ると明かに突出し、前胸によつて全く隠されて居る事はない..... 四五
- 頭部は上方から見ると全部、或は殆んど全部隠されて居る..... 四九
- 四五 前脚の基節は著しく圓錐形で、栓状に突出して居る。輪廓は多少圓味を帯びて、決して兩側が平行して居ない。胸部は時として甚だ狭く、觸角は甚だ細くして長い。然し一般に扁平な幅の廣い形をして居る(第九十五圖)(タマキノコムシ Amphioylus)..... シテムシ科
- 前脚の基節は著しく圓錐形を呈して居ないで、球形或は卵形或は横置されて居る。或は其他で異なる..... 四六
- 四六 前脚の基節は横置されて突出して居ない。後脚の基節は遠く離れ、頭部下面には觸角の入る

- 溝がある(第九十六圖)(Cryptartha)..... デヲキスヒムシ科
- 前脚の基節は球形或は卵形で、稀に稍圓錐形のものがある..... 四七
- 四七 觸角は前眼面の兩縁の下方に發し、多くは扁平で前口式の遊離した頭部と、縊れた前胸とを有する(第九十七圖)(コナヒラタムシ Silvanus)..... ヒラタムシ科
- 觸角は前顔面の兩縁の下方に發して居ない..... 四八
- 四八 觸角は複眼の下方に發し、圓く隆起した小昆蟲である..... マルキノコムシ科 Oioidae
- 觸角は複眼の前方又は複眼の間に發し、小髭鬚は多く斧状を呈する(第九十九圖)(Parameo-soma, Cryptophagus)..... オホキノコムシ科 Eroyliidae
- 四九 甚だ小さい光澤を有する昆蟲で、體は隆起して圓味を帯び、短くして多少半球形を呈する..... ヒメハナノミ科 Phaleridae
- ..... 五〇
- 多く體がより大いか、或は光澤を有して居ないで、形も異つて居る..... 五〇
- 五〇 形は甚だ圓味を帯びて居るか或は卵形乃至半球形である。細かに毛或は鱗片を被つて居る。觸角末端の膨大部は短くして大い。胸部は前翅に密接し、前胸は一樣に隆起して居る。腹部腹板は五個で、前顔面の中央には屢々單眼を有する(第一百二圖)(テビカツラブシムシ Atraginus)

- ..... カツラブシムシ科
- 形は圓筒形で、觸角末端の三節は長い。前胸は屢々頭巾状で、一様に隆起して居ない。其他も異なる..... ヲウホンムシ科 *Phindas*
- 五一 後胸板には横斷縫合線がある..... 五二
- 後胸板には横斷縫合線がない..... 五四
- 五二 觸角の鞭節は擴大して扁平となつて居る(第七十七圖)。前翅は多く其の後縁が截斷されて居る..... ツノブトゴミムシ科
- 五三 觸角は簡單なる絲状或は鞭状を呈して居る..... 五三
- 小さい卵形の水棲昆蟲で觸角は可なり短かい。後脚の基節は大きい板状物となつて居る(第四百四圖)(コガシラミヅムシ *Chemilolus*)..... コガシラミヅムシ科
- 細長くして割合に大い陸棲昆蟲で、觸角は前顔面の前方に發し、長くして幾分鋸齒状を呈して居る。頭部は遊離して突出し、幅狭くして縊れ、突起を有する(第五百五圖)(ナガヒラタムシ *Curetes*)..... ナガヒラタムシ科 *Curpedidae*
- 五四 小楯板上には縦走する隆起がある。多くは形が稍大く、圓筒形で柔かい。前翅は短かくなつて居る事が屢々ある。觸角は多少短かく、屢々中央が擴大して居るか或は鋸齒状を呈する。跗節は甚だ細くして簡單である。頭部は遊離して、前脚の基節は長い(第六百六圖)(ツマガゴロツ、シンクヒ *Hylecoetus*)..... ツ、シンクヒムシ科 *Tymexyidae*
- 小楯板上には隆起がない。其他の點も全然異なる..... 五五
- 五五 體は柔軟で、多くは多少細長くして大抵著しく扁平である。前脚の基節は栓状で、腹部腹板は七乃至八、稀に六個から成つて居る。前胸は縁を附けられ、屢々圓板状をなして居る。觸角は兩楯齒状なる事が屢々で、前翅は多少短くなつて居る事が往々あるのみならず、時には全く退化して居る(第九十一圖)(ゲンジボタル *Luciola*、シウカイボン *Telejhorus*)... ホタル科
- 體は硬い。其他も全然異つて居る..... 五六
- 五六 跗節の若干は葉状片を有するか(第九十二圖A)。或は末節前の環節は二葉に分れて居るか、或は末節は膜質の附屬物を有する..... 五七
- 跗節は簡單である..... 六〇
- 五七 後脚の基節には明瞭な小轉節がある..... 五八
- 後脚の基節には小轉節がない..... 五九



- 五八 前脚の基節は甚しく栓状に突出して居ないで、殆んど或は全く相密接して居る。跗節の一乃至四個は葉狀片を有して心臟形を呈して居る。多くは圓筒形で前胸は縁附けられて居ない(第八十二圖)(Tillus).....カツコウムシ科  
前脚の基節は栓状を呈して居ない。其他の點も異なる(第百三圖)(ヘウホンムシ Pinus).....ヘウホンムシ科
- 五九 前脚の基節は遊離した小轉節を有し、觸角は長くして絲狀のものが多く。多くは長形の大い昆蟲である(第百七圖)(ナガハナノミ Dascillus).....ナガハナノミ科 Dascillidae  
前脚の基節には小轉節がない。多くは小形の毛を生じた昆蟲で、觸角は絲狀或は鋸齒狀で細S(第百八圖)(マルハナノミ Cyphon).....マルハナノミ科 Cyphonidae
- 六〇 跗節の末節は特に長くして爪は大きい。觸角は色々で、形は小さい.....ドロムシ科  
跗節の末節は普通である.....六一
- 六一 腹部は特に太く、觸角は珠數狀で、前胸は長くして後方が狭くなつて居る。前翅の肩は尖り、頭部は前口式で胸部から明かに區分されて居る。形は細長く翅鞘の縦線顯著である(第百九圖)(セスデムシ Rhysodes).....セスデムシ科 Rhysodidae

- 腹部は普通で、其他の點も異つて居る.....六二
- 六二 頭部は前口式で口器は自在に前方に突出して居る。甚だ扁平である(第百十圖)(ベニヒラタムシ Cucujus).....ヒラタムシ科  
頭部は多少傾斜し、口器は上方からは見えない。或は甚だ隆起して全く異つた外觀を呈する.....六三
- 六三 前翅は後方が截斷され、觸角の末節は著しく且つ長く毛を生じて居る(第百十一圖)(ケシデヲキノコムシ Scaphosoma).....デヲキノコムシ科  
前翅は後方が截斷されて居ないし、其他の點も異つて居る.....六四
- 六四 觸角の環節は大抵他よりも小で、觸角は絲狀、或は稍々棍棒狀を呈し、澤山毛を生じて居る事が屢々ある。前脚の基節は圓錐形で著しく突出し、前胸は時として甚だ狭いが、廣くして縁を有する場合が多い.....シデムシ科  
觸角の環節は大抵普通で、觸角は鋸齒狀、櫛齒狀を呈する事が屢々ある。或は前胸は頭布狀で頭部を覆ふて居る(第百十二圖)(セマルヘウホンムシ Gibbium).....ヘウホンムシ科
- 六五 跗節は模式的異節、即ち前、中兩脚にあつては五節、後脚にあつては四節(式で現はせば五—

- 五—四)、極めて稀に四—五—四、或は四—四—三である……………一〇二
- 跗節は外觀に於て、或は實際に於て只四—四—四、四—三—三、三—四—四、三—三—三、或は更に少數の環節から成つて居る。若し五節の場合があつても第四、或は第一節、又は兩節共に他節に比し甚しく退化して居る(隱四節、隱三節、四節、三節)……………六六
- 六六 跗節は隱四節、即ち跗節は五節から成るも第四節は甚しく退化して居る。少くとも第三節は擴大して居る……………六七
- 跗節は隱四節でない。觸角は稍々球桿状を呈する……………六七
- 六七 觸角は長く、棍棒状を呈する事はなく、複眼は觸角の基部を部分的に圍む事が屢々ある(第百十三圖)(クワカミキリ *Apion*。ハナカミキリ *Leptura*。ノコギリカミキリ *Prionus*)……………カミキリムシ科 *Cerambycidae*
- 觸角は短くして、多少棍棒状を呈して居るか、或は不正形である。複眼は常に普通で、形は短い場合が多く、細長い事は稀である……………六八
- 六八 咽喉縫合線は顯著である……………六九
- 咽喉縫合線は消失して居る……………コシンクヒムシ科

- 六九 多少圓筒形、前胸は翅鞘よりも狭く、扁平でなく、大抵の場合縁を有しないか、或は僅かに縁を有する。觸角は特に長い事もなく、又簡單に絲状を呈する事もなく、多くは棍棒状、或は扁平にして廣……………カッコウムシ科
- 七〇 形状、胸部、觸角共に異なる……………七〇
- 七〇 觸角は棍棒状でないか、或は只僅かに棍棒状である……………七一
- 觸角は顯著なる棍棒状か、或は球桿状である……………七三
- 七一 短くして、多くは小形の壓縮された昆虫で、觸角は簡單である。後脚の腿節は肥大し、頭部は露出して居る。觸角は顔面の突出せざる側縁に發し、前翅は短くなつて居る(第百十四圖)(マメゾウ *Bruchus*)……………マメゾウ科 *Bruchidae*
- 全く異つて居る……………七二
- 七二 形は通常圓味を帯びて短く、細長くない。複眼は觸角の基部を圍んで居ない。觸角は顔面の突出せざる側縁に發し、多くは長くない。若し長いならば後脚は肥大し、胸部は腹部より狭い。跗節の環節の多くは擴大せる事が屢々て、跳躍脚を有するものが屢々ある(第百十六圖)(ルリハムシ *Melana*。サルハムシ *Plaedon*。アカガネサルハムシ *Aerolium*。イネノド

- ロフヒムシ *Lama*。ウリハムシ *Aulacophora*.....ハムシ科 *Chrysomelidae*
- 形は通常細長く、觸角の基部は一部複眼で囲まれて居る場合が多い。觸角は顔面上で突出せる側縁の下に發して居る。あまり小形のものや、圓球形のものや、又は跳躍脚を有するものはない(第百十五圖)(クロカミキリ *Spondylis*).....カミキリムシ科
- 七三 跗節には遊離せる葉状片を有し(第百十七圖A)、長形小形で、頭部は傾斜し胸部は廣くして隆起して居る(百十七圖)(キスヒモドキ *Byturus*).....キスヒモドキ科
- 跗節には遊離せる葉状片なく、毛を密生せる事が多い。其他の點も異なる.....七四
- 七四 頭部の下方には觸角の入る溝があつて、後脚の基節間の距離は廣い(第百十八圖)(ヒラタケシキスヒ *Epurca*。クリヤケシムシ *Carpophilus*).....デラキスヒムシ科
- 頭部には觸角の入る溝がなく、後脚の基節間の距離は狭いか、或は相接して居る。小鬚の末節は斧状である.....七五
- 七五 爪は基部に鋸齒を有して居る(第百一圖)(ヒメハナノミ *Phalacrus*).....ヒメハナノミ科
- 爪は單一である(第百圖)(キイロオホキノコムシ *Triplax*。コメツキモドキ *Languria*).....オホキノコムシ科

- 七六 跗節は實際は五節よりなつて居るが、第一節は甚だ小さい.....七七
- 跗節は四節又は四節以下からなつて居る.....八三
- 七七 形は多少圓筒形で、前胸は著しく隆起し、側縁は明瞭でない。頭部は傾斜して上方からは殆んど見えぬ(第百十九圖)。前脚の基節は大きくして突出し、鬚は大さが普通である(タケナガシクヒ *Dinoderus*。コマダラナガシクヒ *Posirychnus*).....ナガシクヒムシ科 *Posirychnidae*
- 扁平で巾廣く、頭部は甚しく傾斜せる事は殆んどなくして大抵突出して居る。其他の點も異なる.....七八
- 七八 鬚は甚しく大きく、觸角は短くして顔面の兩側に發して居る.....ガムシ科
- 鬚は著しくなく、其他の點も異なる.....七九
- 七九 腹部末端は露出し、觸角の球桿は甚だ短く、跗節は三節だけ認められる(第一、第三節が小さいため).....ナガヒラタムシ科
- 腹部末端は露出せずして、跗節は第一節のみ小となり、或は觸角の球桿は長く、其他の點も異なる.....八〇
- 八〇 形は細長く、觸角は末端に向つて次第に大きくなり、前胸の前方は列り取られて居ない(第百

- 二十圖) (タケノシムシ科 *Lycetus*).....タケシムシ科 *Lycetidae*  
 形は短くして廣いか、或は小さくして壓縮されて居る。觸角の棍棒部は甚だ細い柄を有する  
 事が屢々あるか、或は前胸の前方は列られて居る.....八一
- 八一 半球形小形の昆虫で、前胸は幅の方が廣くして、著しく隆起し、後方は全く狭くなつて居な  
 いか或は僅かに狭くなつて居る。觸角の棍棒部は密着して居ない(第百二十一圖)(ヒメキノコ  
 ムシ *Sphindus*).....ヒメキノコムシ科 *Sphindidae*  
 形、大きさは種々で、後脚の基節は横置されて扁平で、兩側に達せんとして居る.....八二
- 八二 觸角の棍棒部は大きく、前脚の基節は横置されて居る(第百二十二圖)(コクヌスト *Tenebro-*  
*ids*。オホコクヌスト *Tennochila*。ヒラタシテムシモドキ *Ostoma*)。コクヌスト科 *Tennochilidae*  
 觸角末端は殆んど膨大せずして、珠數状を呈し、前脚の基節は球形である...ナガヒラタムシ科
- 八三 跗節は實際四節であるが、第三節は甚しく小さくなつて居るために三節からなるかの如く見  
 える.....八四
- 跗節の第三節は小さくならないので四節に見えるが、中には實際に三節又は三節以下からな  
 つて居るものもある.....八六

- 八四 腹部には六個の自在な腹板がある。小腮鬚の第二節は著しく膨大して居る。微小な隆起した  
 昆虫である(第百二十三圖)(ニシムシ科 *Corylophus*).....ニシムシ科 *Corylophidae*  
 腹部には五個の自在なる腹板がある。通常小腮鬚の第二節は普通の形で、第二跗節は多くの  
 場合甚しく擴大して居る.....八五
- 八五 中胸の後側板は傾斜せる四角形を呈し、爪は簡單である(ヨツボシテントウムシダマシ科 *Endomychidae*  
*neolopus*。ルリテントウムシダマシ *Cynanges*).....テントウムシダマシ科 *Endomychidae*  
 中胸の後側板は不規則な三角形を呈し、爪は一般に鋸齒を有して居る(第百二十四圖)(ナ、ホ  
 シテントウ *Coccinella*。ヒメアカボシ *Chilocoris*。カメノコテントウ *Ilhene*。ニジユウヤホシ *E-*  
*pilachna*).....テントウムシ科 *Coccinellidae*
- 八六 前、中、後脚共に跗節は四節からなつて居る.....八七
- 前脚の跗節は三節、他は四節よりなる。又は全部三節或は三節以下からなる.....九七
- 八七 體の下面には脚を入れる溝がある。形は多少半球形である.....マルトゲムシ科  
 體の下面には脚を入れる溝がない.....八八
- 八八 前胸は突出して頭部を覆ひ兩側は縁取られて居る。觸角は甚だ短くして極く僅かに突出して

- 居る。小形の壓縮された昆蟲で、高く隆起し、彫刻顯著で頭部は甚しく傾斜して居る。(第百二十五圖)(マルドロムシ *Georyssus*).....マルドロムシ科 *Georyssidae*
- 前胸は突出して頭部を覆ふて居ない。又は甚だ幅廣く、彫刻は甚しく異つて居る。觸角は多くの場合遊離して顯著である。其他の點も異つて居る.....八九
- 八九 頭部は甚しく伸長して鼻状を呈し、大腮は著しく突出し、上唇は大い。觸角は短かく、鞭節は殆んど全部一方に大きくなつて居る。脛節には顯著なる刺を有し、小形、長形で、圓味を帯びたものである(第百二十六圖)(ナガドロムシ *Heterocerius*).....ナガドロムシ科 *Heteroceridae*
- 頭部並びに觸角が異つて居る.....九〇
- 九〇 頭頂には複眼の前方に單眼を有して居る(第九十四圖)(カツコウムシダマシ科 *Derodontus*).....カツコウムシダマシ科
- .....九一
- 頭頂には複眼の前方に單眼を有して居ない.....九一
- 九一 第三跗節迄は等長で二片に分れて居る。甚だ微小な昆蟲で頭部は廣い(ミヂンムシモドキ *Phaenoccephalus*).....ミヂンムシモドキ科 *Phaenoccephalidae*
- 跗節及び其他の點は全く異つて居る.....九二

- 九二 前胸は廣くして縁取られ、後方に向つて狭くなつて居ない。半球形で頭部は僅かに突出し、前脚の基節は圓錐形である.....シデムシ科
- 半球形でなく、其他の點も異なる.....九三
- 九三 細長い、圓筒形である。前胸は隆起して居るが後方は著しく縊れて居る。前脚の基節は大きくして突出して居る.....ナガシンクヒムシ科
- 全く異つた構造を有する.....九四
- 九四 小形で、頭部は極く僅かに突出し、前胸は簡單で前方が圓味を帯び、後方は狭くなつて居ない。前翅と等幅で、兩側は縁取られて居ない。觸角は八乃至十一節から成り、末端の三節は膨大し、複眼の内側に發して居る(第九十八圖)(マルキノコムシ *Ephialtes*).....マルキノコムシ科 *Ephialtidae*
- 頭部は突出し、觸角は八乃至十一節から成つて居る。其他の點も異なる.....九五
- 九五 小形或は中形で、多くは隆起した簡單な卵形である。前胸の後方は狭くもなく又縊れても居ない。基節は近接し、前脚の基節は卵形である。前脚窩は後方が開いて居る。觸角は末端に向つて次第に大きくなつて居るものが多く、頭部は著しい前口式でない(第百二十七圖)(コキ

ノコムシ *Mycetophagus*.....コキノコムシ科 *Mycetophagidae*

異つた構造を有して居る.....九六

九六

中胸の後側板は中脚の脚窩に達して居る。觸角は長く、形は色々である。前脚の基節は大きくして球形を呈し、後脚の基節は横置されて甚だ大い。細長くして多少扁平である.....ヒラタムシ科  
中胸の後側板は後脚の脚窩に達して居ない。前脚の基節は小さくして球形で、後脚の基節は横置されて扁平である。前脚の脚窩は閉ざされたり開かれたりする(第百二十八圖)(ホソカ  
タムシ *Bothriideres*).....ホソカタムシ科 *Colydiidae*

九七

前脚の跗節は三節、中後脚の跗節は四節から成つて居るが、中後脚では環節が不明瞭で恰も一節から成つて居るかの如く見える.....コキノコムシ科

跗節の数は總て三節又は其れ以下から成つて居る.....九八

九八

前翅は甚だ短くして腹部の半に達するに過ぎない。頭部の後方は狭くして、胸部との接合部は甚しく縊れて居る(第百二十九圖)(アリツカムシ *Pelaphus*、*Rythinus*).....アリツカムシ科 *Pelaphidae*

前翅は甚しく短い事が殆んどなく、頭部の胸部と接する部は廣し.....九九

九九

後翅は狭くして羽状をなし、頭部は廣い。微小の昆蟲で前翅は往々短くなつて居る(第百三十圖)(ハバネムシ *Trichopteryx*).....ハバネムシ科 *Psittidae*

後翅は狭くも又羽状でもないが、稀に縁毛を有するものがある.....一〇〇

一〇〇

前胸は廣く、頭部は僅かに突出して居る。小さい昆蟲で多少半球形をなして居る.....シテムシ科

半球形でなく、頭部は突出し、胸部も異なる.....一〇一

一〇一

胸部は後方に向つて狭くなつて居るか、或は少くとも廣くない。腹板は全部遊離して居る。(第百三十一圖)(ヒメマキムシ *Lathridius*).....ヒメマキムシ科 *Lathrididae*

胸部は後方に向つて著しく廣くなり、脚の基節は遠く離れて居る。腹部の三乃至四節は多少癒合して居るが接合線は認め得られる。甚だ廣くして圓板状を呈する.....*Discolomidae*

一〇二

觸角は膝状で、末端は球桿状を呈する。前翅は截斷されて、脚に刺を有する。胸板は大きく、脚の基節は遠く離れて居る.....エンマムシ科

觸角は膝状を呈して居ない。其他も異なる.....一〇三

一〇三

鬚は特別に大きくして突出して居る。觸角の環節は不整で、明瞭な棍棒状を呈して短く、顔面

の兩縁に發して居る。前、中兩脚の跗節は單一である……………ガムシ科  
 鬚は普通の大きさで、其他も異なる……………一〇四  
 一〇四 跗節には葉片を有して居るか、或は爪には鋸齒を有する。細長い圓筒形又は楕圓形で、隆起して居る……………一〇五

跗節には葉片を有して居ない（末節前の環節は往々擴大して葉片を有する事もある）。或は前胸の兩側には觸角を入れる溝がある。或は形が甚しく廣くして短かいか、又は扁平で翅が短かい……………一〇六

一〇五 爪は普通である。多少圓筒形で、前胸は後方に向つて甚しく廣くなつて居ない。觸角の環節は甚だ不整なものが多い（百三十二圖）（ホシカムシ *Corynetes*）……………カツコウムシ科  
 爪は鋸齒を有して居る。圓筒形でなく、前胸は後方に向つて多少或は甚しく廣くなり、觸角は單調であるか又は鋸齒狀を呈する（第百三十三圖）（オホクチキムシ *Allecula*。キイロクチキムシ *Chenitopus*）……………クチキムシ科 *Cistellinae*

一〇六 觸角の末端三節は側方に向つた角を有し、大腮は釘拔狀を呈して突出して居る。前胸は側方に鋸齒を有し、前脚の基節は横置されて居る。全形並に觸角は鋸形蟲の大いのに似て居る（クハ

ガタムシモドキ *Tricentotoma*）……………クハガタムシモドキ科 *Tricentotomidae*  
 形、觸角其他の點が異なる……………一〇七

一〇七 胸部は廣くして隆起し、觸角は棍棒狀を呈して、胸部の溝の中に置かれる。前脚の基節は大きく、栓狀に突出して居る。多少半球形又は少くとも楕圓形の小昆蟲である……………シテムシ科  
 形が異つて居るが、若し廣くして隆起して居るならば大きくして、他に異つて居る……………一〇八

一〇八 觸角は前胸の溝中に入れられ、棍棒狀を呈して居る。小形又は中形の卵形をなせる昆蟲である（トビイロタママシモドキ *Monomma*）……………タママシモドキ科 *Monomidae*  
 觸角は溝中に置かれなないし、其他の點も異なる……………一〇九

一〇九 前胸は後方に向つて廣くなつて居るか、或は少くとも前翅と幅が等しい。頭部は象鼻狀に伸長して居ない……………一一〇  
 前胸は後方に向つて廣くなつて居ないで、明に前翅より狭い。或は扁平で前口式で、頭部は往々伸長して象鼻狀を呈する……………一一五

一一〇 觸角の末端は著しく膨大し、前脚の基節は横置されて居るか或は圓錐形で突出して居ない。後脚の基節は多少遠く隔離し、横置されて、外方は體の側縁迄伸んで居り、内方に突起を有

- して居ない。遊離した腹板は五個ある。頭部は廣く、突出して居る……………一一一
- 全く異つて居る……………一一二
- 一一一 頭部の下面には觸角の入る溝がある……………デヲキスヒムシ科
- 頭部の下面には觸角の入る溝がない……………オホキノコムシ科
- 一一二 頭部は廣くして、複眼は大い。觸角末端は著しく膨大し、前胸は後方稍廣くして前翅と等幅となつて居る。前翅は後方が狭くなり、腹部末端を露出して居る。前脚の基節は圓錐形で突出して居ない。前脚の脚窩は閉ざされて居る。小形扁平の昆蟲でタママシと習性が似て居る(クチキムシモドキ *Othnius*)……………クチキムシモドキ科 *Othniidae*
- 多くは大くして、全く異つて居る……………一一三
- 一一三 前脚の基節は球形突出して居ないで、互に接しても居ない。前脚の脚窩は後方が閉ざされて居る。多くは中形又は大形で種々な形をして居る(第百三十四圖)(スナゴミムシダマシ *Opa-trum*)……………テニムシダマシ科 *Tenchroidae*
- 前脚の基節は圓錐形、栓状或は球形で突出し、多くは互に接して居る。前脚の脚窩は開いて居る……………一一四

- 一一四 頭部は複眼の後部迄胸部に陥入して居るので、殆んど縊れて居ないで、多少垂直である。體は垂直の方向に甚しく發達して居る。多くは背面が高く、後方に向つて尖つて居る。觸角は絲状で、僅かに棍棒状又は櫛齒状を呈する(第百三十五圖)(アサノハナノミ *Mordell'stana*。クロハナノミ *Mordella*)……………ハナノミ科 *Mordellidae*
- 頭部は甚しく陥入して居ないで、扁平である(第百三十六圖)(ナガクチキムシ *Melandryia*。クビカクシ *Scotodes*)……………ナガクチキムシ科 *Melandryidae*
- 一一五 前翅は短いか、又は體に密着せずして柔かい。爪は裂けて居るか、鋸齒を有するか、又は附屬物を有する。體は後方に向つて急に狭くなつて居り、前胸の後方は廣くない。前脚の基節は栓状で、脚窩は開いて居る。大形、柔軟で、扁平でない(第百三十七圖)(第百三十八圖)(ツチハンメウ *Meloe*。マメハンメウ *Epicauta*)……………ハンメウ科 *Meloidae*
- 小形の昆蟲で、他の點も異なる……………一一六
- 一一六 前脚の基節は圓錐形、前胸は扁平、頭部は後方が急に甚しく狭くなつて居る。觸角は鋸齒状或は櫛齒状で、前脚の脚窩は開いて居る。跗節の末節前環節は片状に擴大して居る。大形、扁平で、多くは赤色又は褐色を呈する(第百三十九圖)(アカハネムシ *Pyrothous*)……………



- .....アカハネムシ科 Pyrochroidae
- 脚の基節は著しく圓錐形でなく、觸角も異なる。或は脚窩は閉されて頭部は異なる..... 一一七
- 一一七 頭部は後方が急に狭くなり、觸角は絲狀或は珠數狀である。前脚の脚窩は開き、前脚の基節は栓狀に突出して居る。小形、柔軟で、扁平でない(第百四十圖)(ホソクビアリモドキ *Formicomus*。クロステイッカク *Notoxus*)..... イッカクチュウ科 *Notoxidae*(*Anthicidae*)  
一層大いか、或は頭部其他の特徴によつて異なる..... 一一八
- 一一八 頭部は伸長して顯著なる嘴狀をなし、跗節の末節前環節は多少擴大して葉狀片を有する。多くは小形或は壓縮されたる昆蟲である(第百四十一圖)(*Rhinosimus*)...キノカハムシ科 *Pythidae*  
頭部は嘴狀を呈して居ない..... 一一九
- 一一九 胸部及び前翅は全部扁平で、往々著しく短くなつて居る。頭部は大きくして、前口式である。前脚の基節は小さくして球形で、突出して居ない。觸角末端は膨大して居るか或は膨大して居ない。前胸の後方は狭くなつて居る..... ヒラタムシ科  
前脚の基節は圓錐形或は栓狀、卵形或は球形で、多くは明に突出して居る。或は一層大きくして構造は異つて居る..... 一二〇

- 一二〇 跗節の末節前環節は擴大して居ない。又葉狀片をも有して居ない..... 一二一
- 跗節の末節前環節は明に擴大して居る..... 一二二
- 一二二 前脚の脚窩は閉ざされ、前脚の基節は多少球形で、相接して居ない。大きくして長く、前翅は隆起して居る(第百四十四圖)(*Homimydax* *Tenebrio*。キハムシ *Plesio*, *Ithalus*).....  
.....ヨミムシダマシ科  
前脚の脚窩は開いて居る。前脚の基節は明かに突出し、圓錐形又は卵形である(第百四十二圖)(*Tissodema*)..... キノカハムシ科
- 一二三 前脚の脚窩は開き、中脚の基節は多少突出して居る。後脚の腿節は往々肥大し後胸の側板は甚しく退化して居る。細長くしてカミキリムシと似た習性を有する。(第百四十五圖)(カミキリダマシ *Xanthochroa*)..... カミキリダマシ科 *Odmeridae*  
前脚の脚窩は閉ぢ、中脚の基節は特に突出して居ない。胸部は扁平でなく、殆んど細長くなくして、多くは甚しく毛を生じて居る(第百四十三圖)(ハムシダマシ *Lagrii*).....  
.....ハムシダマシ科 *Lagriidae*
- 一二三 觸角及び脚は短い、形は大きくして發光するものが往々ある..... ホタル科

一二四 ゴキブリの體内に棲み、蛆狀をなして、小ぢり……………ハナノミ科

撚 翅 目 Order Strepsiptera

多くは小形で膜翅類、同翅類等の昆虫に寄生し、雌雄によつて甚しく形を異にして居る。

雄は翅を有し單獨に生活するが、雌は幼蟲の形をして寄主の體から離れる事はない。雄は頭部が遊離し、複眼はよく發達して居る。觸角の環節は不齊で、其の中の若干は長く一方に伸長して居る。前胸並に中胸は甚だ小さく、後胸は甚だ大い。前翅は退化して小さい棍棒狀となり、後翅は扇狀で甚だ大く、縦に疊まれ、數本の放射狀に走る翅脈を有するに過ぎない。腹部は小さく交尾器は甚だ大い。脚は細長く基節は長くして遊離し、跗節は二節乃至五節から成つて居る。

雌は脚、翅、觸角、眼を有しないで體は頭胸部と腹部との二部に分たれて居る。若干の腹環節の腹面には生殖口が一個づゝ存する。

幼蟲の幼時には自由に運動し得るもので、眼、脚共によく發達して居るが、膜翅類、直翅類、同翅類等の腹部に侵入して脱皮すると、眼や脚を失つて蛆狀となるのである。雌は成熟すれば頭胸部を寄主の環節の間から露出して交尾する。

現在世界では二百種近く記載されて、全世界に分布して居る。本目に屬するものには只一科ある。

(第百四十六圖)(ネデレンバ Xeros) ……………ネデレンバ科 Stylopidae

膜 翅 首 目 Superorder Hymenoptera

膜 翅 目 Order Hymenoptera

頭部は遊離して甚だ動き易く、胸部に隠される事はない。複眼は二個で、大抵のものは單眼を三個有する。胸角はよく發達し、形狀は様々である。口器は咀嚼口式であるが、小腮は通常舐めるに適して居る。前胸は中胸と固着して動かないで、胸板は關節で連結されて居る。中胸は最もよく發達して、特有の部分が發達して居る。後胸は中胸に比し著しく小さい。腹部第一環節は後胸と密着して動かなくなつて居るので往々後胸と誤認せられ、前伸腹節と呼ばれて居る。従つて第一腹節に見えるものは通常第二腹節である。腹部と胸部との接合點は狭く縊れて居る場合と廣くして縊れて居ない場合がある。翅は多くの場合よく發達し、膜質で、鱗片を被つて居ない。前翅は後翅より遙かに大く、脈相も一層完全である。脈相は稍完全であるが、複雑でなく、時としては甚しく退化して居る事がある。脚は六本あつて、跗節は五環節から成つて居る。腹部には六乃至七個の環節を認め得るのが通常で、尾

毛は缺けて居る。雌の産卵管は針狀、鋸狀となつて居るが、時としては甚しく長い場合もある。變態は完全である。

幼蟲の最も原始的のものは環節ある三對の胸脚を有し、口は咀嚼に適し、觸角は短く、二個の眼を有し、腹部末端の前に一對の尾毛がある。高等なものになると尾毛を缺き、腹環節には多數の脚を有するが、多くは無脚の蛆狀である。然し頭部は其れと認められるし、且つ少くとも口器の痕跡はある。膜翅類は幼蟲時代には植物の葉を食つたり、植物の内部を食つたり、蟲瘻を造つたり、或は他の昆虫に寄生したりする。又中には親蜂の持つて來た昆虫、蜘蛛等を食ふものや、或は又蜜、花粉等て生育するものもある。

其の成蟲時代には主として地上に生活するものであるが、中には地下或は水中に生活するものもある。

寒帯地方にも少しは産するが、温帯より熱帯に至るに従つて豊富である。

本邦には次の二十二科を産する

一 腹部と胸部との間に明瞭な縊れがある。若し此の縊れが不明瞭ならば翅脈は甚しく退化して居るか、或は翅は全然缺けて居る。轉節は二節又は三節から成つて居る幼蟲は無脚である……二

腹部と胸部との間には明瞭な縊れがない。翅は常に存在し、翅脈は多數存する。轉節は二節からなつて居る。幼蟲は有脚である。

二 轉節は一節から成る……………三

轉節は二節から成る……………一五

三 翅は存する……………四

翅は存しない……………一三

四 後脚の第一跗節は多少扁平で、他の節より遙かに太く、少くとも内側には毛を密生する(第四百四十七圖)(第百五十三圖)(ミツバチ *Apis*。ハナバチ *Bombus*。クマバチ *Xylocopa*)……………

後脚の跗節は多少細長くして圓筒形をなし、稀に稍々擴大して居る。毛を密生して居る事はなし……………五

五 第一腹節は上向せる鱗片狀又は結節をなし、第二腹節も屢々結節狀を呈する。肩板は缺けて居るか或は甚しく退化し、觸角は膝狀を呈し、柄節は甚だ長い(第四百四十八圖)(オホアリ *Campoplex*。トゲアリ *Polyrhachis*。アカアリ *Formica*)……………アリ科 *Formicidae*

- 第一腹節は簡單で鱗片状又は結節をなして居ない。肩板は顯著である……………六
- 六 前翅は静止の際には縦に疊まれる。2dM室は極端に長くしてCu室よりも遙かに長い(第百四十九圖)(スツメバチ *Vespa*。アシナガバチ *Polistes*。トックリバチ *Eumenes*)……………スツメバチ科 *Vespidae*
- 七 前翅は静止の際縦に疊まれなす。2dM室は極端に長くなってCu室よりも短かい……………七
- 七 前背板の後縁は翅の基部に接して居ない(第百六十九圖)。上方から最も明瞭に見える(第百五十圖)(ギングチバチ *Crabro*。ジガバチ *Ammophila*。ツチスガリ *Cereris*)……………コシボンバチ科 *Sphingidae*
- 八 前背板の後縁は翅の基部に接して居る(第百六十八圖)……………八
- 八 腹部第一節(實際は第二)と第二節(實際は第三)とは深い縊れ又は腹面の深い溝によつて分たれ居ない……………九
- 九 第一腹節と第二腹節とは腹面にある深い縊れによつて分たれて居る。體と脚とは長くして絨毛を生じて居る。頭部、胸部には點刻が多い……………一二
- 九 腹部は上方から見て三乃至四節からなり、産卵管は三節から成り抽出され得る。後胸は兩側に

- 鋭角或は鋸齒を有し、體は美しい金屬的色彩を有して居る(第百五十一圖)(セイボウ *Chrysis*)……………セイボウ科 *Chrysididae*
- 一〇 腹部は上方から見て四節で、産卵管は抽出されない。體は金屬的色彩を有しない……………一〇
- 一〇 脚は長い。後腿節は腹部末端或は其れ以上に達する事がある。脛節及び跗節には刺が多い。(第百五十二圖)(キヲビムツカウ *Pompilus*。ムツカウバチ *Sialis*)……………ムツカウバチ科 *Pompilidae*
- 脚は短かく、後腿節は腹部末端に達する事はない。脛節及び跗節は滑かて開堀に適して居ない……………一一
- 一一 後翅には明瞭な翅脈を有して居るが、内縁の基部に葉状片がない。中脛節には末端に一本の距を有する(*Sapyga*)……………*Sapygidae*
- 一一 後翅には明瞭な翅脈がないが、内縁の基部に葉状片がある。中脛節の末端には二本の距を有する(*Bathylus*)……………*Bathylidae*
- 一二 中脚の基節は互に甚だ遠く離れ、第一跗節は脛節と等長である。雌雄共に翅を有し色彩には殆んど差がない。觸角は雌に於ては短くして卷かれ、雄に於ては直にして末端が幾分膨大して居る(第百五十四圖)(ハラナガツチバチ *Elis*。クロツチバチ *Tiphia*)……………ツチバチ科 *Scelididae*

- 中脚の基節は互に著しく接近して居る。雌は翅を缺き、雄は多く翅を有する。雌雄によつて其の色彩を甚しく異にし、雄の觸角は絲狀である(第百五十五圖)(アリバチ *Mutilla*).....アリバチ科 *Mutillidae*
- 一三 腹部の柄狀部には上向せる鱗狀片を有するか、或は二個、稀に一個の結節から成つて居る。觸角は膝狀で、柄節は甚だ長い.....アリ科
- 一四 腹部の柄狀部は甚だ短かく、鱗狀片をも有しないし、又結節からも成つて居ない.....一四 前脚の腿節は著しく膨大して居ない。頭部は短くして、眼は多少大い。體には多くの毛を生じて居る。多くは大きい(アリバチ♀).....アリバチ科
- 前脚の腿節は甚しく膨大し、頭部は長い事が屢々ある。眼は甚だ小さい.....*Belyidinae*
- 一五 翅は存在する.....一六 翅は存在しない.....二三 翅には閉ざされたる室を有して居ない。若干の例外はあるが此の場合には腹部腹面の末節は分たれて居ない。觸角は膝狀或は直である.....一七 翅には多數の閉ざされたる室があるか、或は少くとも一個の閉ざされたるR室がある。觸角は膝狀でない.....一八

- 一七 産卵管は腹部末端から發して居る。觸角は膝狀か或は然らず。膝狀をなす場合には柄節と鞭節との間に小節がない。體は金屬光澤を有する綠色でなく、黒色、稀には褐色或は赤味を帯びて居る(第百五十六圖)(タマゴバチ *Proctotrupes*).....タマゴバチ科 *Proctotrupidae*
- 産卵管は腹部末端の手前で腹面に發して居る。觸角は常に膝狀で、柄節と鞭節との間に一乃至三個の小節がある(第百五十七圖)體は通常金綠色である(第百五十八圖)(アシブトコバチの *Talis*。シリアゲコバチ *Anastatus*).....コバチ科 *Chalcididae*
- 一八 前翅には綠紋がなく、六乃至八個の室を有する。觸角は直で、多くて十六節から成つて居る(第百五十九圖)(ナラフシバチ *Dryotanta*。ヒラタフシバチ *Talia*).....フシバチ科 *Cynipidae*
- 前翅には明瞭な綠紋を有し、脈相は多數の分枝脈から成つて居る.....一九 腹部は柄を有し、後胸の上端に嵌り、側偏である(第百六十圖)(ヤセバチ *Evania*).....ヤセバチ科 *Evanidae*
- 腹部は後胸の下端に嵌つて居る.....二〇 前胸は長い頸狀に伸長して居る。頭頂には刺を有し、後脚の腿節は膨大し、下面に針を有し

- て居る。腹部は狭くして前方に向つて次第に尖り、産卵管は長く突出して居る(第百六十一圖)(ツノヤセバチ *Stephanus*).....ツノヤセバチ科 *Stephanidae*
- 二一 前胸は長い頸狀に伸長して居ない。頭部と胸部とは只短かい柄によつて結合される.....ツノヤセバチ科 *Stephanidae*
- 二二 前翅には只一本の中室横脈 $R_1$ がある。多く小形(第百六十二圖)(バビホウ *Eurypodacon*。アリマキヤドリバチ *Aphidius*).....コマユバチ科 *Braconidae*
- 前翅には二本の中室横脈がある。(多くは大形).....二二
- 二三  $1st R$ 室及び $2d M$ 室は分離されて居る。前翅には四個の $R$ 室があるが、中央の二個は小さい。大臑は中廣く。末端に四齒がある(第百六十三圖).....*Trigonidae*
- $1st R$ 室及び $2d M$ 室は癒合して一室を形成して居る。前翅には三個又は二個の $R$ 室を有する。(第百六十四圖)(ヒメバチ *Ichneumon*。アメバチ *Panicus*).....ヒメバチ科 *Ichneumonidae*
- 二三 觸角は膝狀である.....二四
- 觸角は膝狀でない.....二五
- 二四 頭頂には單眼を缺くか、或は極く小さくて殆んど認め難い。産卵管は腹部末端から發して居る.....タマゴバチ科

- .....フシバチ科
- 二五 觸角は多くて十六節で、腹部は多少側偏である.....二六
- 觸角は十六節以上で、腹部は側偏でない.....二六
- 二六 腹部背面の環節は總て硬く癒着して居るか、或は全部癒着せずして動く。第一鞭節の次には特に小さい環節がない.....コマユバチ科
- 腹部背面の二個或は三個の環節は動くやうに結合されて居るが、他は硬くして動かない。第一鞭節の次には非常に小さい環節が一個ある.....ヒメバチ科
- 二七 前胸背板の後方は截斷されて居るか、或は僅かに凸形をなして居る(第百六十五圖).....ヒラタハバチ科 *Lydidae*
- .....二八
- 前胸背板の後方は深く刻られて居る(第百六十八圖).....二八
- 二八 横脈  $M_1+Cu$  は  $M$ 脈と  $Cu$ 脈とを結合する(第百六十六圖)。中胸背板は小楯板の前方にある横溝によつて分たれて居る(マツノオホキバチ *Sirex*。ヒラアシキバチ *Tremex*).....キバチ科 *Stricidae*
- .....キバチ科 *Stricidae*
- 横脈  $M_1+Cu$  は  $R+M$ 脈と  $Cu$ とを結合する(第百六十七圖)。中胸背板では小楯板だけが溝

によつて分離されて居る (カブラハバチ *Athalia*。ナシアシブトハバチ *Cimbex*。ナシミン  
ハチ *Hoplocampa*).....ハバチ科 *Tenthredinidae*

### 脈翅首目

Superorder Neuropteroides

前、後兩翅は多くの場合相似であるが、稀に後翅の臀部が廣くして疊まれるものや、或は後翅の甚しく退化せるものがある。翅脈は多い。口器はよく發達して咀嚼に適し、觸角は多くの場合同様の環節からなつて居る。前胸は自在に動き、多少大いが、中、後兩胸はよく似て、固く結合されて居ない。腹部は十環節、跗節は五節、尾毛は存するものと缺けて居るものとある。變態は完全である。幼蟲は水棲或は陸棲で、胸脚がよく發達し、肉食性である。

### 廣翅目 Order Megaloptera

中形乃至大形の昆蟲で、前口式で、脚は三對共に同形である。觸角は多數の環節からなり、口の近くに發して居る。翅は多數の縦走脈と横脈とを有し、後翅の臀部は廣くして疊まれぬものが多い。縦走脈の末端は視則正しく分岐して居ない。尾毛を有する。

幼蟲は水棲で、口は咀嚼に適し、腹部には環節からなつて、鰓の作用をする脚を有して居る。肉食である。三個の單眼を有する (第百七十圖) (ノボトンホ *Neuronus*).....ノボトンホ科 *Corydalidae*

單眼を缺く(第七十一圖)(センブリ科 *Sialus*).....センブリ科 *Sialidae*

駱駝蟲目 Order Raphidites

中形の細長い昆蟲で、前口式である。前胸は著しく伸長し、甚だ動き易い。脚は皆同形で柔かい。觸角は同様の多數の環節から成つて居る。前後兩翅は殆んど同形で、縁紋はよく發達して居る。縦走脈の毛端は分岐して居る。後翅の臀部は疊まれない。雌は長い産卵管を有する。尾毛はない。

幼蟲は陸棲で、尾毛を缺き、觸角はよく發達して居る。口器はよく發達し、肉食に適する(第七十二圖)(ラクダムシ *Tuceilla*).....ラクダムシ科 *Rapididae*

脈翅目 Order Neuroptera

中形乃至大形の昆蟲で、頭部は垂直で、觸角は同様又は不同の多數の環節から成つて居り、高く上方に發して居る。脚は同形な場合が多いが、稀に前脚は捕獲に適して居る。前胸は大きくして、自在に動き、第一腹節の腹板竝に尾毛は退化して居る。前後兩翅は多く同形で、後翅の臀部は廣くないのが常であるが、時として後翅は多少退化して居るか、或は甚しく變化して居る。静止の際翅は屋根形に

置かれる。縦走脈は多數に分岐し、且つ末端は又狀に分岐して居るのが普通である。

幼蟲は多少長い大腮を有して居るが、大腮は吸水管となつて居る。尾毛はない。

- 一 前脚は螳螂の前脚に似て捕獲に適して居る(第七十三圖)(カマキリモドキ *Mantispa*).....カマキリモドキ科 *Mantispidae*
- .....脚は皆同形である.....一
- 二 後翅は狭くして帶狀を呈し、頭部は嘴狀に伸長して居る。(第七十四圖)(ホンバネカゲロウ *Nemoptera*).....ホンバネカゲロウ科 *Nemopteridae*
- .....後翅は普通か、或は稀に退化又は消失して居る.....二
- 三 觸角の末端は膨大して居る(第七十五圖)(ウスバカゲロウ *Myrmleon*。ツノトンボ *Ascalaphus*).....ウスバカゲロウ科 *Myrmelontidae*
- .....觸角の末端は膨大して居ない.....四
- 四 縦走脈は多數に分岐し、末端は又狀に分岐して居る。脛脈分岐は常に多數に分岐して居る(第七十六—第七十九圖)(ヒメカゲロウ *Micromus*。ヒロバカゲロウ *Osmylus*。クサカゲロウ *Hysopoda* *Dilar*).....ヒロバカゲロウ科 *Hemerobidae*



縫走脈は僅かに分岐し、末端は又狀に分岐して居ない。脛脈分岐は精々一回分岐して居るだけである。甚だ小形の昆蟲である(第百八十圖)(コナカゲロウ *Coniopteryx*).....  
.....コナカゲロウ科 *Coniopterygidae*

蝸 蟲 首 目 Superorder Panorpidae

翅は前後翅共に同様で、基本形に近い脈相を有して居る。口器は咀嚼に適して居るものと吸収に適して居るものとある。變態は完全である。

蝸 蟲 目 Order Panorpatas

多くは中形の細長い昆蟲である。頭部は自在に動き、垂直で、多くは下方に伸長して嘴狀をなし、其の先端に咀嚼に適する口器がある。複眼は大きく、單短は有つたり無かつたりする。觸角は同様の多數の環節から成つて、絲狀をなし、顔面に發して居る。前胸は小さくして、中、後兩胸は大い。前後兩翅は畧同形で、脈相も酷似し、鱗片を缺き、又著しく毛を密生して居ない。時として無翅のものがある。脚は同形で、基節は遊離して大きく、顯著な縦の縫合線がある。跗節は五節から成る。腹部は通

常細長く、尾毛は存在し、時としては多數の環節から成る事がある。雄は腹部末端に大い缺子を有する。

幼蟲は形が鱗翅類の幼蟲に似て、陸棲で、三對の胸脚の他に腹脚が發達して居る。口は咀嚼に適し眼を有する。

成蟲、幼蟲共に生きた昆蟲或は昆蟲其他の動物の屍體を食として居るが、時として植物質を食ふ事もある。

(第百八十一圖)(第百八十二圖)(シリアダゲムシ *Panorpa*。シリアダゲムシモドキ *Panorpodes*。ホソシリアダゲムシ *Leptopanorpa*。カガンボモドキ *Bitacus*).....シリアダゲムシ科 *Panorpidae*

毛 翅 目 Order Trichoptera

大概小形乃至中形の昆蟲である。頭部は垂直で、自在に動くが、嘴狀に伸長して居ない。觸角は絲狀で同様の多數の環節からなつて居る。口器は咀嚼に適して居る。複眼はよく發達し。單眼は存在する場合と存在しない場合とある。前胸は自在で、小さく、中、後兩胸は相似て、固く結合して居ない。翅は膜質で、毛を密生して居る。多數の縦走脈と少數の横脈とよりなる脈相を有して居る。前翅の臀

部は明瞭に區分される場合が多く、後翅の臀部は往々擴大して居る。脚は同様で、細長く、基節は大きくして相近接し、縦溝を有する。跗節は五節から成つて居る。腹部末端には往々一、二節から成る尾毛を有する。

幼蟲は水棲で、頭部は水平で前口式であるか、或は頭部は垂直で下口式である。口器はよく發達して咀嚼に適し、胸脚はよく發達して、腹部末端には顯著な鈎を有するものが多い。且つ多くは總狀の氣管鰓を多數有して居る。幼蟲には植物質を食ふものと肉食をするものとあるが、成蟲は植物の液汁で生きて居る。

(第百八十三圖) (ムラサキトビケラ *Neuroia*。エグリトビケラ *Glyphotaelius*。ウスバキトビケラ *Limnophilus*。ヒゲナガトビケラ *Stenopsyle*。ギンボシツツトビケラ *Setodes*) …………… トビケラ科 *Phryganeidae*

### 鱗翅目 Order Lepidoptera

微少なるものから大形のもの迄あつて、其の名の示す通り體、翅共に鱗片又は鱗毛を以て被はれて居る。口器は極めて總合的種類のものでは咀嚼口であるが、一般には吸収に適して所謂口吻をなし、

通常卷曲して居るが、時としては全く退化して居る事もある。翅は二對あつて翅脈は特有の規則正しい排列をして、横脈は少脈で、室の閉ざされたものは一個又は二個あるに過ぎないのが通常であるが、時としては翅が全然退化して居るものがある。複眼はよく發達し、單眼は時として存在する。脚は三對共同様で、跗節は通常五節からなつて居る。尾毛はなし。

幼蟲は頭部が發達して咀嚼口を有し、通常長圓筒形で、胸脚の他に腹部に二對乃至五對の脚を有して居る(第二腹節に脚を有する事はなし)。

蛹には被蛹と裸蛹との二種がある。

鱗翅類は其の成蟲時代には果實の液汁、花蜜等を吸収して居るか或は全く食を攝らないが、其の幼蟲時代には大部分が植物を食ひ稀に肉食をするものがある。

- 一 前翅内縁の基部には翅垂を有し、前後兩翅の脈相は相等しく、中室より六本以上の翅脈を發して居る(第百八十四圖)(カウモリガ *Hepialus*)……………コウモリガ科 *Hepialidae*
- 前翅内縁の基部に翅垂を缺き、後翅の中室より發する翅脈の数が六本を超えない……………二
- 二 觸角は其の末端膨大し、翅刺を缺く……………三
- 觸角は其の末端膨大せず。末端膨大する時は翅刺を存する……………八

- 三 前翅の翅脈は全部存在し、悉く分離して居る (第百八十五圖) (チャマダラセ、リ *He-peria*。イチモチセ、リ *Parnara*。オチャマダラセ、リ *Tanaos*) ..... セセリテフ科 *Erynnidae*
- 前翅の翅脈は二本或は其れ以上枝を有するか或は癒合して居る ..... 四
- 四 雄の前脚は退化する ..... 五
- 雄の前脚は退化しない ..... 六
- 五 雌の前脚は退化する (コノマテフ *Melinitis*。シヤノメテフ *Satyrus*。ヨラドミテフ *Vane-si*。アカタテバ *Pyraonis*。ミスデテフ *Nepis*。オホムラサキ *Sasakia*。ヒヨウモンテフ *Argynnis*。アサギマダラ *Danais*) ..... マダラテフ科 *Danaidae*
- 雌の前脚は退化しない (テングテフ *Libythea*) ..... テングテフ科 *Plebejidae*
- 六 雄の前脚の跗節は多少發達が悪いか、或は爪の一本又は二本を缺いて居る (ムラサキシミ *Arhopala*。ウラギンシミ *Curetis*。ニムリンシミ *Zephyrus*。ヤマトシミ *Zizera*。ツリムシミ *Chrysophanus*。シミミテフ *Jycena*) ..... シミミテフ科 *Cupidinidae*
- 雄の前脚の跗節は發達が悪くなく、爪は完全である ..... 七
- 七 後翅 *1a* を缺いて居る (第百八十六圖) (アゲハテフ *Eques*。ギフテフ *Leudorphia*) ..... 七

- ..... アゲハテフ科 *Eguitidae*
- 後翅 *1a* は存在する (第十七圖版第九十圖) (モンシロテフ *Pieris*。キテフ *Terias*。オツネンテフ *Colias*。エゾシロテフ *Aporia*) ..... シロテフ科 *Asciadae*
- 八 後翅 *1c* を缺いて居る ..... 九
- 後翅 *1c* を存する ..... 二六
- 九 前翅 *5* は *6* よりも *4* に近く發して居る ..... 一〇
- 前翅 *5* は横脈の中央或は *4* よりも *6* に近く發して居る ..... 一七
- 一〇 後翅 *8* を缺いて居る (コケガ科のあるものに *8* の缺けたものがある) (第百八十七圖) (カノコガ *Amata*) ..... カノコガ科 *Amatidae*
- 後翅 *8* は存在する ..... 一一
- 一一 後翅 *8* は *7* と離れて居る ..... 一二
- 後翅 *8* は彎曲して *7* に近接するか、或は *7* と纏れ、又は小さい横脈によつて *7* と結合されて居る ..... 一四
- 一二 後翅 *8* は中室の中央、若くは中央を過ぐるまで中室の前縁と纏れて居る (第百八十八圖) (ヒ

- トリガ *Arctia*。ゴマダラヒトリ *Diarsia*。ハガタコケガ *Mitochrista*。コブガ *Nola*)……………コケガ科 *Euproctis*
- ……………コケガ科 *Euproctis*
- 後翅8は遊離するか、或は小さい横脈によつて中室と結合して居る。口吻は退化する(第百八十九圖)(トクガ *Euproctis*。マイマイガ *Porthetia*。コツノケムシガ *Orgyia*)……………トクガ科 *Liparidae*
- ……………トクガ科 *Liparidae*
- 後翅8は中室の基部に近く中室の前縁と纏れて居る……………トトラガ *Eusemia*。コトラガ *Eusemia*)……………トトラガ科 *Phalaenodidae*
- ……………トトラガ科 *Phalaenodidae*
- 一三 觸角の中軸は末端に向つて多少膨大して居る(トラガ *Mimosemia*。コトラガ *Eusemia*)……………トトラガ科 *Phalaenodidae*
- ……………トトラガ科 *Phalaenodidae*
- 觸角の中軸は末端に向つて膨大して居ない(第百九十圖)(ナシケンモン *Aeronycta*。タマナヤガ *Agrotis*。カプラヤガ *Euxoa*。イネキンウハ *Phytomyza*。キシタハ *Catoxala*。トモエガ *pairetonia*。トヤガ *Erastria*。ヨトウムシ *Barathra*)……………ヤガ科 *Noctuidae*
- ……………ヤガ科 *Noctuidae*
- 一四 後翅8は前縁距脈を有して居る(第百九十一圖)(イカリモンガ *Pteroleuca*)……………イカリモンガ科 *Calidulidae*
- ……………イカリモンガ科 *Calidulidae*
- 後翅8は前縁距脈を有して居ない……………イカリモンガ科 *Calidulidae*
- ……………イカリモンガ科 *Calidulidae*

- 一五 後翅1aを缺いて居る。1aが存するにしても臀角には達しない(第百九十二圖)(フタツメカギ *Oreta*。ヲビカギ *Drepama*)……………カギ科 *Drepnidae*
- ……………カギ科 *Drepnidae*
- 後翅1aは臀角に達して居る……………トガリハ科 *Thyatiridae*
- ……………トガリハ科 *Thyatiridae*
- 一六 翅刺を缺く……………トガリハ科 *Thyatiridae*
- ……………トガリハ科 *Thyatiridae*
- 翅刺を存す(第百九十四圖)(マツカレン *Dendrolimus*。オビカレン *Malacoma*。カレンガ *astropacha*)……………カレンガ科 *Lasiocampidae*
- ……………カレンガ科 *Lasiocampidae*
- 一七 後翅8は中室の基部より分出して居る……………カレンガ科 *Lasiocampidae*
- ……………カレンガ科 *Lasiocampidae*
- 後翅8は中室又は7と結合せられて居るか、或は之等に近接して居る……………カレンガ科 *Lasiocampidae*
- ……………カレンガ科 *Lasiocampidae*
- 一八 前翅7は8及び9と結合されて居る(第百九十五圖)(ヤママユ *Antherca*。クスサン *Dioptyploca*。ウスタバ *Rhoinia*)……………テンサンガ科 *Atacidae*
- ……………テンサンガ科 *Atacidae*
- 前翅7は8及び9と結合されずして、通常6と柄を有して居る……………テンサンガ科 *Atacidae*
- ……………テンサンガ科 *Atacidae*
- 一九 前、後翅共に中室中に小枝脈を有して居ない(第百九十六圖)(キンモンガ *Psychostrophia*。ギンツバメガ *Acroperis*。クロホシフタヲ *Epiplema*)……………ツバメガ科 *Uraniidae*
- ……………ツバメガ科 *Uraniidae*
- 前、後共に中室中に小枝脈を有す(第百九十七圖)(アゲハモドキ *Epicozia*)……………ツバメガ科 *Uraniidae*
- ……………ツバメガ科 *Uraniidae*

- ..... アゲハモドキ科 *Epicridae*
- 二〇 後翅8は7と離れて居る.....一一
- 後翅8は7と纏れて居るか、或は之に近接して居る.....二四
- 二 前翅9は缺けて居る(第九十八圖)(オビガ *Alpha*).....オビガ科 *Eupterotidae*
- 前翅9は存して居る.....二二
- 三 後翅8は基部に於て甚しく屈曲して居る(ホシシヤクガ亞科のものは屈曲甚しからず)(第九十九圖)(クハエダシヤク *Hemerophila*。チャエダシヤク *Bourmi*。ウスバフユシヤク *Aloripila*。カキアヲシヤク *Tariorhinus*。ホシシヤク *Naxa*。ヒメシヤク *Scopula*).....
- ..... シヤクトリガ科 *Geometridae*
- 後翅8は基部に於て甚しく屈曲して居ない.....二二
- 三 翅刺はよく發達して居る( *Densitas* 屬を除く)(第十七圖版第二百圖)(モクメガ *Cerrua*。シヤチホコガ *Stenopus*。 *Notolonta*).....シヤチホコガ科 *Ceruridae*
- 翅刺は退化して居る(第十二圖版第八十八圖)カヒ *Bombyx*。クハ *Theophila*)サンガ科 *Bombycidae*
- 二四 翅刺を缺いて居る(イボタガ *Brahmaea*).....イボタガ科 *Brahmaeidae*

- 翅刺を有して居る.....二五
- 二五 後翅8は基部に近く横脈によつて中室と結合されて居る(第二百一圖)(メンガタスツメ *Acherontia*。エビガラスツメ *Herse*。コスツメ *Theretra*).....スツメガ科 *Sphingidae*
- 後翅8は中室と結合されて居ない(第九十三圖)(モントガリバ *Thyatira*。オホバトガリ *Palimpsestis*。アヤトガリバ *Habrosyne*).....トガリバ科
- 二六 翅は分裂して居る( *Agdistis* 屬を除く).....二七
- 翅は分裂して居ない.....二八
- 二七 前翅は多くとも四片以上に分裂して居ない(第二百二圖)(フジマメトリバ *Alucita*。ブドウトリバ *Stenophila*).....トリバ科 *Alucitidae*
- 前翅は六片に分裂して居る(第二百三圖)(ニジュウシトリバ *Orneidas*).....
- ..... ニジュウシトリバ科 *Orneididae*
- 二八 後翅8は7と纏れるか、或は甚しく之に接近して居る(第二百四圖)(ニカメイチウ *Chilo*。サンカメイチウ *Schoenobius*。ツヅリガ *Aphomia*。コメノシマメイガ *Aglossa*。アハノメイガ *Pyrausta*。ワタノメイガ *Sylepta*).....メイガ科 *Pyralidae*

- 後翅8は7と離る.....二九
- 二九 後翅8は中室と纏れて居る(第二百五圖)(イラガ *Chilocampa*。ナシイラガ *Mirisa*).....イラガ科 *Heterogeneidae*.....三〇
- 後翅8は遊離するか、或は横脈によつて中室と結合されて居る.....三一〇
- 三〇 後脚の中距は甚だ短かいか、或は缺けて居る.....三一
- 後脚の中距は少くとも一本は充分發達して居る.....三三
- 三一 口吻を缺いて居る.....三二
- 口吻を有して居る(ナシホシケムシ *Illiberis*。シロシタホタルガ *Chalcosia*。ヒカノコガ *Zygaena*).....マダラガ科 *Zygaenidae*.....三二
- 三二 雌は有翅である(ボクトウガ *Zenzera*).....ボクトウガ科 *Cossidae*.....三三
- 雌は無翅である(第二百六圖)(チャミノガ *Chania*。シロミノムシ *Chalioides*).....ミノムシガ科 *Psychidae*.....三三
- 三三 後翅8は中室及び7に甚しく近接し、往々其の末端に於て7と癒合して居る.....三四
- 後翅8は中室及び7に甚しく近接して居ない.....三五

- 三四 後翅8は褶に隠れ、3及び4は癒合し、5は中室の下角より發するか、或は3と柄を有して居る(第二百七圖)(コスカシバ *Aegeria*。ブドウスカシバ *Paranthrene*.....スカシバ科 *Aegeriidae*.....三六
- 後翅8は褶に隠れて居ない。3及び4は癒合せずして、5は分離して居る(第二百八圖)(*Tinageria*).....モノガ科 *Tinageridae*.....三六
- 三五 後脛節の距の基部には剛毛或は鱗片を環狀に叢生し跗節は各環節端に剛毛を多少生じて居る(第十七圖版第二百七十七圖)(アカハダモ、ガ *Oedematopoda*)アカハダモ、ガ科 *Heliodinidae*.....三七
- 後脛節の距の基部には剛毛或は鱗片を環狀に叢生して居ない。跗節は各環節端に剛毛を生じて居ない.....三六
- 三六 下唇鬚は長くして上向し、末端は尖つて居る.....三七
- 下唇鬚は末端が尖つて居ない.....三九
- 三七 後翅8は小さい横脈によつて中室と結合されて居る(第二百九圖)(ミカンハマキ *Depressaria*。バクガ *Sitotrogus*).....バクガ科 *Dielismeridae*.....三八
- 後翅8は横脈によつて中室と結合されて居ない.....三八

- 三八 後翅6と7とは離れて平行し、2乃至4は離れても亦平行しても居ない(第二百十一圖)(ワタミガ *Oecophora*).....ワタミガ科 *Oecophoridae*
- 後翅6と7とは離れても居ないし、平行しても居ない。2乃至4は離れ且つ平行して居る(第二百十二圖)(カキノミガ *Kakivoria*。 *Cosmopteryx*).....カキノミガ科 *Momphidae*
- 三九 下唇鬚は中等なるか、或は長く水平に突出するか、或は斜に突出する。第二節は厚く長鱗又は短鱗を被り、多少三角形なるが通常である。第三節は短いか、或は中等で、圓筒形をなして末端鈍である.....四〇
- 四〇 下唇鬚の第二節は厚く鱗を被らない。若し三角形を呈する時には長鱗毛を被る.....四三
- 前翅2は中室内縁の3-4を超えた處から發して居る.....四一
- 前翅2は中室内縁の3-4若くは其れを超えざる處より發して居る.....四二
- 四一 後翅5を缺いて居る(モモンクヒガ *Carpocina*).....シンクヒガ科 *Carpocinidae*
- 後翅5は存する(第二百十三圖)(ギンスデハマキ *Phalonia*).....ホンハマキガ科 *Comnophiliidae*
- 四二 後翅上面では中室内縁に刺毛を生じて居る(第二百十四圖)(クハヒメハマキ *Exartema*。 ナシヒメシンクヒガ *Iaspesysia*。 アヅキサヤムシガ *Thiodia*).....ヒメハマキガ科 *Fucosmidae*

- 後翅上面では中室内縁に刺毛を生じて居ない(第二百五圖)(アトキハマキ *Caecocia*。 スモモハマキ *Tortrix*).....ハマキガ科 *Tortricidae*
- 四三 下唇鬚は三節からなり、絲狀で、屢々曲つて居る。稀に微小なるか、或は退化して居る.....四五
- 下唇鬚は絲狀でなく、水平に突出して居る.....四五
- 四四 後翅は槍穂狀、或は絲狀をなして居る。前翅中室の前縁1-3は不明瞭なのが普通で、7は前縁に終る(第二十圖)(ホンガ *Lithocletis*).....ホンガ科 *Eucestidae*
- 後翅は短卵形、或は長卵形で、前翅7は外縁に終つて居る(第二百十六圖)(コナガ *Putella*。 ナツメコガ *Cerosoma*).....ナガ科 *Putellidae*
- 四五 前後兩翅の中室は開いて居る。3乃至5は缺けて居る。下唇鬚は長くして疊み込まれる。頭部には粗く鱗を被り、觸角には眼蓋(*Eye-cap*)を有して居る(第二百十七圖)(ケナガガ *epicula*).....ケナガガ科 *Sigmellidae*
- 兩翅共に中室は閉される。3乃至5は全部は缺けて居ない.....四六
- 四六 前翅の前角は上方或は下方に曲る。下唇鬚は通常長くして疊み込まれる。觸角は屢々眼蓋を有して居る。頭部は通常上方に毛叢を有するも往々平滑な事がある(第二百十八圖)(モ、ム

グリガ *Lyonetia*).....ムグリガ科 *Lyonetiidae*

四七 前翅の前角は上方或は下方に曲つて居ない.....四七

四七 觸角は前翅の一倍乃至四倍の長さがある。後翅<sub>3</sub>及び<sub>4</sub>は通常離れて居る。6は<sub>5</sub>或は<sub>7</sub>と柄を有する事が屢々ある。下唇鬚は三又は五節から成つて居るか、或は退化して居る(第二五十八圖)(ヒゲナガ *Atelea*。ギンステヒゲナガ *Nemotois*).....ヒゲナガ科 *Nemophoridae*  
觸角は前翅より短かい.....四八

四八 頭部は通常粗に鱗を被る。下唇鬚は屢々長くして疊み込まれ、水平に突出するか、或は上向き、多少鈍である。前翅<sub>7</sub>は前縁に終る。後翅<sub>2</sub>乃至<sub>4</sub>は通常遠く離れ、<sub>5</sub>及び<sub>7</sub>は柄を有し、<sub>7</sub>は離れて居る(第二十九圖)(コイガ *Lineola*。モウセンガ *Trichophaga*).....コクガ科 *Phycidae*

四九 頭部は短鱗を被るか、或は平滑である。小腮鬚は退化するか、或は缺けて居る.....四九  
四九 下唇鬚は通常彎曲して上向する。第三節は屢々上下に壓迫せられて末端尖るか、或は鈍である。後翅は廣き卵三角形をなすか又は平行四邊形をなし、槍穂状をなす事は稀である。上面に於ては中室の内縁に刺毛を生じて居ない。前翅は長形なるか或は三角形に近く、可なり廣

い事が屢々ある(第二十二圖)(ハマキモトキ *Simactis*。Glyphipteryx).....ハマキモトキガ科 *Simactidae*  
下唇鬚は屈曲して上向し、末端尖り、第二節を被ふ鱗片は其の遠端の下部で稍三角形に突出して居る。前翅<sub>5</sub>は缺け、<sub>7</sub>及び<sub>8</sub>は癒合して前縁に終つて居る。後翅は槍穂状である(第二十二圖)(ツツミノガ *Coleophora*).....ツツガ科 *Haplophiliidae*  
下唇鬚は中等で上向して居る。前翅には縁紋があつて、<sub>7</sub>は外縁に終つて居る。頭部は短鱗を有して居るか、或は頭頂には粗に鱗を被る(第二十二圖)(メガ *Hypnomenta*).....メガ科 *Hypsiophidae*

雙翅目 Order Diptera

微小のものから中等の大きさのもの迄ある。有翅のものと無翅のものとあつて、有翅の場合には前翅一對だけ存し、後翅は退化して棍棒状のものとなつて居る。頭部は通常垂直で、自在に動き、口器は吸収に適して居る。前胸及び後胸は小さくて、大い中胸と癒着して居る。有翅のものにあつては翅は膜質で翅脈の数は多くない。脚は通常二對共に同様で跗節は五節から成つて居る。



幼虫は無脚で頭部は時として胸部に陥入して居るか或は頗る不明瞭である。食物は一定して居ない。

- 一 觸角は一般に胸部より長く、八乃至十六節から成つて居るのが通常である。稀に色々な剛毛突起 (Style) を有する。翅の 1st A 室は廣く開き、稀に翅縁に於て狭くなつて居る。1st M<sub>2</sub> 室は通常缺け、R<sub>2+3</sub> は往々分岐して居る。内縁小片は無い。小髯鬚は通常長く下垂し、四又は五節から成つて居る。體には極めて稀に剛毛を有する……………二
- 觸角は通常三節から成り、第三節は往々複雑であるか、或は色々な剛毛状突起を有する。1st A 室は外方が狭くなつて居るか、或は閉ぢて居り、時としては甚だしく短いか又は全く消失して居る。1st M<sub>2</sub> 室は通常存在する。R<sub>2+3</sub> は決して分岐しない。小髯鬚は短くして前方に突出し二節以上から成る事は決してない……………一三
- 二 少くとも九本の翅脈が翅縁に達し、1st M<sub>2</sub> 室は往々存在し、R<sub>2</sub> と R<sub>3</sub> 及び M<sub>1</sub> と M<sub>2</sub> とは分岐して居る……………三
- 翅縁に達する翅脈の数は九本以内で、中央室は無い……………九
- 三 前縁脈は翅を取り圍み、單眼は大抵缺けて居る……………四
- 前縁脈は翅尖を超へては甚しく細くなり、單眼は存在する (第二百二十三圖) (カバイ Rhyphididae)……………四

hus)……………カバイ科 Rhyphidae

- 四 翅脈には鱗片又は毛を生じて居ないが、若し毛を生じて居るならば中胸背板にはV字状の縫合線を有する。脚は甚だ細長く、體、翅も細長く、雄の複眼は上方で接して居ない……………五
- 翅脈竝に内縁には鱗片又は毛を生じ、體にも鱗片又は毛を生じて居る。中胸背板には横走縫合線を有しない……………六
- 五 中胸背板には明瞭なる横走縫合線を有しない。R<sub>2+3</sub> は甚しく前方に彎曲して居る (第二百二十四圖) (ホソカ Dixidae)……………ホソカ科 Dixidae
- 中胸背板には多少明瞭な縫合線を有し、雌は圓錐形の産卵管を有して居る……………七
- 六 翅は卵形であるか又は尖つて居り、靜止の際は屋斜狀に置き、翅脈には毛を密生して居る。脛節末端には距を有して居ない。アリに似たハイである (第二百二十五圖) (テフバイ Psychoda)……………テフバイ科 Psychodidae
- 翅は細長くして、靜止の際屋斜狀に置かれぬ。翅脈には鱗片を生じて居る。脛節末端には距を有する (第二百二十六圖) (ウスカ Culex。ヤブカ Stegomyia。ハマダラカ Anopheles)……………カ科 Culicidae

- 七 中胸背板の縫合線は明瞭なV字形をなし、臀脈は二本ある(第二百二十七圖)(キリウジカガ  
ンボ Tipula。ヒッコウカガンボ Dictenidia。ウスイロカガンボ ダマシ Timnobia。ホンカガンボ  
ダマシ Trichocera).....カガンボ科 Tipulidae
- 八 翅には第二次的の翅脈を多數に有して蜘蛛の巢狀の翅脈を呈して居る(第二百二十八圖)(ク  
ロバアミメカ Liponeura).....アミメカ科 Blephaloceridae  
翅脈は蜘蛛の巢狀を呈して居ない.....九
- 九 2d M室を有し、觸角は通常胸部よりも短く、各環節間に縊れがない。單眼は大抵存在する(第  
二百二十九圖)(ケバイ Bibio。セアカケバイ Penthetria).....ケバイ科 Bibionidae  
2d M室は無s.....10
- 10 觸角は胸部よりも短かく、割合に頑丈で十又は十一個の密着した環節から成つて居るが、決  
して羽毛狀をなす事はない。雄の複眼は上方で合して居る。體は頑丈で、脚は強い。翅脈は  
前部にあるものが強く、後部にあるものが弱い(第二百三十圖)(ブエ Simulium).....  
.....ブエ科 Simuliidae  
觸角は長くして細く、各環節は幅よりも長さが大い。稀に扁平となつて居る。體は細長s...

- .....11
- 11 脛節端には距を有し、基節は通常長い。二個又は三個の單眼の存在するのが通常である。複  
眼は分離して居る(第二百三十一圖)(ナカモンキノコバイ Mycetophilus。ヒゲナガキノコ  
バイ Macrocera。ランノキノコバイ Scira。ツマグロキノコバイ Mycomyia).....  
.....キノコバイ科 Mycetophilidae  
脛節端には通常距を有しない。單眼を有しない事が屢々ある。基節は左程長くなs.....12
- 12 前縁脈は翅を圍んで居る。翅は大抵の場合微毛を生じ、縦走脈は二本あるのが普通で、Cu<sub>1</sub>と  
Cu<sub>2</sub>とは柄を有して居る。明瞭な横脈はない。複眼は通常分離する(第二百三十二圖)(クハ  
ハマダラタマバイ Diplois).....タマバイ科 Cecidomyiidae  
前縁脈は翅を圍んで居ないか、又は弱くなつて圍んで居る。縦走脈は二本以上ある。雄の複  
眼は通常上方で合して居る(第二百三十三圖)(ヌカカ Ceratopogon。イネユスリカ Chiron-  
omus).....ユスリカ科 Chironomidae
- 13 爪間突起は發達して褥盤狀をなし(第二百三十四圖)(三枚の同大の板狀物が爪の下にある)  
頭部及び胸部には強い剛毛がなs.....14

爪間突起は發達して居ないか、或は剛毛状となつて居る(第二百五十三圖)(二枚の同大の板状物が爪の下にある)。剛毛は時としてよく發達し、觸角の第三節は決して眞の環紋を有して居ない……………一八

一四 觸角の第三節は複雑で、環紋によつて明瞭な四節乃至八節に認められるか、或は觸角が五節以上から成つて居る……………一五

觸角の第三節は簡單で、環紋を有して居ない……………一七

一五 前縁脈は翅を圍んで居ない。翅の前部にある翅脈は通常前縁の近くに集合し、他の翅脈は弱S(第二三六圖)(ミツアブ *Stratiomyia*。ルリミツアブ *Sargis*。カウカアブ *Pecicus*)……………ミツアブ科 *Stratiomyidae*

前縁脈は翅を圍んで居る。翅脈は翅の前部に集つて居ない。翅尖は  $R_2$  と  $R_3$  との間にあつて  $R_2$ 、 $M$ 、 $2M_2$ 、 $M_3$ 、 $Cu_1$  の五室を存する……………一六

一六 内縁小片は小さいか或は痕跡となつて居る。頭部は半球形でなく、後頭は凸出して居る(第二三十五圖)(キイロシギアブ *Lypsis*。ハマダラシギアブ *Atherix*。キアブ *Xyloxyia*。クサアブ *Cosoromyia*)……………シギアブ科 *Leptidae*

内縁小片は顯著で。觸角の第三節は四乃至八個の環紋を有し、頭部は廣い半球形である。雌は吸血性を有する(第二三十七圖)(ウシアブ *Tabanus*。ゴマフアブ *Haematopota*。メクラアブ *Chrysops*。ヨメアブ *Silvius*)……………アブ科 *Tabanidae*

一七 後脚の脛節には距を有する。前縁脈は翅を圍み、横脈  $H_1$ 、 $H_2$  は明瞭である。内縁小片は痕跡となつて居る……………シギアブ科

脛節の距は短いか又は缺けて居る。前縁脈は翅尖を超へては甚しく弱くなり、横脈  $H_1$ 、 $H_2$  は通常缺けて居るか、或は中央室の基部の近くに存する(第二三十八圖)(コガシラアブ *Oncodes*。セメカコガシラアブ *Philopota*)……………コガシラアブ科 *Cyrtidae*

一八 1st A室は 2d M室よりも著しく長く、開いて居るか或は翅縁又は翅縁の近くで閉ぢて居る。R室は比較的長く  $R_2$ 、 $R_3$  脈は大抵柄を有して居る……………一九

1st A室が存在する時には短くして、翅縁を幾分離れて閉ぢされて居る。1st A室が長くて尖つて居るとも  $R_2$ 、 $R_3$  脈は柄を有して居ない。横脈  $H_1$ 、 $H_2$  は決して無し……………二二

一九 頭頂は平たいか又は凸出して居る。複眼は脹んで居ないで、雄の眼は屢々接して居る。脚は頑丈でなし……………二〇

頭頂は凹み、複眼は脹んで決して相接して居ない。翅脈は多數で、脚は頑丈である(第二十三十九圖)(ムシヒキアブ *Asilus*、シホヤアブ *Proctonus*、イシアブ *Laphria*).....

二〇 横脈  $m-cu$  並びに  $R_2$ 、 $M_1$ 、 $2d M_2$ 、 $M_3$ 、 $Cu_1$  の五室を存し、腹部は稍と長くして尾端に向つて尖つて居る(第二十四圖)(ツルギアブ *Thereva*).....ツルギアブ科 *Therevidae*

横脈  $m-cu$  を缺き、 $R_2$ 、 $M_1$ 、 $2d M_2$ 、 $M_3$ 、 $Cu_1$  の五室の中三乃至四室だけを存して居るが、稀に五室を有する事がある。腹部は通常卵形である.....二一

二 口吻は長くして細く、體は通常柔毛を密生して頑丈である。稀に細長くして裸出して居る。觸角には小さい剛毛状突起を存するのが普通で、 $M_1$  脈は翅尖を超へた處に終つて居る(第二

百四十一圖)(ヒロドツリアブ *Bombylus*、トラツリアブ *Anastoechus*、スキバツリアブ *Anthrax*、コウヤツリアブ *Spegostylum*).....ツリアブ科 *Bombylidae*

口吻は隠れ、體は裸出し、觸角には剛毛状突起がない。 $M_1$  脈は翅尖に終つて居る(第二四十二圖)(トビミイ *Scorpinus*).....トビミイ科 *Scorpinidae*

三 顔面縫合線がなく、 $Cu_2$  脈は通常基部に向つて屈折して居る。1st A室が尖つて居る際には

觸角の剛毛状突起は末端に發して、内縁小片は顯著でない.....二三

$Cu_2$  脈が基部に向つて屈折して居るならば顔面縫合線が明瞭である。顔面縫合線が不明瞭ならば 1st A室は  $2d M_1$  室よりも長し。觸角の剛毛状突起は末端に發して居ないで、内縁小片は大抵顯著である.....二六

三 脈相は普通で、弱い斜走脈はない。觸角は明瞭に二乃至三節から成つて居る.....二四  
翅が存する時には翅の前部にある翅脈は強くて前縁に終り、他は弱くして斜走して居る。觸角は明かに一節から成り、長い剛毛状突起を有して居る。後脚は長く、腿節は側扁である。(第二四十三圖)(キイロノミミイ *Phora*、クロノミミイ *Conicera*).....ノミミイ科 *Phoridae*

二四 翅尖は圓く、 $R_{2+3}$  脈は翅尖の前可なりの處に終り、横脈を有する。雄の複眼は屢々接して居る.....二五

翅尖は尖り、基部を除く外に横脈は無し。 $2d M_1$  室は短く、 $R_{2+3}$  脈は大體翅尖に終つて居る複眼は離れて居る(第二四十四圖)(ヤリバイ *Lonchopera*).....ヤリバイ科 *Lonchopteridae*  
二五 少くとも  $M_1$  室は明瞭である。1st  $M_2$  室は通常  $2d M_1$  室から分離し、 $R_2$  と  $R_3$  とは往々分岐して居る。口吻は通常硬く、觸角の剛毛状突起は通常末端に存する。腹部は七節から成る

- のが通常である。大抵金屬的色彩を有しない(第二百四十五圖)(ヲドリバイ Empis。ホソヲドリバイ Rhamphomyia).....ヲドリバイ科 Empidae
- R<sub>2</sub>室又は R<sub>2</sub>M室は小さくして不明瞭で、1st M<sub>2</sub>室は R<sub>2</sub>M室と癒合して居る。口吻は肉質で、腹部は五又は六節から成るのが通常である。通常金綠色である(第二百四十六圖)(アシナガキンバイ Dolichopus).....アシナガキンバイ科 Dolichopodidae
- 二六 1st A室は長くして尖り、通常翅縁に向つて閉ぢて居るが、R<sub>2</sub>M室よりは長い。顔面縫合線は大抵不明瞭である.....二七
- 1st A室が存在するとしても短くて、翅縁を去る遠い處で閉ぢ、尖つて居ない。R<sub>2</sub>M室は R<sub>2</sub>M<sub>2</sub>室より著しく短いのが常である。顔面縫合線は明瞭である。R<sub>2</sub>室と R<sub>2</sub>室とは決して閉ぢて居ない。觸角第三節には剛毛状突起を背面に有する。體並に脚に存する剛毛は通常明瞭である.....三〇
- 二七 口吻の伸長して居る事は殆んどない。雄の複眼は通常接して居る.....二八
- 口吻は長くして細い。顔面には觸角の下方に溝を有し。複眼は接しない(第二百四十七圖)(シチホドキ Conops。ホシメギイ Myopa).....メバイ科 Conopidae

- 二八 R<sub>2</sub>室は開き、横脈 r<sub>1</sub>を横ざる翅脈はない.....二九
- R<sub>2</sub>室は閉ぢ、R<sub>2</sub>と M<sub>1</sub>脈との間に横脈 r<sub>1</sub>を横ざる翅脈の存するのが通常である(第二百四十八圖)(ハナアブ Eristalis。ヒラタアブ Syrphus。アシフトハナアブ Helophilus。オホハナアブ Megaspis。ヒメヒラタアブ Sphaerophorn。セスチヒラタアブ Melanostoma).....ハナアブ科 Syrphidae
- 二九 觸角の剛毛突起は末端に存し、後脚の脛節並に跗節は膨大して居る(第二百五十圖)。頭部、胸部には剛毛を有する(第二百四十九圖)(ヒラタアシバイ Platypeza).....ヒラタアシバイ科 Platypezidae
- 觸角の剛毛突起は背面に生じ、後脚は膨大して居ない。眞の剛毛を有しない(第二百五十一圖)(メダマアブ Pipunculid).....メダマアブ科 Pipunculidae
- 三〇 頭部は胸部から動き易いやうに分離され、脚は廣く相離れて居ない.....三一
- 頭部は小さくして胸部と固く結合して居るか、又は背面に折り疊まれて居る。成蟲は革質又は角質で、屢々翅を缺いて居る。溫血動物、又は蜜蜂の外部に寄生する。胎生で生れた幼蟲は已に蛹化せんとする迄に發達して居る.....三二

- 三二 平均棍上の小鱗は大きく、雄にありては顔面は狭いか、或は眼が相接して居る(第二百五十二圖)(イヘバィ Musca。ダイコンバィ Anthomyia。クロバィ Calliphora。キンバィ Lucilia。ニクバィ Sarcophaga。ヤドリバィ Tachina。カヒロノウシバィ Sarrnia。ウマバィ Gastrophilus)..... イヘバィ科 Muscidae
- 平均棍上の小鱗は小さいか或は退化し、雄の眼は大きくない(第十七圖版第二百七十八圖)(シヤウジヤウバィ Drosophila。ミカンバィ Dacus)..... イヘバィダマシ科 Borboridae
- 三三 頭部は胸部背面に折り疊まれ、無翅で、蝙蝠に寄生する(第二百五十四圖)(カウモリクモバィ Pucillidia)..... クモバィ科 Nycteribidae
- 頭部は折り疊まれて居ないで胸部に陥入し、無翅、有翅とあつて、鳥類、哺乳類又は蜜蜂の外部に發見される..... 三三
- 三三 複眼を有し、觸角は三節から成つて居る。蜜蜂に外部寄生をして居る(第二百五十五圖)(ミツバチシラミバィ Braula)..... ミツバチシラミバィ科 Braulidae
- 複眼を有し、觸角は一節から成り、哺乳類、鳥類の外部寄生をする(第二百五十六圖)(イヌシラミバィ Hippoboscus。ヒツシシラミバィ H. lophogus。アラバトシラミバィ Ornithomyia)..... シラミバィ科 Hippoboscidae

蚤 目 Order Suctoria

小形、無翅、甚しく側扁で、跳躍する。成蟲時代には温血動物の外部に寄生する。頭部は小さく、觸角は短大で、單眼(往々缺けて居るが)直後の凹處に發して居る。口器は吸収に適し、胸節は癒合して居ない。脚の基節は大きくして、相密接し、跗節は五節、尾毛は一節である。幼蟲は細長くして、口器は咀嚼に適し、無脚である。腐朽した植物質を食つて居る。

(第二百五十七圖)(ノメ Pulex。イヌノメ Ceratopsyllus。インドノメ Ctenopsyllus。トリノメ Xestopsyllus)..... ノメ科 Pulicidae

半翅 首目 Superorder Hemiptera

口器は環節から成る口吻となつて吸収に適して居る。有翅の場合には前翅一對だけを有する場合と、前後翅を有する場合とあつて、全部同質の場合と、前翅の基部約半分が多少角質に硬化して所謂半翅鞘 Hemelytra となつて居る場合とある。變態は一部のものを除けば全部不完全である。

異 翅 目 Order Heteroptera

頭部は遊離して、環節から成る口吻は頭部の前端から發して居るのが通常である。觸角の環節數は少なく、陸棲のものにあつては長い場合が多い。前胸は太くして遊離し、翅は腹背上に水平に重ねられ、前翅は半翅鞘(第二百六十圖)をなし、後翅の臀部は廣い。翅は時として小さくなつて居るか、或は全く缺けて居る。尾毛はない。變態は不完全である。

體は通常扁平又は圓筒形で、微小のものから可なり大いもの迄ある。水棲又は陸棲で、動植物の液汁を吸収する。

- 一 觸角は顯著で、頭部の前方に於て自在に動かす事が出来る……………二  
觸角は隠されて居て頭部の下面に密着して居るか、或は頭部の下面にある凹處にある：一四
- 二 腹部下面には銀色の柔毛を生じて居ない……………三  
腹部下面には銀色の柔毛を生じて居る(第二百六十圖)(シマカハグモ *Metrocoris*)……………  
……………カハグモ科 *Hydrometridae*
- 三 小楯板は少くとも膜質部の基部に迄達して居るか、或は少くとも腹部の半に達して居る。時と

- ……………マルガメ *Coplosoma*。ミカンガメ *Selenotethinum*。オホキンガメ *Chrysocoris*。キンガメ *Pecilioeoris*。アカスチガメ *Graphosoma*。タロガメ *Podops*。イネガメ *Aenaria*。ウツラガメ *Aelia*。ムラサキガメ *Carpocoris*。フチヒゲガメ *Dolycoris*。アヲガメ *Nezara*。ナガメ *Eurydema*。クチフトガメ *Pieromerus*。クヌギガメ *Urostylus*。ツノガメ *Acanthosoma*)……………カメムシ科 *pentatomidae*
- 小楯板は膜質部の基部にも亦腹部の半にも達して居ない……………四
- 中胸側板と後胸側板とは一の骨片から出來て居るだけで半翅鞘には楔形部を缺いて居る…五
- 中胸側板と後胸側板とは數個の骨片から成立し、半翅鞘には楔形部を有する……………一二
- 跗節は三節から成る……………六
- 跗節は二節から成る……………一一
- 口吻は基部に於て彎曲しないで、使用しない時は頭部の下面に接して置かれる……………七
- 口吻は基部に於て彎曲し、使用しない時には頭部の下面に接して置かれない(第二百六十三圖)……………一〇
- 七 觸角は多くの場合長くして四節で、頭側の上部に發して居る……………八

- 八 觸角は複眼の中心から顔面の先端に引いた線の下部に發して居る……………九
- 脚は中等の長さで腿節の末端が膨大して居ない(クモガメ *Leptocoris*、ハリガメ *Oleus*、ハラ  
ピロガメ *Homocoeurus*、ホンヘリガメ *Riptortus*、ホホヅキガメ *Acantho oris*)……………
- ……………(リガメ科 *Coreidae*  
脚は細くして長く、腿節の末端は膨大して居る (二百六十二圖)(イトカメムシ *Yemma*)…  
……………イトガメ科 *Berytidae*
- 九 單眼はある(カンシヨクロナガガイタ *Bissus*、メダカガメ *Chauliopa*、イチゴガメ *Pamera*、  
クロモンナガガメ *Paradiacnes*)……………ナガガメ科 *Lygaeidae*
- 單眼はない(アカギホシガメ *Physopelta*、アカホシガメ *Dysdercus*)…ホシガメ科 *Pyrho oridae*
- 一〇 口吻は長く、單眼は複眼の間にある(ミヅキハガメ *Ida*)……………ミヅガメ科 *Salidae*
- 口吻は短かく、單眼の存する時には複眼の後方に存して居る(二百六十三圖)(クロモンサ  
シガメ *Pirate*、アカサシガメ *Cydnocoris*、ホンサシガメ *Pygolampis*)……………  
……………サシガメ科 *Reluvitidae*
- 一一 半翅鞘は全部膜質で多少網状の翅脈を有して居る。前脚は前胸板の後縁に發して居る(グン

- バウムシ *Stephanitis*)……………グンバウムシ科 *Tingitidae*
- 半翅鞘には網状の翅脈を有しない。前脚は前胸板の中央に發して居る(ヒラタカメムシ *A-*  
*rillus*)……………ヒラタカメムシ科 *Aradidae*
- 一二 半翅鞘には中間部がない(イネメクラガメ *Lygus*、フタモンメクラガメ *Adelphocoris*、リン  
ゴメクラガメ *Heterocordylus*、アカヒゲメクラガメ *Megalocera*、ムギノメクラガメ *Mir-*  
*is*)……………メクラガメ科 *Cyspidae*
- 半翅鞘には中間部がある……………一三
- 一三 單眼はない(第二百六十四圖)(トコシラミ *Cinex*)……………トコシラミ科 *Cimicidae*
- 單眼はある(ヒメカメムシ *Anthoris*)……………ヒメカメムシ科 *Anthoridae*
- 一四 體は短かくして廣く、頭部は甚だしく廣くして複眼は突出して居る。單眼は存し、後脚は細  
くして歩行に適する(第二百六十五圖)(メミヅムシ *Pelagonis*)…メミヅムシ科 *Pelagonidae*
- 體は長いか又は卵形で、頭部は普通の大きさである……………一五
- 一五 前脚は前胸板の後縁に發して居る……………一六
- 前脚は前胸板の前縁に發して居る……………一七



- 一六 口吻は遊離して、三乃至四節から成つて居る(第二百六十六圖)(マツモムシ科 *Notonecta*、*マツモムシ* *Anisops*、マルミヅムシ科 *Plaes*).....マツモムシ科 *Notonectidae*  
口吻は隠れて、一節から成つて居る(第二百六十七圖)(ミヅムシ科 *Macrocorixa*、*コミヅムシ* *Corixa*).....ミヅムシ科 *Corixidae*
- 一七 觸角は三節から成り、腹部末端に長い管状の附屬物を有する(第二百六十八圖)(ミヅカマキリ科 *Nepidae*、*ミヅカマキリ* *Ranatra*、タイコウチ科 *Laccotrepes*).....ミヅカマキリ科 *Nepidae*  
觸角は四節から成り、腹部末端には附屬物がなし.....一八
- 一八 後脚の脛節には刺が多い(コバンムシ科 *Naucoris*、ナムブタムシ科 *Aphelocheirus*).....コバンムシ科 *Naucoridae*  
後脚の脛節は扁平で、游泳に適する様に毛を生じて居る(第二百六十九圖)(タガメ科 *Belostomatina*、*コバムシ* *Sphaeroderma*).....タガメ科 *Belostomatidae*

同 翅 目 Order Homoptera

口吻は環節を有し、頭部下面の後縁に發して居る。基部の環節は甚だ短かい。稀に雄の口吻は缺けて居る。翅は往々缺けて居るが、存在する時には(時に前翅一對のみ存する時もある)全部同質で前翅が半翅鞘となつて居る事はない。静止の際には翅を屋斜狀に體上に置くのが普通である。尾毛はない。變態は大部分不完全であるが、雄に於ては往々、雌に於ては稀に完全なるものがある。

一般に中形乃至小形で稀に大形のものがあり、殆んど全部植物の液汁を吸収する。

- 一 跗節は三節から成り、觸角は甚だ短かく末端に小さい剛毛を有する。口吻は明かに頭部に發して居る(第二百七十圖).....二
- 跗節は二節又は一節から成り、觸角は通常よく發達し、時として缺けて居るが末端に顯著なる剛毛を有して居ない。口吻は前脚の間に發して居る様に見え稀に雄に於ては缺けて居る.....六
- 二 單眼は三個ある。觸角の基節は短かくして末端には四節に分たれて居る毛狀の突起を有する。前脚の基節は肥大して、一般に下面に刺を有する。雄は發音器を有する。比較的大形のものである(ハルゼミ *Terposia*、ヒグラシ *Tanna*、ツクツクガキ *Meimuna*、クヤヤ *Cryptotympana*、*ハルゼミ* *Oncoptympana*、アンラヤ *Graptopsaltria*、ホンヤ *Cicada*、ニイニイヤ *Platypleura*).....ヤ *Cicadidae*  
單眼は二個、稀に三個又は其れ以上ある.....三

- 三 觸角は複眼の下方で頰の兩側に發して居る(セジロウンカ *Librinia*。グンバイウンカ *M. soppo*...  
ra。シユロウンカ *Ommatissus*。アカハネナガウンカ *Diostrorhynchus*。アヲバンゴロモ *Geisha*。ノ  
ツコウハゴロモ *Ricania*。テングスケキ *Dietyphora*。ヒシウンカ *Otharus*。マルウンカ *Gerit-*  
*thus*。カタビロヒシウンカ *Irus*).....ウンカ科 *Fulgoroidea*
- 四 觸角は複眼の前方で複眼の間に發して居る(第二百七十二圖).....
- 五 前胸は腹部の上方に伸長して居ない.....  
前胸は腹部の上方に色々の形をした突起となつて伸長して居る(ツノゼキ *Tricentrus*。マルツ  
ノゼキ *Gargara*).....ツノゼキ科 *Meloboridae*
- 六 後脚の脛節には一個或は二個の強い鋸齒を有し、脛節端には短かくて強い距を群生して居る。  
(第二百七十一圖)(シロヲビ *Aphrophora*。ロガシラ *Aphrophora*。マキアハ  
キ *Makipythus*).....アハキムシ科 *Cerocephidae*
- 七 後脚の脛節の下面には距を一行に生じて居る(第二百七十二圖)(ヨツモンヒメヨコバヒ *Zyg-*  
*ia*。ツヅグロヨコバヒ *Nephrotettix*。カスリヨコバヒ *Balantia*。フタテンヨコバヒ *Cicadula*。  
ブチミヤクヨコバヒ *Drabesens*。ヒラタヨコバヒ *Strongylocephalus*。ヅキンヨコバヒ *Idiocerus*。

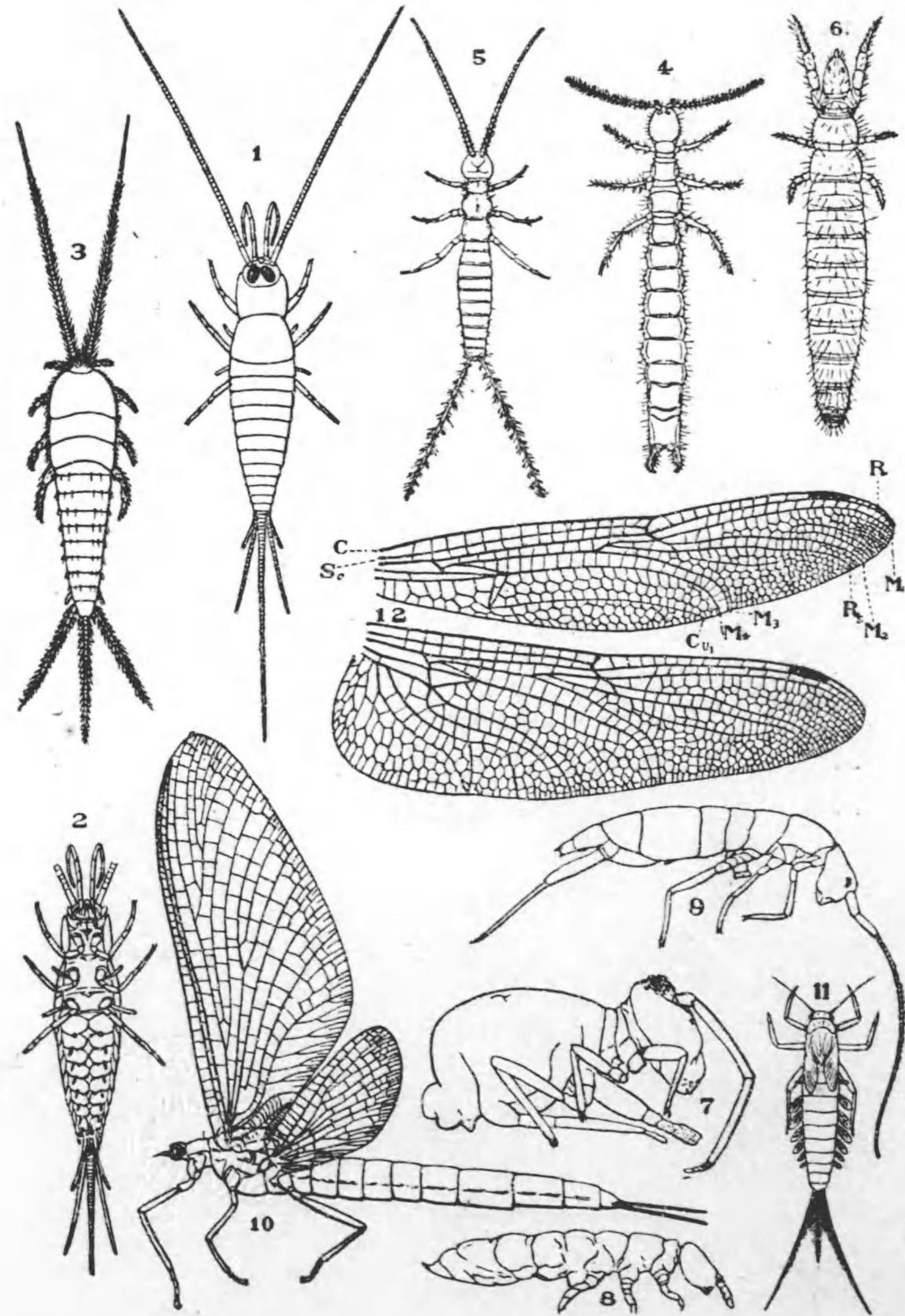
- 六 跗節は通常二節から成り、二本の爪を有し、翅を存する時には四枚ある.....七  
跗節は一節から成り、爪は一本有る。雄の成蟲は口吻を缺き翅は二枚しかない。雌は翅を缺  
き、體は介殼狀か、蟲癭狀か又は地蟲狀で蠟質物を以て被はれて居る。蠟質の被覆は紛狀、大  
い束狀又は板狀、層狀又は薄い介殼狀で其の下に蟲がある(第二百七十三圖)(ワラジカヒガラ  
*M. nophlebis*。ワタフキカイガラ *Leerya*。マツノムグリカイガラ *Matsucoccus*。ルビローウムシ  
*Ceroplastas*。ヒラタカイガラ *Leanium*。ナラノタマカイガラ *Kerres*。サンホーゼカイガラ *A-*  
*splioctus*。クハカイガラ *Diaspis*。ヤノネカイガラ *Prontaspis*).....カイガラムシ科 (*Coccidae*  
*Leyrodes*).....コナシラミ科 *Aleyrodidae*
- 七 翅は透明である.....八  
翅は不透明的で白色である。體翅共に白粉に被はれて居る(第二百七十四圖)(ヒメコシラミ *A-*  
*leyrodes*).....コナシラミ科 *Aleyrodidae*
- 八 後脚の腿節は肥大して跳躍に適し、觸角は九乃至十節である(第二百七十五圖)(クハキシラ  
ミ *Anomoneura*。ナシキシラミ *Psylla*。マダラキシラミ *Aphalara*。トガリキシラミ *Trioxa*)  
.....キシラミ科 *Psyllidae*

脚は細長くして跳躍に適して居ない。觸角は三乃至七節から成つて居る(第二百七十六圖)(オ  
ホアリマキ *Lachnus*。アリマキ *Aphis*。コブアリマキ *Myzus*。リンゴノメンチウ *Eriosoma* = *S-*  
*chizonura*。ケブカアリマキ *Trichosiphum*。ノキロキヤラ *Phylloxera*。ニニ *Schlechtendal-*  
*ia*).....アリマキ科 *Aphididae*

附

圖

第一圖版

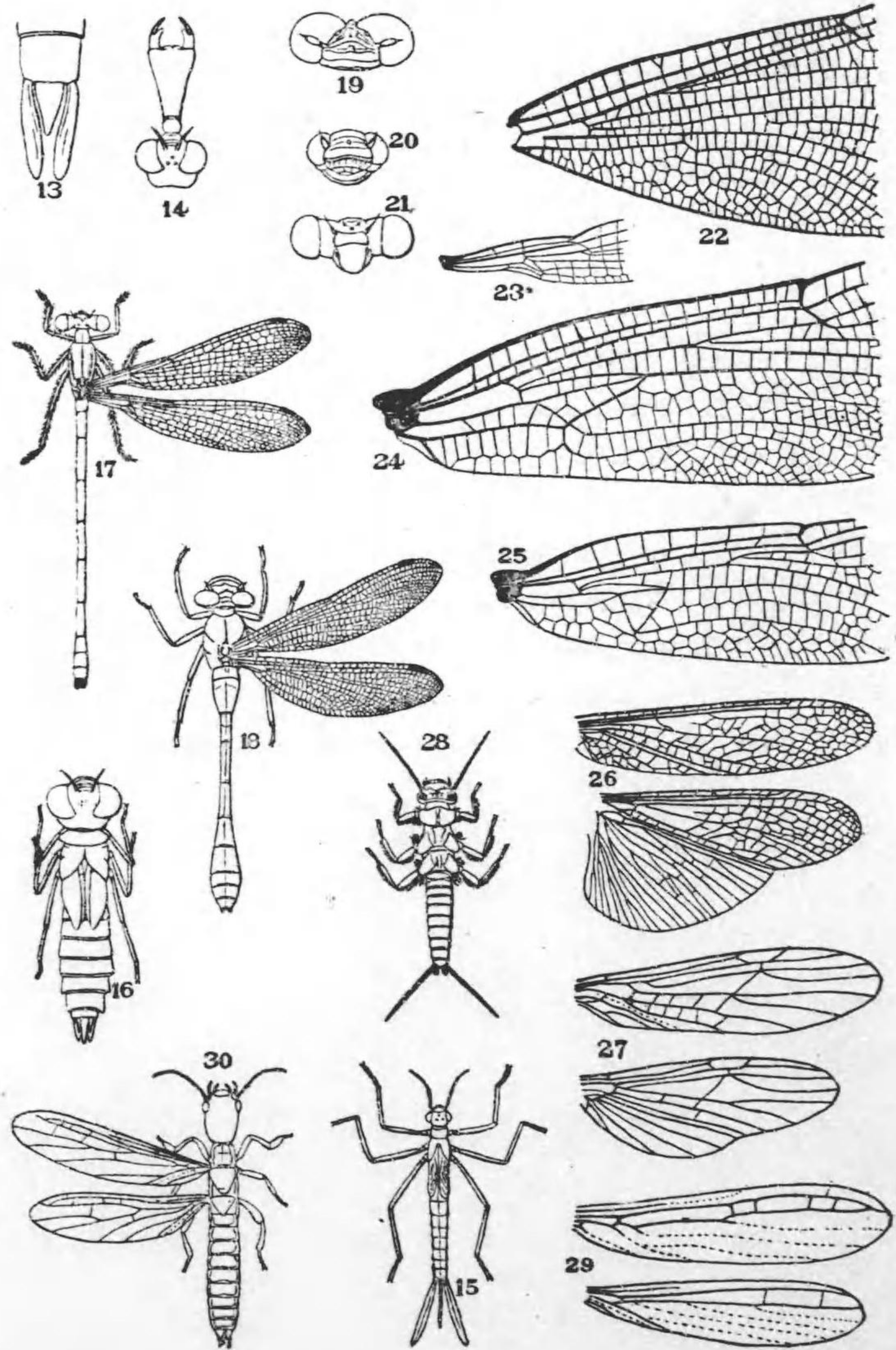


第一圖版

1. イシノミ (*Machilus*) 背面 (Handlirsch) (イシノミ科)  
腹面 (Handlirsch)
  2. シミ (*Lepisma*) (Handlirsch) (シミ科)
  3. ハサミトビムシ (*Japyx*) (Lubbock) (ハサミトビムシ科)
  4. ナガトビムシ (*Campodea*) (Handlirsch) (ナガトビムシ科)
  5. *Acerentomon* (Berlese) (*Acerentomidae*)
  6. マルトビムシ (*Dicyrtoma*) (Handlirsch) (マルトビムシ科)
  7. トビムシモドキ (*Onychiurus*) (Willem) (トビムシ科)
  8. トゲトビムシ (*Tomocerus*) (Willem) (ツノトビムシ科)
  9. カゲロウ (*Ephemera*) (Handlirsch) (カゲロウ科)
  10. カゲロウ (*Baëtis*) 幼蟲 (Eaton)
  11. トンボの翅 (Handlirsch) (トンボ科)
- C — 前縁脈      Sc — 亞前縁脈  
 R<sub>1</sub> — 第一徑脈      Rs — 徑脈分枝  
 M<sub>1</sub> — 第一中脈      M<sub>2</sub> — 第二中脈  
 M<sub>3</sub> — 第三中脈      M<sub>4</sub> — 第四中脈  
 Cu<sub>1</sub> — 第一肘脈

附圖

第二圖版

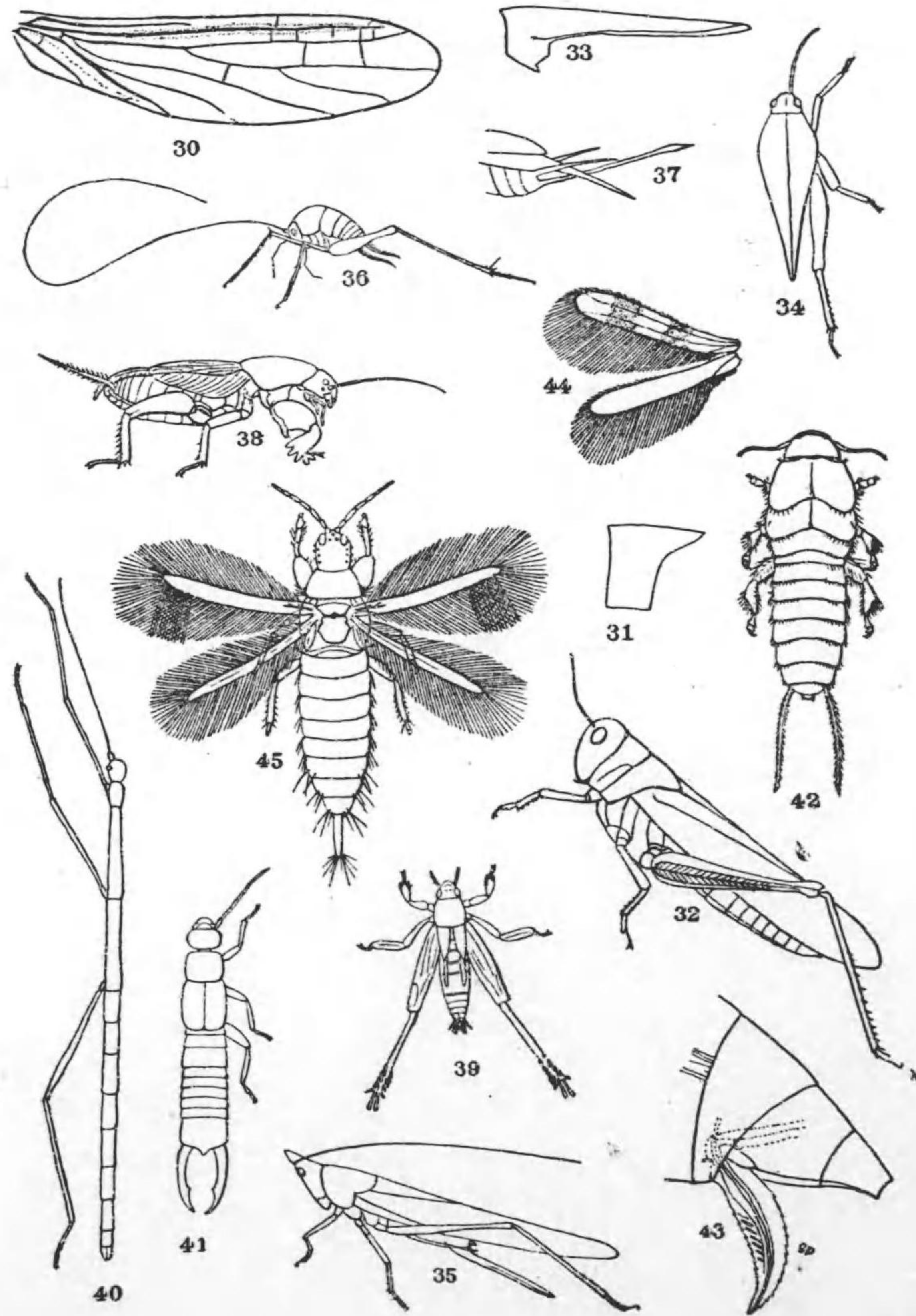


第二圖版

13. ヤンマ (Aeschna) の腹端 (Handlirsch) (ヤンマ科)  
C—尾毛。9, 10, 11—第九・十・十一環節
14. ヤンマ (Aeschna) 幼蟲の頭部 (Tillyard)
15. ハグロトンボ (Calopteryx) 幼蟲 (Handlirsch) (カワトンボ科)
16. ヤンマ (Aeschna) 幼蟲 (Jillyard)
17. ハラナガイトトンボ (Lestes) (Handlirsch) (トウスミトンボ科)
18. ムカシトンボ (Epiophlebia) ( " ) (ムカシトンボ科)
19. " 公 頭部 ( " )
20. " ♀ 頭部 ( " )
21. ハラナガイトトンボ (Lestes) 頭部 ( " )
22. ハグロトンボ (Calopteryx) 翅基部 (Brauer-Ris)
23. イトンボ 翅基部(原圖)
24. ヤンマ前翅基部半(原圖)
25. トンボ前翅基部半(原圖)
26. カハゲラ (Pteronarcys) 翅 (Handlirsch) (カハゲラ科)
27. カハゲラ (Nemura) 翅 ( " )
28. カハゲラ (Perla) 幼蟲 ( " )
29. シロアリモドキ (Oligotoma) 翅 (Comstock) (シロアリモドキ科)

附  
圖

第三圖版

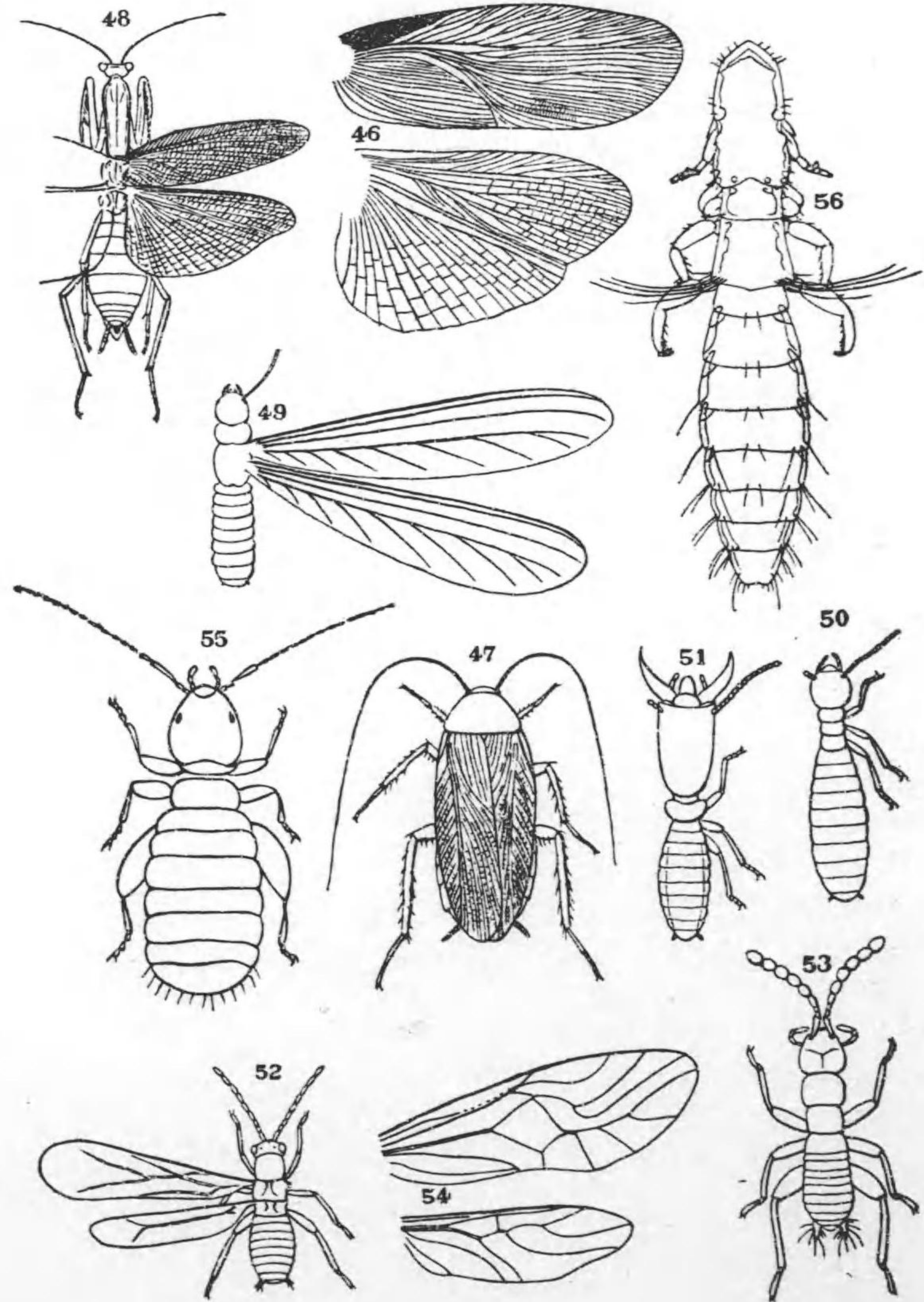


第三圖版

30. ツナムシ (*Embia*) 前翅 (Comstock) (ツナムシ科)
31. トノサマバツタ (*Pachytylus*) 前胸背板側面 (原圖) (バツタ科)
32. "
33. ヒシバツタ (*Jettix*) 前胸背板側面 (Handlirsch) (ヒシバツタ科)
34. " (Handlirsch)
35. クビキリバツタ (*Conocephalus*) (原圖) (キリギリス科)
36. マダラカマドコホロギ (*Diestrumma*) (岡崎) (コホロギ科)
37. エンマコホロギ (*Grylloides*) の後端 (原圖)
38. ケラ (*Gryllotalpa*) (Brunner) (ケラ科)
39. ノミバツタ (*Tridactylus*) (Sharp) (ノミバツタ科)
40. ナ、フシムシ (岡崎) (ナ、フシムシ科)
41. ハサミムシ (*Labidura*) (Burr) (ハサミムシ科)
42. *Hemimerus* (Hansen) (Hemimeridae)
43. アザミウマ腹端 (Handlirsch) (アザミウマ科)
44. シマアザミウマ (*Aeolothrips*) 翅 (Handlirsch) (アザミウマ科)
45. クダアザミウマ (*Phloeothrips*) (Uzel) (クダアザミウマ科)

附  
圖

第四圖版



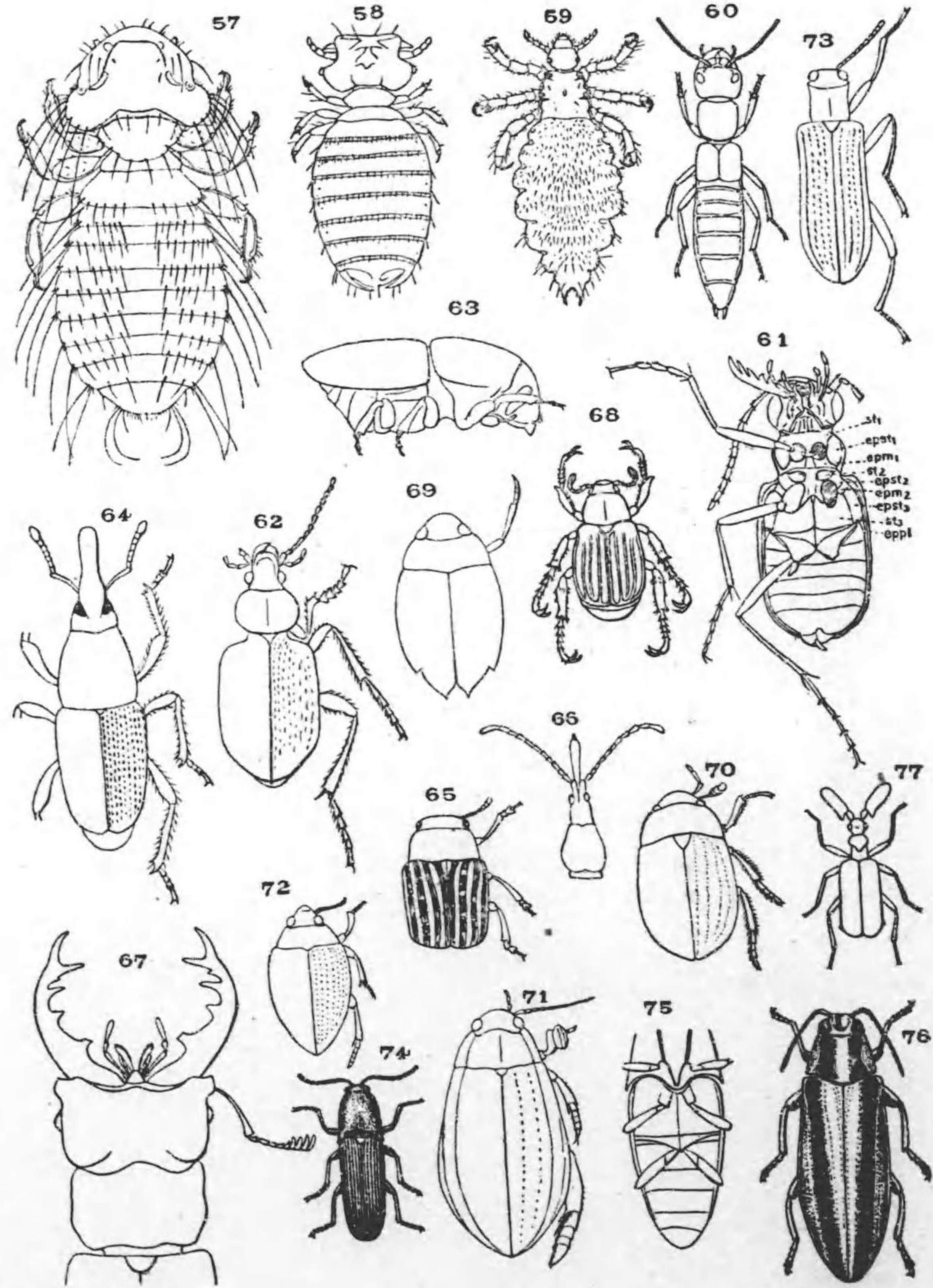
第四圖版

46. アモンゴキアリ (Periplaneta) の翅 (Handlirsch) (ゴキアリ科)
47. チャバネゴキアリ (Phyllodromia) ( " ) ( " )
48. ウスバカマキリ (Mantis) (Brunner) (カマキリ科)
49. ヤマトシロアリ (Leucotermes) 有翅蟲 (矢野氏より) (シロアリ科)
50. " 職蟲 (原圖) ( " )
51. " 兵卒 ( " ) ( " )
52. ソロチプス (Zorotypus) ♀有翅 (Caudell) (Zorotypidae)
53. " 無翅 (Silvestri) ( " )
54. アリマキモドキ (Pseucus) の翅 (Handlirsch) (アリマキモドキ科)
55. コナムシ (Troctes) (M'Lachlan) (コナムシ科)
56. ナガハジラミ (Lipeurus) (内田) (ナガハジラミ科)

附  
圖



第五圖版

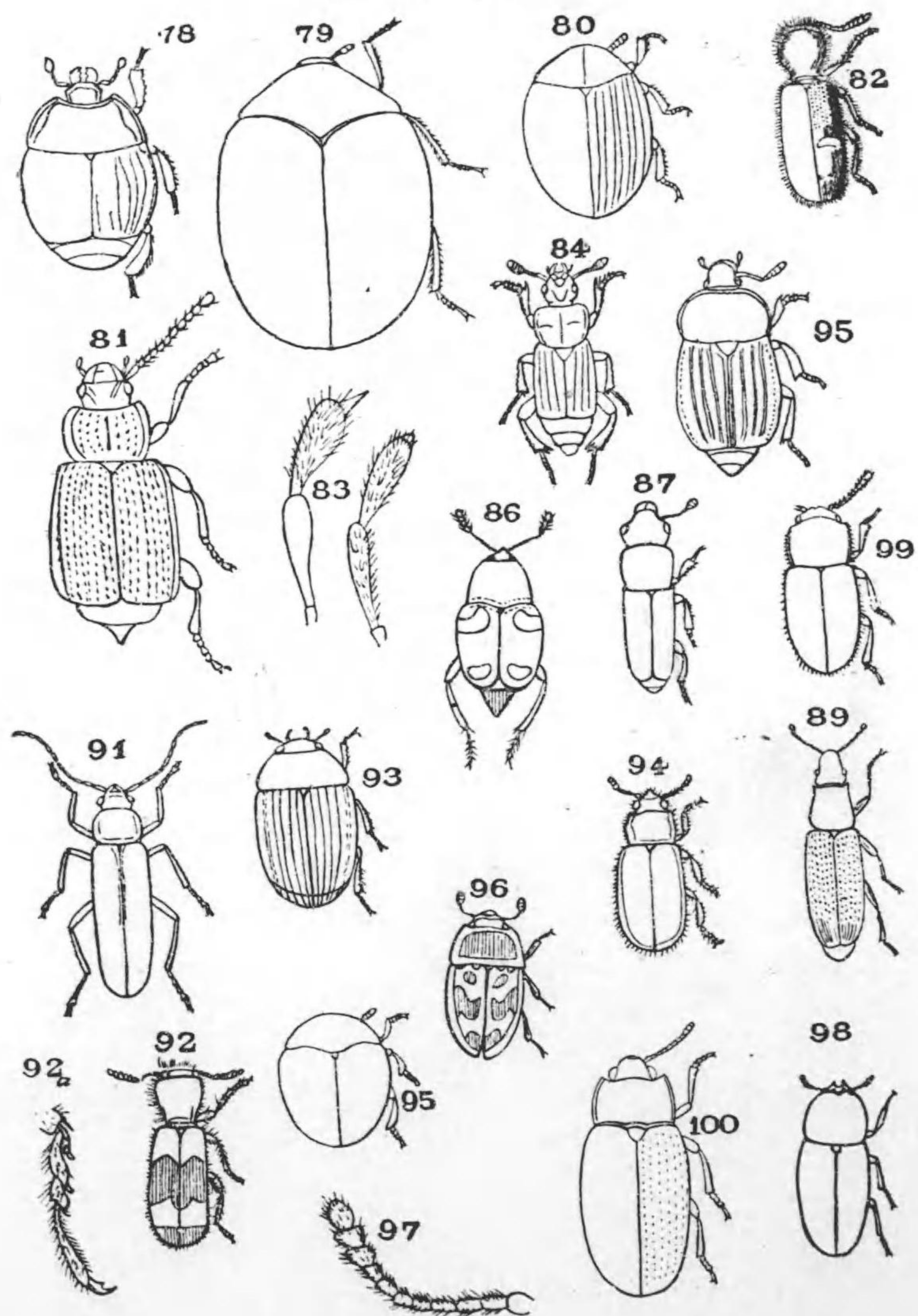


第五圖版

57. ハジラミ (Menopon) (内田) (ハジラミ科)
58. イヌケジラミ (Jrichodectes) (Kellog) (ケモノジラミ科)
59. ヒトジラミ (Pediculus) (Müller) (シラミ科)
60. ハネカクシ (Staphylinus) (Handlirsch) (ハネカクシムシ科)
61. ハンメウ (Ciccindela) 腹面圖 (Handlirsch) (ゴミムシ科)
62. クロカタピロオサムシ (Calosoma) (松村) (ゴミムシ科)
63. ニレノコシクヒ (Scolytus) (新島) (コシクヒムシ科)
64. コクゾウ (Calandra) (農商務省病菌害蟲彙報) (ゾウムシ科)
65. ヒゲナガゾウムシ (Anthribus) (Kuhnt) (ヒゲナガゾウムシ科)
66. ミツギリゾウムシ (Eutrachelus) (Handlirsch) (ミツギリゾウムシ科)
67. ミヤマクハガタ (Lucanus) 頭部 (松村) (クハガタムシ科)
68. オホスゴコガネ (Anoma) (新島、木下) (コガネムシ科)
69. オホミヅスマシ (Dineutes) (松村) (ミヅスマシ科)
70. ガムシ (Hydrophilus) (Kuhnt) (ガムシ科)
71. ゲンゴロウ (Cybister) (Kuhnt) (ゲンゴロウ科)
72. ヒメコガシラミヅムシ (Halipus) (Kuhnt) (コガシラミヅムシ科)
73. ホソドロムシ (Stenelmis) (松村) (ドロムシ科)
74. コメツキムシ (原圖) (コメツキムシ科)
75. コメツキムシ腹面 (Kuhnt) ( )
76. タマムシ (Chrysochroa) (原圖) (タマムシ科)
77. ツノアトゴミムシ (Pausus) (Handlirsch) (ツノアトゴミムシ科)

附  
圖

第六圖版

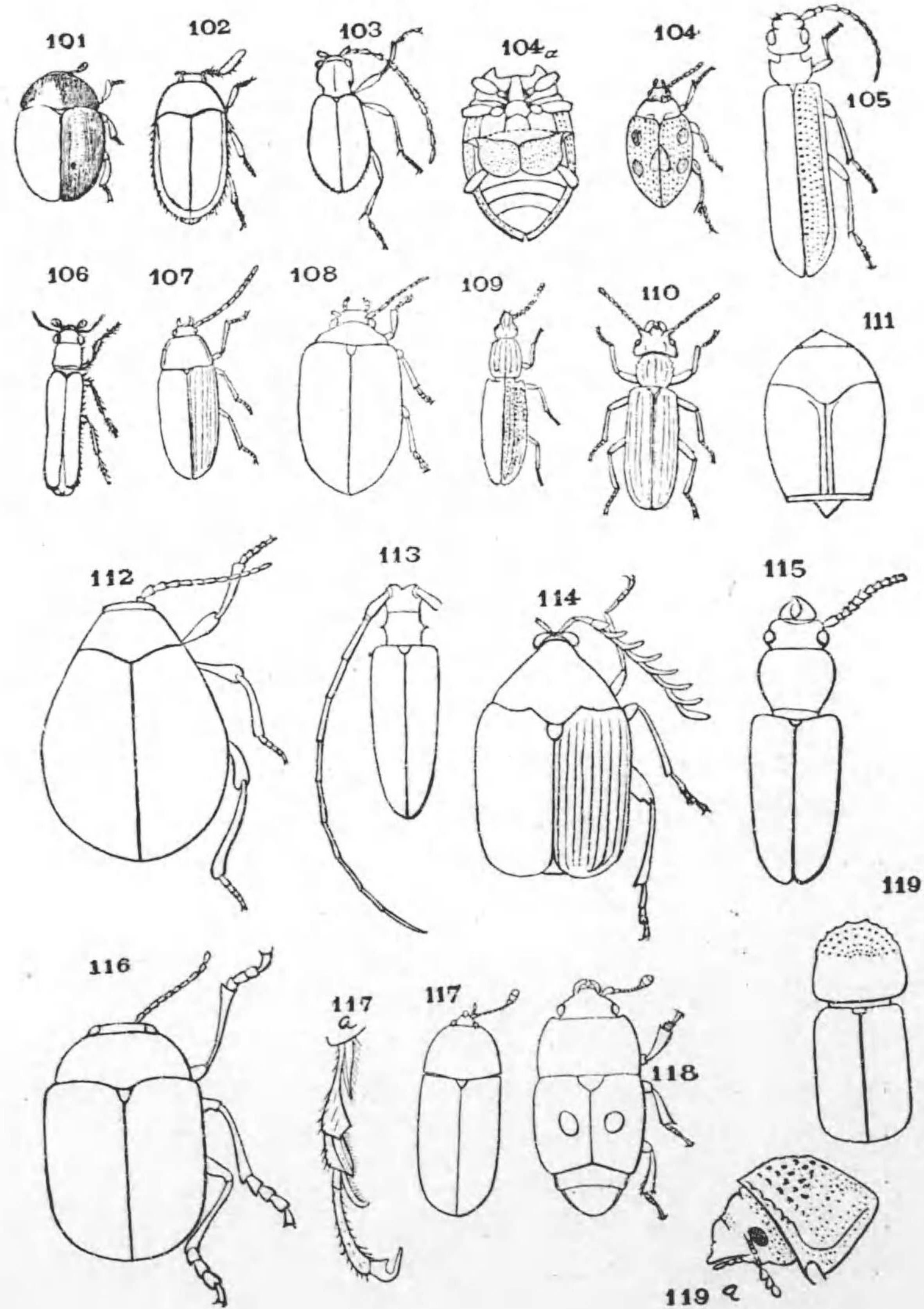


第六圖版

78. エンマムシ (Hister) (Kuhnt) (エンマムシ科)
79. チビマルカツチアブシムシ (Anthrenus) (磯部) (カツチアブシムシ科)
80. カラフトマルトゲムシ (Byrrhus) (Handlirsch) (マルトゲムシ科)
81. ハネカクシ (Lathrimaenum) (Kuhnt) (ハネカクシムシ科)
82. カツコウムシ (Tillus) (Kuhnt) (カツコウムシ科)
83. コケムシの腮鬚 (Kuhnt) (コケムシ科)
84. シテムシ (Necrophorus) (Handlirsch) (シテムシ科)
85. ヒラタシテムシ (Silpha) (Kuhnt) ( " )
86. デチキノコムシ (Scaphidium) (Kuhnt) (デチキノコムシ科)
87. デチキスヒムシ (Pityophagus) (Kuhnt) (デチキスヒムシ科)
89. ヒラタムシ (Monotoma) (Kuhnt) (ヒラタムシ科)
91. ショウカヒボン (Jelephorus) (Handlirsch) (ホタル科)
92. カツコウムシ (Clerus) (Kuhnt) (カツコウムシ科)
- a " (Jarsostenus) 跗節 ( " ) ( " )
93. マグツガムシ (Ceryon) (Kuhnt) (ガムシ科)
94. カツコウムシダマシ (Laricobius) (Kuhnt) (カツコウムシダマシ科)
95. タマキノコムシ (Amphicyllus) (Kuhnt) (シテムシ科)
96. デチキスヒムシ (Cryptarcha) (Kuhnt) (デチキスヒムシ科)
97. コナヒラタムシ (Silvanus) 觸角
98. エグリマルキノコムシ (Eumecarthron) (Kuhnt) (マルキノコムシ科)
99. オホキノコムシ (Cryptophagus) (Kuhnt) (オホキノコムシ科)
100. オホキノコムシ小腮鬚 (Kuhnt) ( " )

附  
圖

第七圖版

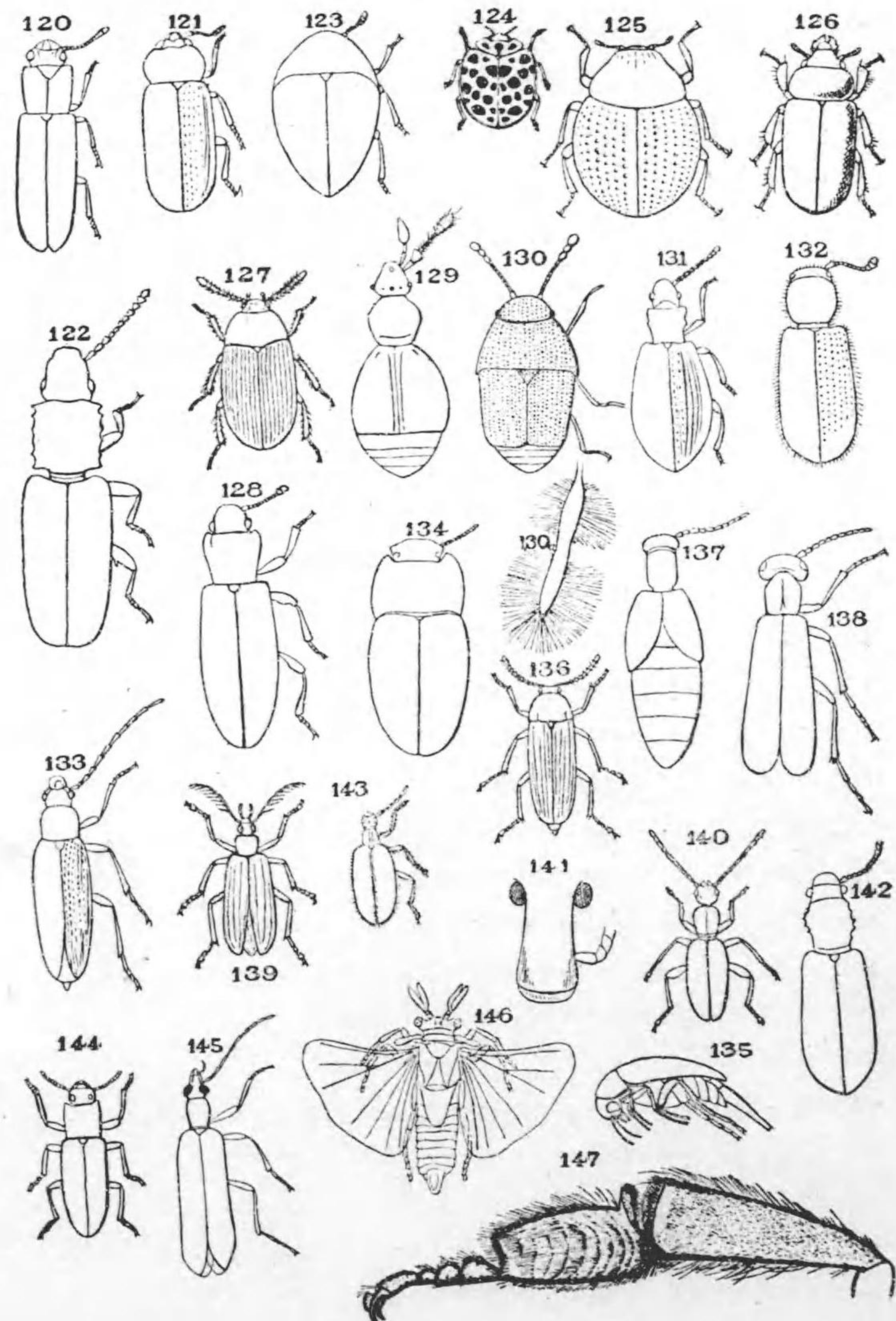


第七圖版

- 101. ヒメハナノミ (Phalacrus) (Kuhnt) (ヒメハナノミ科)
- 102. チビカツチアブシムシ (Attagenus) (Kuhnt) (カツチアブシムシ科)
- 103. ヘウホンムシ (Ptinus) (Kuhnt) (ヘウホンムシ科)
- 104. コガシラミヅムシ (Cnemidotus) (Kuhnt) (コガシラミヅムシ科)
- 105. ナガヒラタムシ (Cupes) (松村) (ナガヒラタムシ科)
- 106. ツマグロツ、シンクヒ (Hylecoetus) (Kuhnt) (ツ、シンクヒムシ科)
- 107. ナガハナノミ (Dascillus) (Reitter) (ナガハナノミ科)
- 108. マルハナノミ (Cyphon) (Brauer) (マルハナノミ科)
- 109. セスガムシ (Rhyssodes) (Handlirsch) (セスガムシ科)
- 110. ベニヒラタムシ (Cucujus) (Handlirsch) (ヒラタムシ科)
- 111. ケシテチキノコムシ (Scaphosoma) (Kuhnt) (テチキノコムシ科)
- 112. セマルヘウホンムシ (Gibbium) (Kuhnt) (ヘウホンムシ科)
- 113. ピロウドカミキリ (Monohaunmus) (原圖) (カミキリムシ科)
- 114. アヅキノウムシ (Bruchus) (農商務省病菌害蟲彙報) (マメソウ科)
- 115. クロカミキリ (Spondylis) (Kuhnt) (カミキリムシ科)
- 116. イモハムシ (Chrysochus) (農商務省病菌害蟲彙報) (ハムシ科)
- 117. キスヒモドキ (Byturus) (Kuhnt) (キスヒモドキ科)
- 118. グリヤケシムシ (Carpophilus) (Kuhnt) (テチキスヒムシ科)
- 119. タケナガシンクヒ (Dinoderus) (Kuhnt) (ナガシンクヒムシ科)

附圖

第八圖版

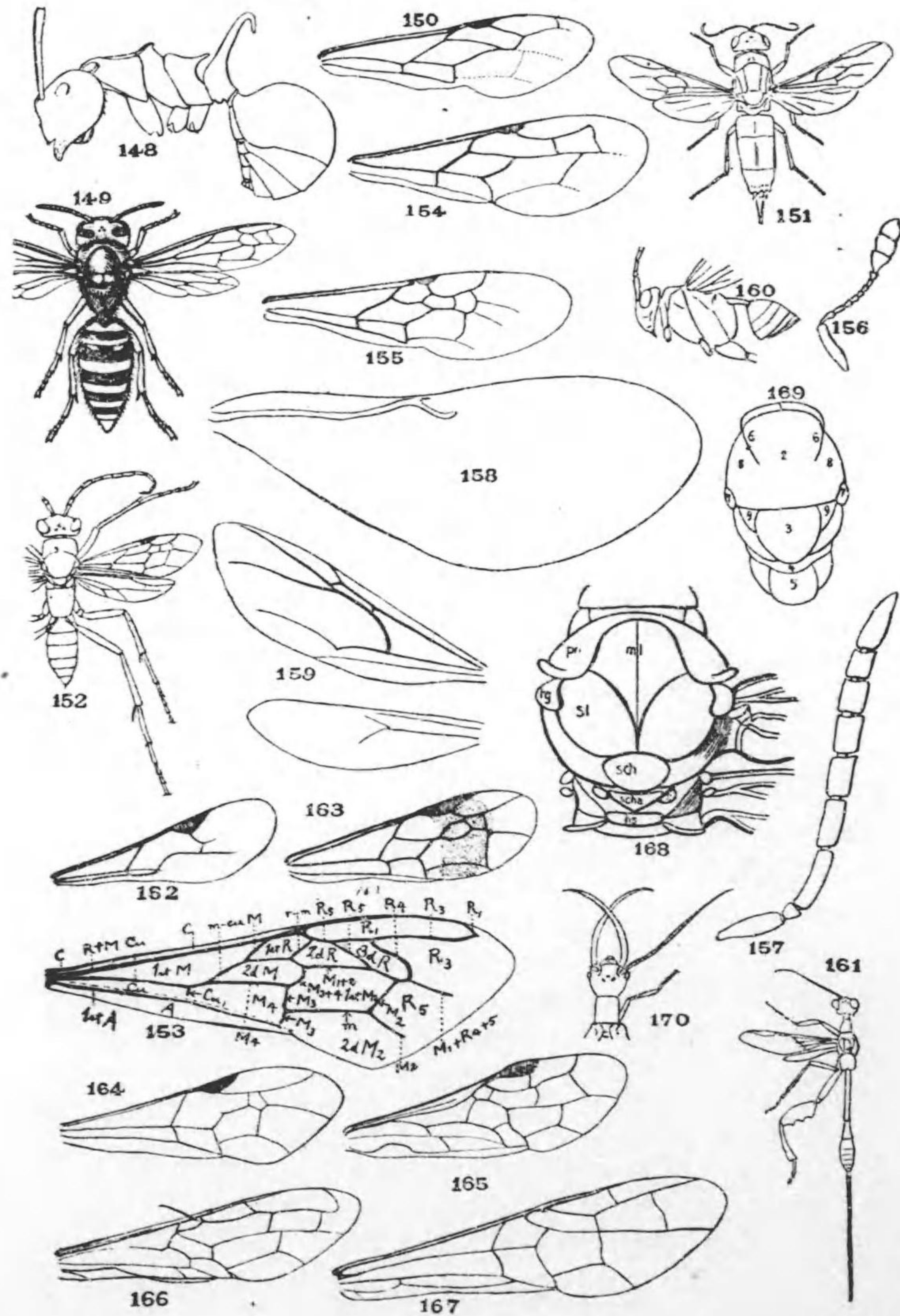


第八圖版

- 120. タケノシンクヒ (Lyctus) (Kuhnt) (タケシンクヒムシ科)
- 121. ヒメキノコムシ (Sphindus) (Kuhnt) (ヒメキノコムシ科)
- 122. ノコギリコクヌスト (Silvanus) (農商務省病原害蟲叢報)(コクヌスト科)
- 123. ミザンムシ (Corylophus) (Kuhnt) (ミザンムシ科)
- 124. ニジューヤホシ (Epilachna) (原圖) (テントウムシ科)
- 125. マルドロムシ (Georyesus) (Brauer) (マルドロムシ科)
- 126. ナガドロムシ (Heterocerus) (Brauer) (ナガドロムシ科)
- 127. コキノコムシ (Mycteophagus) (Reitter) (コキノコムシ科)
- 128. ホソカタムシ (Bothrideres) (Kuhnt) (ホソカタムシ科)
- 129. アリツカムシ (Pse'aphus) (Kuhnt) (アリツカムシ科)
- 130. ハバネムシ (Acrotichis) (矢崎) (ハバネムシ科)
- " a " 後翅 ( " )
- 131. ヒメマキムシ (Litthridius) (Kuhnt) (ヒメマキムシ科)
- 132. ホシカムシ (Corynetes) (Kuhnt) (カツコウムシ科)
- 133. オホクチキムシ (Allecula) (Kuhnt) (クチキムシ科)
- 134. スナゴミムシダマシ (Opatrum) (Kuhnt) (ゴミムシダマシ科)
- 135. アサノハナノミ (Mordellistena) (Riley) (ハナノミ科)
- 136. ナガクチキムシ (Me'andry'a) (Reitter) (ナガクチキムシ科)
- 137. ツチハンメウ (Meloe) (Kuhnt) (ハンメウ科)
- 139. アカハネムシ (Pyrochra) (Reitter) (アカハネムシ科)
- 140. ホソクビアリモドキ (Formicomus) (Handlirsch) (イツカクチウ科)
- 141. キノカハムシ (Rhinosimus) 頭部 (Kuhnt) (キノカハムシ科)
- 142. " (Lissodema) (Kuhnt) ( " )
- 143. ハムシダマシ (Lagria) (Fowler) (ハムシダマシ科)
- 144. ゴミムシダマシ (Jenebrio) (Reitter) (ゴミムシダマシ科)
- 145. カミキリダマシ (Xanthochroa) (Kuhnt) (カミキリダマシ科)
- 146. ネツレバ (Xenos) (Pierce) (ネツレバ科)
- 147. ミツバチの後脚 (Casteel) (ミツバチ科)

附  
圖

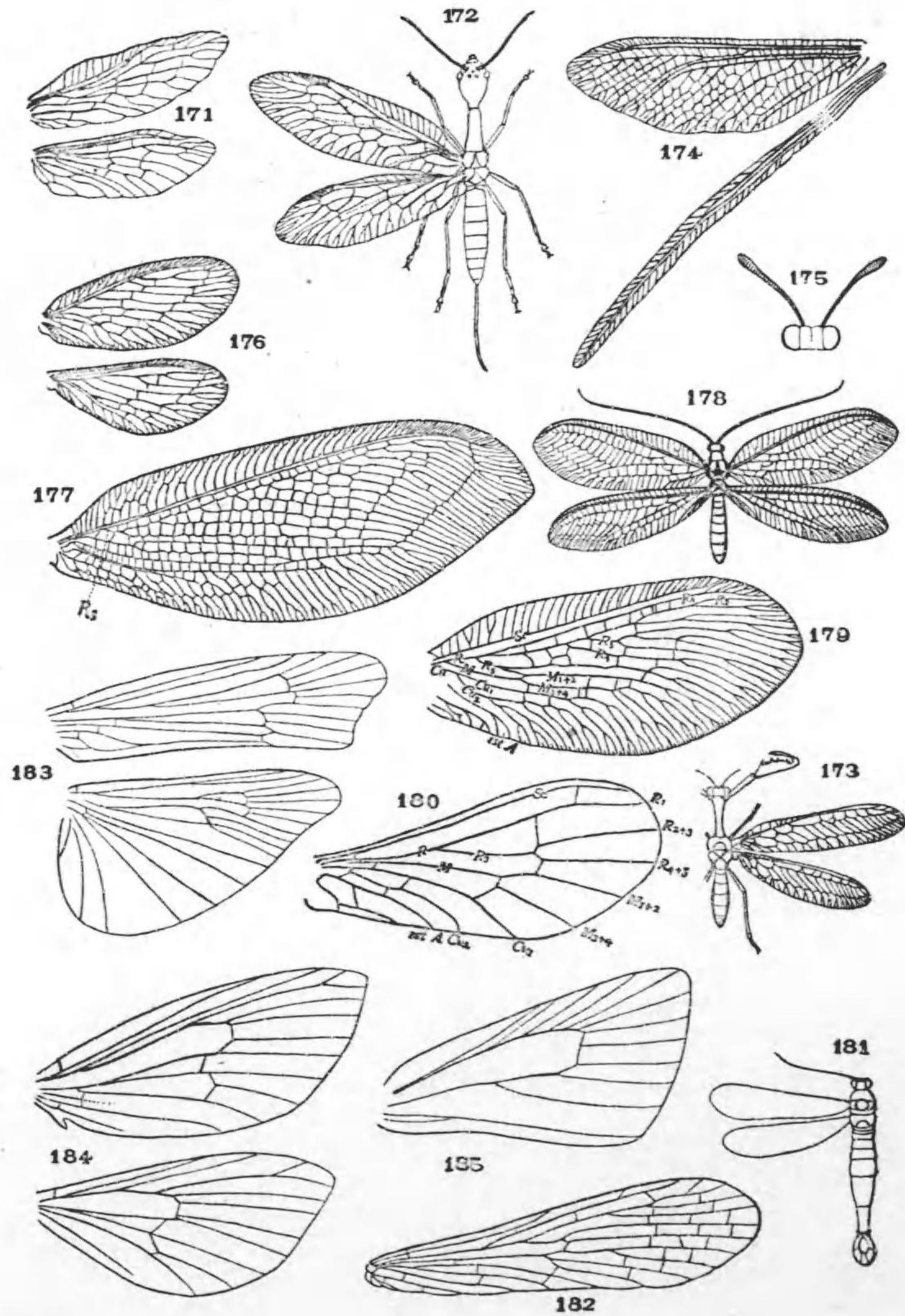
第九圖版



第九圖版

148. トゲアリ (Polyrhachis) 職蟲 (矢野) (アリ科)
  149. スズメバチ (Vespa) (原圖) (スズメバチ科)
  150. ギングチバチ (Crabro) 前翅 (Schmiedeknecht) (コシボソバチ科)
  151. セイボウ (Chrysis) (Handlirsch) (セイボウ科)
  152. ベッコウバチ (Handlirsch) (ベッコウバチ科)
  153. ミツバチ (Apis) 前翅 (Comstock) (ミツバチ科)
  154. クロツチバチ (Tiphia) 前翅 (Schmiedeknecht) (ツチバチ科)
  155. アリバチ (Mutilla) 前翅 (Schmiedeknecht) (アリバチ科)
  156. タマゴバチ (Proctotrupes) 觸角 (Schmiedeknecht) (タマゴバチ科)
  157. コバチ (Microterys) 觸角 (石井) (コバチ科)
  158. コバチ (") 前翅 (石井)
  159. ヒラタフシバチ (Ibalia) 前翅 (Handlirsch) (フシバチ科)
  160. ヤセバチ (Evania) (Hanblirsch) (ヤセバチ科)
  161. ツノヤセバチ (Foenatopus) (Elliott) (ツノヤセバチ科)
  162. アリマキヤドリ (Aphidius) 前翅 (Schmiedeknecht) (コマユバチ科)
  163. Trigonalys 前翅 (Schmiedeknecht) (Trigonalidae)
  164. ヒメバチ (Ichneumon) 前翅 (Schmiedeknecht) (ヒメバチ科)
  165. ヒラタハバチ (Lyda) 前翅 (Schmiedeknecht) (ヒラタハバチ科)
  166. キバチ (Sirex) 前翅 (Schmiedeknecht) (キバチ科)
  167. ハバチ (Cimbex) 前翅 (Schmiedeknecht) (ハバチ科)
  168. ハバチ (Jenthredo) 胸部背面 (Enslin) (")
- pn—前胸背板      tg—肩板  
 me, sl—中胸背板      sch—小楯板  
 hs—後胸背板
169. コバチ (Pteromalus) 胸部背面 (Schmiedeknecht) (コバチ科)
- 1—前胸      2—中胸  
 3—小楯板      5—後胸  
 7—肩板
170. ヘビトンボ (Corydalus) 頭部 (Handlirsch) (ヘビトンボ科)

第十圖版

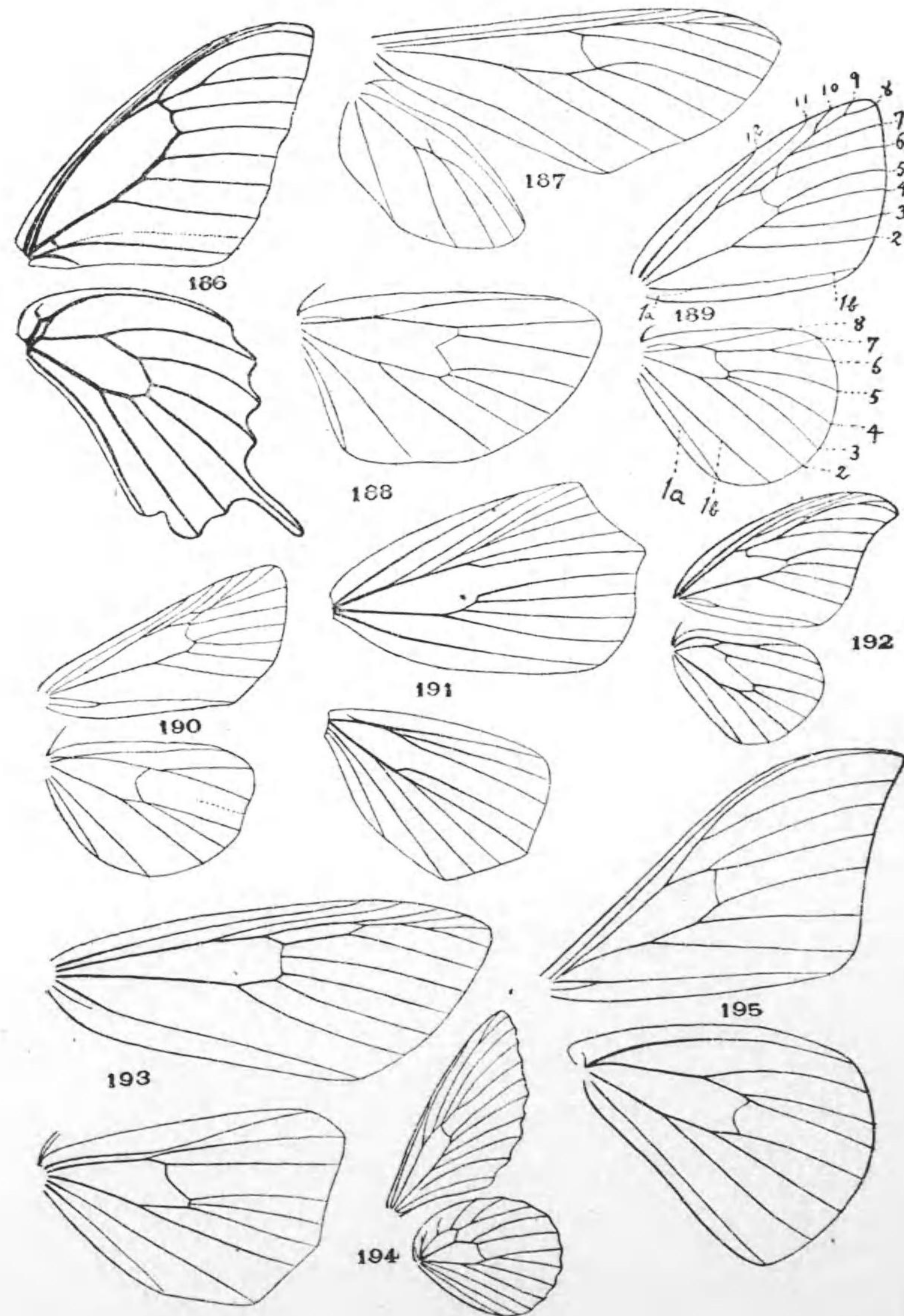


第十圖版

- 171. センブリ (*Sialis*) 翅 (Handlirsch) (センブリ科)
- 172. ラグダムシ (*Raphidia*) ( " ) (ラグダムシ科)
- 173. カマキリモドキ (*Mantispa*) (三宅) (カマキリモドキ科)
- 174. ホソバネカゲロウ (*Nemoptera*) (Handlirsch) (ホソバネカゲロウ科)
- 176. ヒメカゲロウ (*Micromus*) ( " ) (ヒロバカゲロウ科)
- 177. ヒロバカゲロウ (*Osmylus*) 前翅 (Comstock) ( " )
- 178. クサカゲロウ (*Chrysopa*) (原圖) ( " )
- 179. *Dilar* 前翅 (Comstock) ( " )
- 180. コナカゲロウ (*Semidalis*) 前翅 (Enderlein) (コナカゲロウ科)
- 181. シリアゲムシ (*Panorpa*) (原圖) (シリアゲムシ科)
- 182. シリアゲムシ (*Panorpa*) 前翅 (三宅) ( " )
- 183. ウスバキトビケラ (*Limnophilus*) 翅 (Ulmer) (トビケラ科)
- 184. カウモリガ (*Hepialus*) 翅 (Hormuzaki) (カウモリガ科)
- 185. チャマダセ、リ (*Hesperia*) 前翅 (原圖) (セ、リテフ科)

附  
圖

第十一圖版

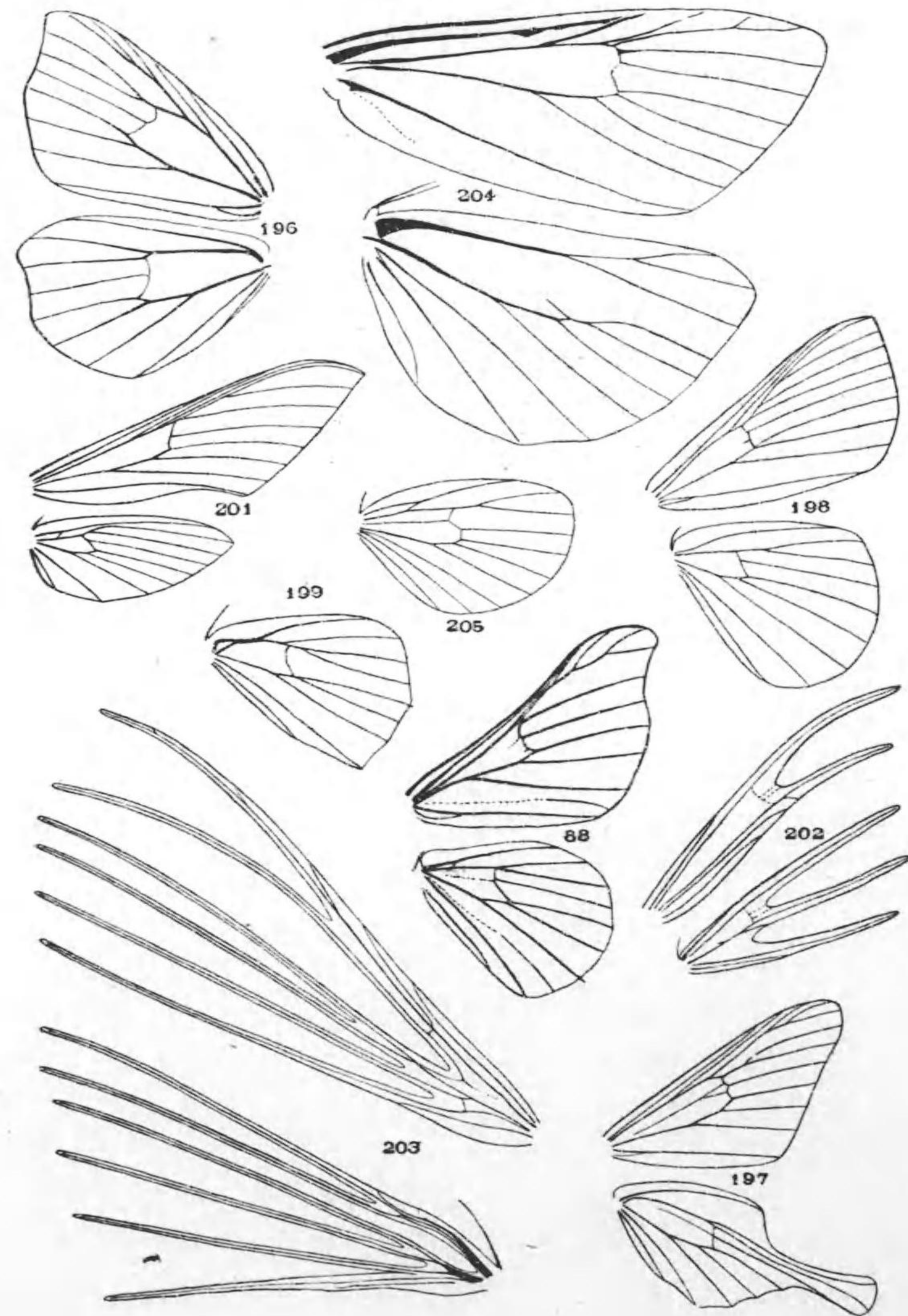


第十一圖版

- 186. アゲハノテフ (*Eques*) の翅 (Comstock) (アゲハテフ科)
- 187. カノコガ (*Amata*) 翅 (原圖) (カノコガ科)
- 188. ヒトリガ (*Arctia*) 後翅 (原圖) (コケガ科)
- 189. コツノコムシガ (*Orgyia*) 翅 (Hormuzaki) (ドクガ科)
- 190. ヤガ (*Mythimna*) 翅 (原圖) (ヤガ科)
- 191. イカリモンガ (*Pterodesca*) 翅 (Tagenstecher) (イカリモンガ科)
- 192. ウコンカギバ (*Konjikia*) 翅 (長野) (カギバ科)
- 193. トガリバ (*Palimpsestis*) 翅 (原圖) (トガリバ科)
- 194. カレハガ (*Gastropacha*) 翅 (長野) (カレハガ科)
- 195. クスサン (*Dictyoploca*) 翅 (原圖) (ヤサンガ科)

附  
圖

第十二圖版



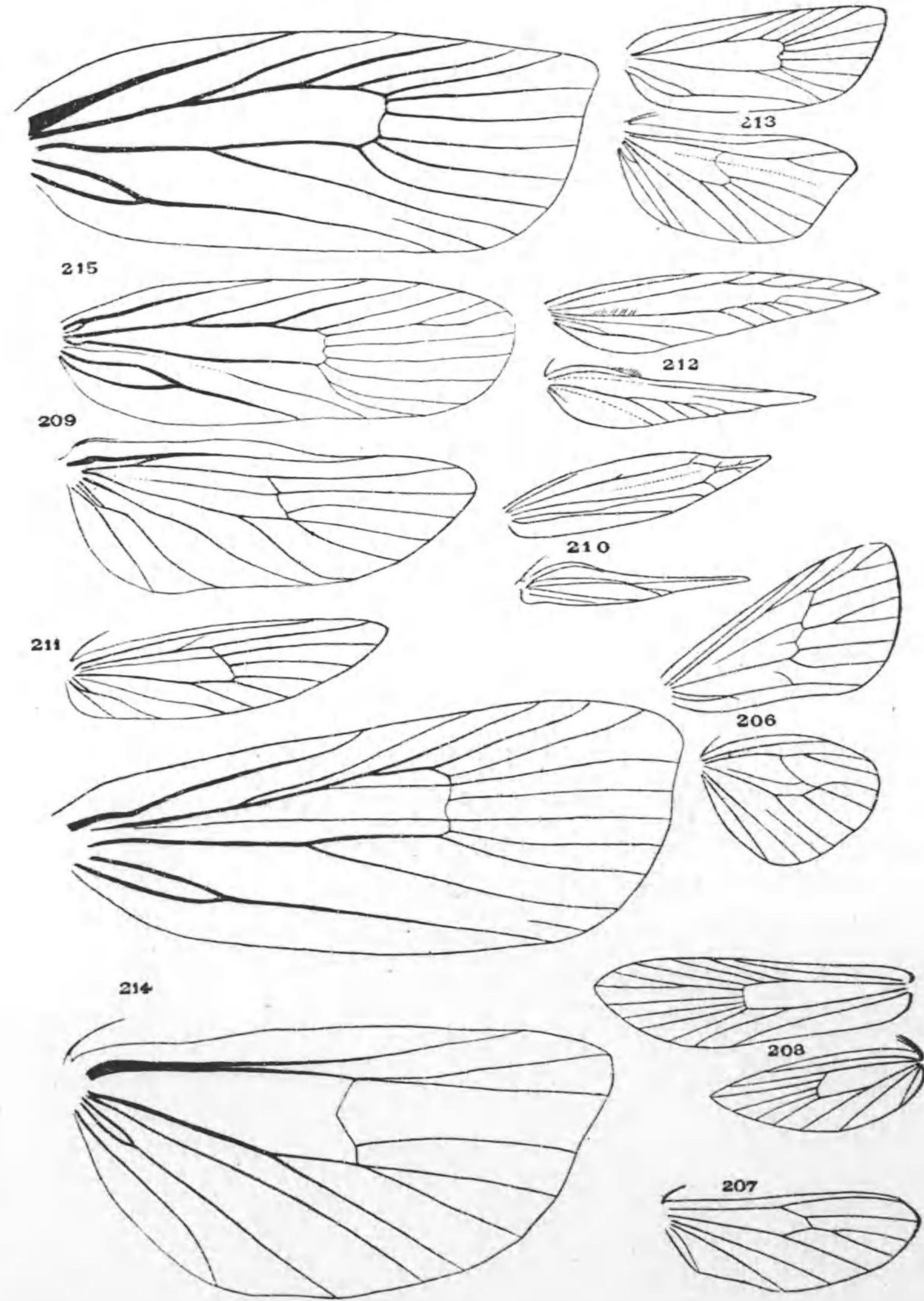
第十二圖版

- 196. キンモンガ (*Psychostrophia*) 翅 (原圖) (ツバメガ科)
- 197. アケハモドキ (*Epicopia*) 翅 (原圖) (アケハモドキガ科)
- 198. オビガ (*Apha*) 翅 (*Hampson*) (オビガ科)
- 199. シヤクトリガ (*Sarcinodes*) 後翅 (原圖) (シヤクトリガ科)
- 201. セスアスマメ (*Theretra*) 翅 (原圖) (スマメガ科)
- 202. トリバガ (*Pterophorus*) (*Meyrick*) (トリバガ科)
- 203. ニツウシトリバガ (*Orneodes*) (原圖) (ニツウシトリバガ科)
- 204. メイガ (*Platytes*) (原圖) (メイガ科)
- 205. ナシイラガ (*Miresa*) (長野) (イラガ科)
- 88. カヒコ (*Bombyx*) (*Comstock*) (サンガ科)

附  
圖



第十三圖版

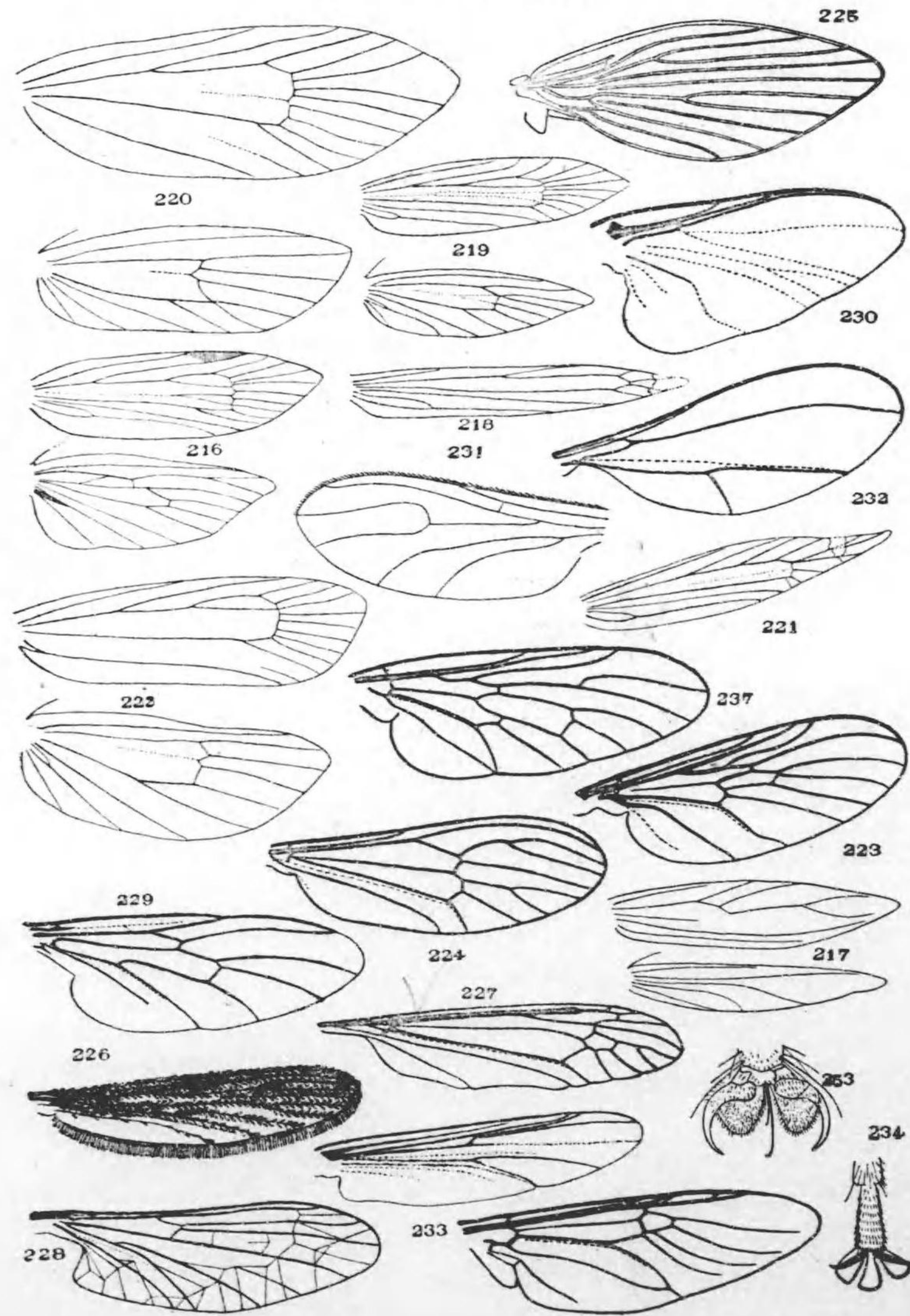


第十三圖版

- 206. シロミノムシ (Chalioides) (原圖) (ミノムシ科)
- 207. スカシバ (Aegeria) 後翅 (Hormuzaki) (スカシバ科)
- 208. モヽガ (Tinaegeria) (Walsingham) (モヽガ科)
- 209. ミカンハマキ (Depressaria) 翅 (原圖) (バクガ科)
- 210. ホソガ (Lithocolletis) (Spuler) (ホソガ科)
- 211. ワタミガ (Borkhausenia) 後翅 (Spuler) (ワタミガ科)
- 212. カキミガ (Kakivoria) 翅 (長野) (カキミガ科)
- 213. ホソハマキ (Phalonia) 翅 (Kennel) (ホソハマキガ科)
- 214. ホツプハマキ (Luspeyresia) 翅 (原圖) (ヒメハマキガ科)
- 215. ハマキ (Cacoecia) 前翅 (原圖) (ハマキガ科)

附  
圖

第十四圖版

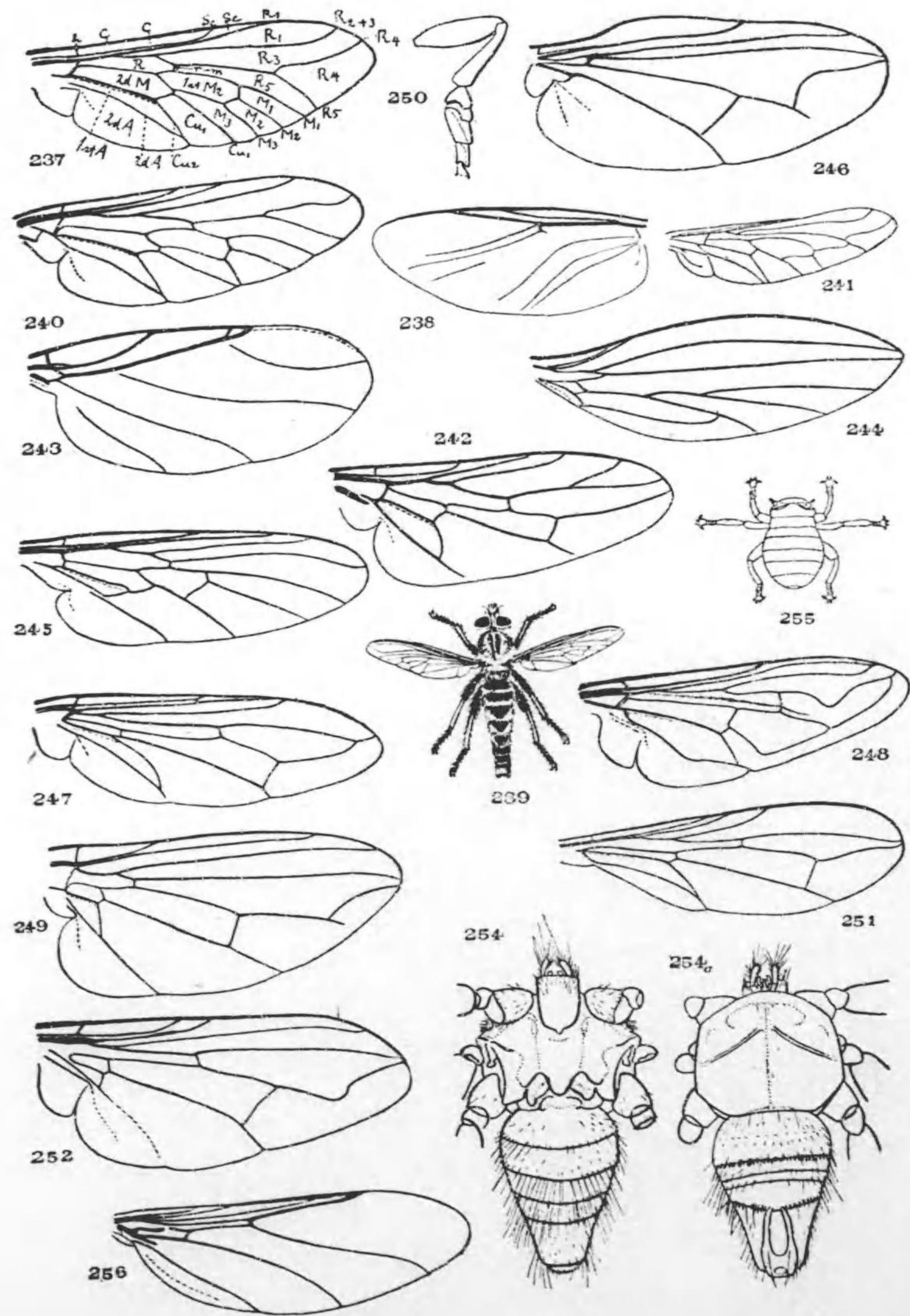


第十四圖版

- 216. ナツメコガ (Cerostoma) 翅 (Spuler) (ナガ科)
- 217. ケナナガガ (Nepticula) 翅 (Spuler) (ケナガガ科)
- 218. ムクリガ (Lyonetia) (Spuler) (ムクリガ科)
- 219. コイガ (Tineola) (Spuler) (コクガ科)
- 220. ハマキモドキ (Glyphipteryx) (原圖) (ハマキモドキ科)
- 221. ツ、ミノガ (Coleophora) 前翅 (Spuler) (ツツガ科)
- 222. スガ (Hyponomenta) 翅 (原圖) (スガ科)
- 223. カバイ (Rhyphus) 翅 (Comstock) (カバイ科)
- 224. ホソカ (Dixia) 翅 (Comstock) (ホソカ科)
- 225. テフバイ (Psychoda) 翅 (テフバイ科)
- 226. ウスカ (Culex) 翅 (Comstock) (カ科)
- 227. カガンボ (Tipula) 翅 (Comstock) (カガンボ科)
- 228. アミメカ (Blaphalocera) 翅 (Comstock) (アミメカ科)
- 229. ケバイ (Bibio) 翅 (Comstock) (ケバイ科)
- 230. フユ (Simulium) 翅 (Comstock) (フユ科)
- 231. ランキノコバイ (Sciara) 翅 (Williston) (キノコバイ科)
- 232. タマバイ (C. cidomyia) 翅 (Comstock) (タマバイ科)
- 233. ユスリカ (Chironomus) 翅 (Comstock) (ユスリカ科)
- 234. シギアア跗節末端 (Melander) (シギアア科)
- 235. シギアア (Leptis) 翅 (Comstock) (シギアア翅)
- 236. ミヅアア (Stratiomyia) 翅 (Comstock) (ミヅアア科)
- 253. イヘバイ跗節端 (Kellog) (イヘバイ科)

附  
圖

第十五圖版

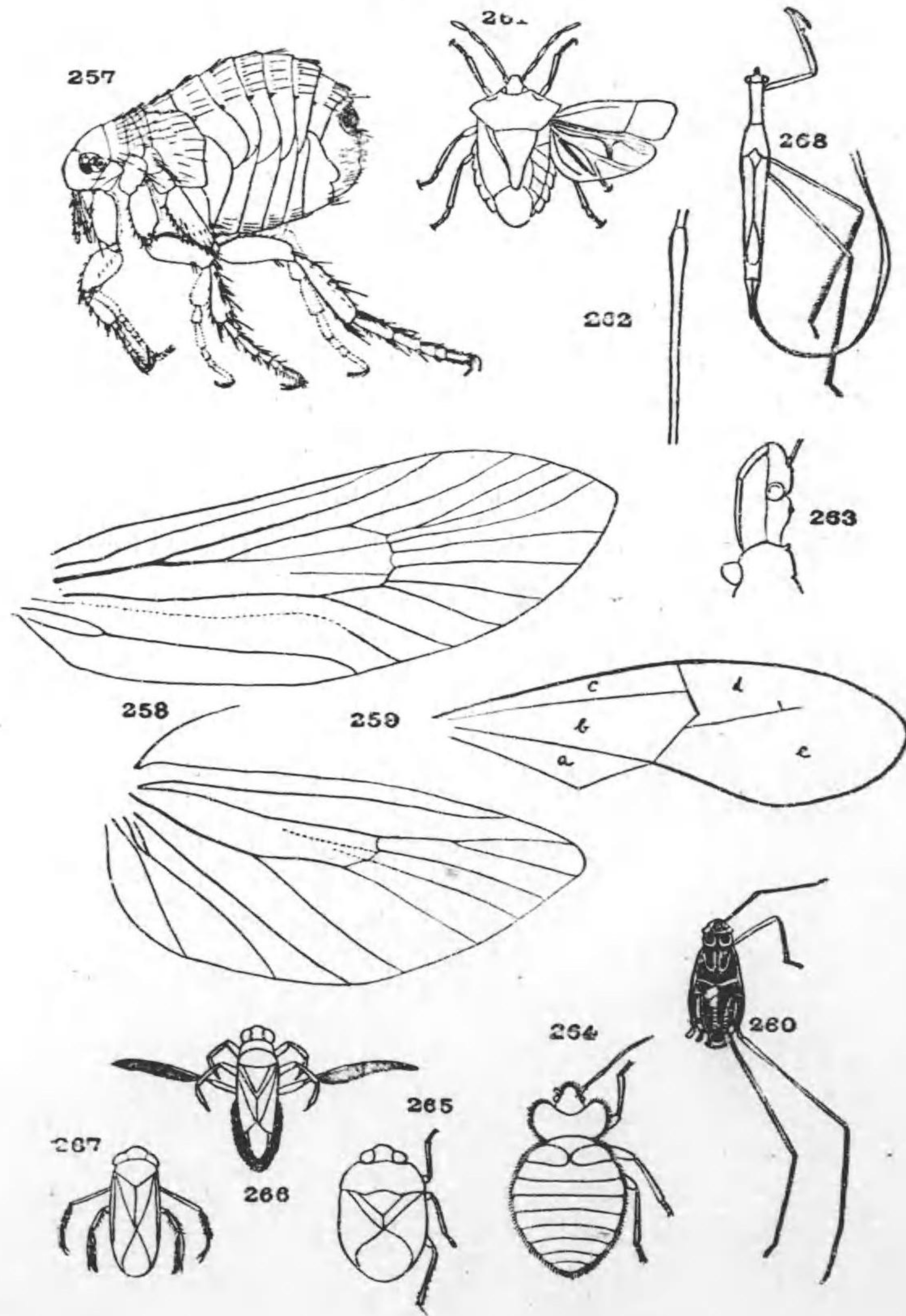


第十五圖版

- 237. アブ (Tabanus) 翅 (Comstock) (アブ科)
- 238. コガシラアブ (Oncoodes) 翅 (Comstock) (コガシラアブ科)
- 239. シホヤアブ (Promachus) (原圖) (ムシヒキアブ科)
- 240. ツルギアブ (Thereva) 翅 (Comstock) (ツルギアブ科)
- 241. ツリアブ (Bombylius) 翅 (Schröder) (ツリアブ科)
- 242. マドバイ (Scenopinus) 翅 (Comstock) (マドバイ科)
- 243. ノミバイ (Phora) 翅 (Comstock) (ノミバイ科)
- 244. ヤリバイ (Lonchoptera) 翅 (Comstock) (ヤリバイ科)
- 245. チャドリバイ (Empis) 翅 (Comstock) (チャドリバイ科)
- 246. アシナガキンバイ (Dolichopus) 翅 (Comstock) (アシナガキンバイ科)
- 247. ハチモドキ (Conopus) 翅 (Comstock) (メバイ科)
- 248. ハナアブ (Eristalis) 翅 (Comstock) (ハナアブ科)
- 249. ヒラタアシバイ (Platypeza) 翅 (Comstock) (ヒラタアシバイ科)
- 250. " 後脚 (" )
- 251. メダマアブ (Pipunculus) 翅 (Comstock) (メダマアブ科)
- 252. イヘバイ (Musca) 翅 (Comstock) (イヘバイ科)
- 254. カウモリクモバイ (Penicillidia) 背面 (岸田) (クモバイ科)
- " a " 腹面
- 255. ミツバチシラミバイ (Braula) (Sharp) (ミツバチシラミバイ科)
- 256. シラミバイ (Hippobosca) 翅 (Comstock) (シラミバイ科)

附  
圖

第十六圖版

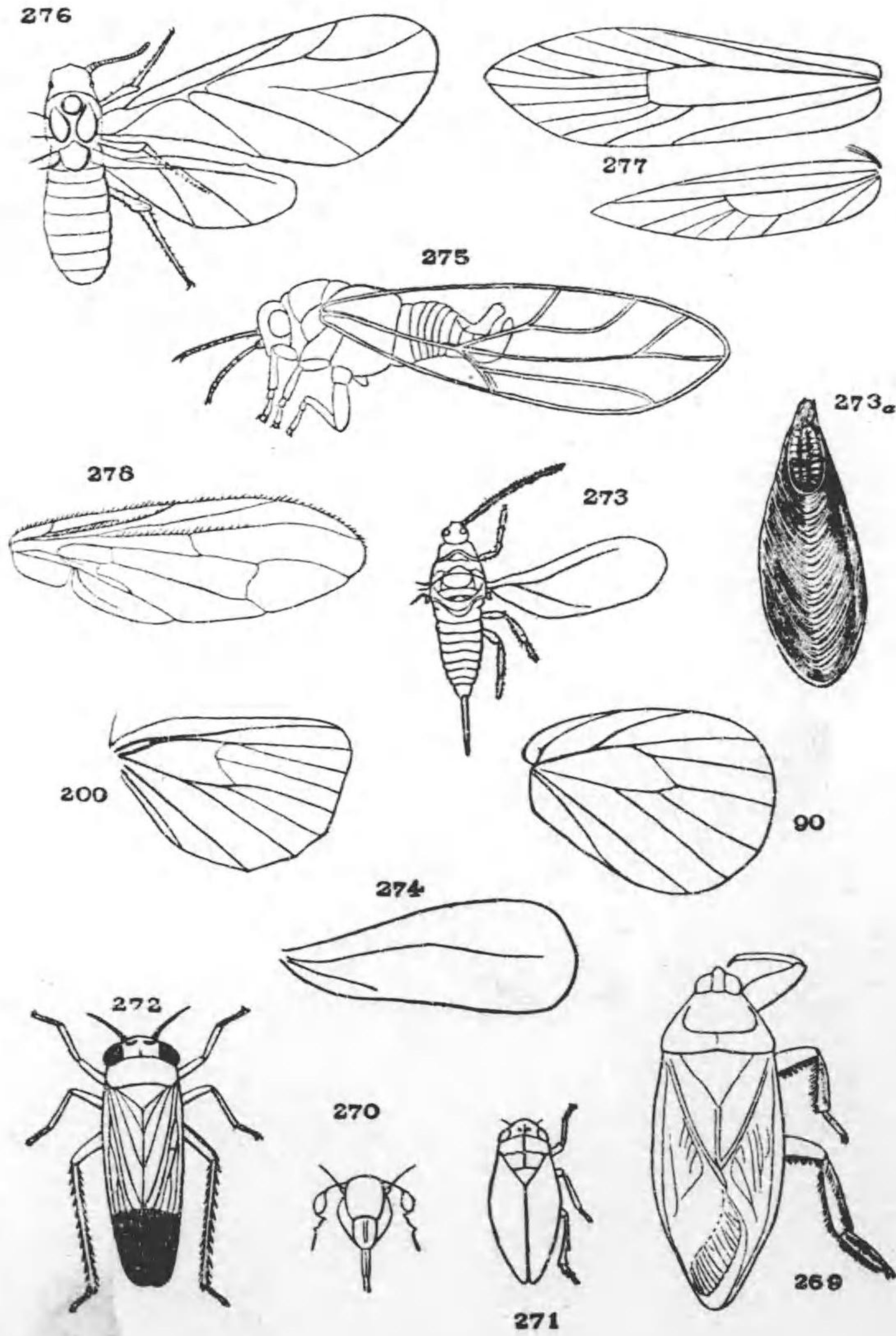


第十六圖版

- 257. ノミ *Pulex* (*Martini*) (ノミ科)
- 258. ヒゲナガガ (*Nemctois*) 翅 (原圖) (ヒゲナガガ科)
- 259. 半翅鞘模型圖 (原圖)
  - a-肩部 (*Clivus*). b-硬皮部 (*Corium*)
  - c-中間部 (*Embolium*) d-楔形部 (*Cunens*)
  - e-膜質部 (*Membrane*)
- 260. シマカハグモ (*Metrocoris*) (*Distant*) (カハグモ科)
- 261. ムラサキカメムシ (*Carpocoris*) (松村) (カメムシ科)
- 262. イトカメムシ後腿節模型圖 (原圖) (イトカメムシ科)
- 263. サシガメ頭部 (*Distant*) (サシガメ科)
- 264. トコヅラミ (*Cimex*) (松村) (トコヅラミ科)
- 265. メミヅムシ (*Pelagonus*) (*Distant*) (メミヅムシ科)
- 266. マツモムシ (*Notonecta*) (松村) (マツモムシ科)
- 267. コミヅムシ (*Corixa*) (*Distant*) (ミヅムシ科)
- 268. ミヅカマキリ (*Ranatra*) (*Distant*) (ミヅカマキリ科)

附  
圖

第十七圖版



第十七圖版

- 269. タガメ (*Belostoma*) (Distant) (タガメ科)
- 270. セミ頭部 (Distant) (セミ科)
- 271. アハフキ (*Aphrophora*) (Distant) (アハフキムシ科)
- 272. ツマクロヨコバイ (*Nephotettix*) (原圖) (ヨコバイ科)
- 273. ヤノネカヒガラ ♀ (Prcntashis) (桑名) (カヒガラムシ) ♂ (〃)
- 274. ヒメコジラミ (*Aleyrodes*) 翅 (Ta'chi) (コナジラミ科)
- 275. キジラミ (*Trioza*) (佐々木) (キジラミ科)
- 276. リンゴメンテウ (*Eriosoma*) (岩手縣農事試験場報告) (アリマキ科)
- 90. スヤクロテフ (*Pieris*) 後翅 (原圖) (シロテフ科)
- 200. ウスキシヤチホコ (*Ramesa*) 後翅 (原圖) (シヤチホコガ科)
- 277. アカハダモ、ガ (*Oedematopoda*) (Walsingham) (アカハダモ、ガ科)
- 278. ミカンバイ (*Dacus*) 翅 (三宅) (イヘバイダマシ科)

索

引

<b>ア</b>	
アチチサムシ	58
アチガメ	133
アチゴミムシ	58
アチバトシラミバイ	130
アチバハゴロモ	138
アカアリ	93
アカガネサルハムシ	75
アカギホシガメ	134
アカサシガメ	134
アカスデガメ	133
アカハダモモガ	115
アカハダモモガ科	115
アカハネナガウンカ	138
アカハネムシ	87
アカハネムシ科	88
アカバハネカクシ	56
アカヒゲメクラガメ	135
アカホシガメ	134
アゲハモドキ	111
アゲハモドキ科	112
アサノハナノミ	87
アザミウマ	46
アシナガキンバイ	128
アシナガキンバイ科	128
アシナガバチ	94
アシプトハナアブ	129
アズキサヤムシガ	116
アトキハマキ	117
アハノメイガ	113
アハフキムシ科	138
アブ科	125
アブラゼミ	137
アミメカ科	122

アミメカハゲラ	37
アヤトガリバ	113
アリ科	93
アリツカコホロギ	42
アリツカムシ	82
アリツカムシ科	82
アリマキ	140
アリマキ科	140
アリマキモドキ	52
アリマキモドキ科	52
<b>イ</b>	
イシアブ	126
イシノミ	29
イシノミ科	29
異翅目	2, 11, 132
イチゴガメ	134
イツカクチウ科	88
イトカメムシ	134
イトカメムシ科	134
イトトンボ科	36
イナゴ	40
イヌケシラミ	53
イヌシラミバイ	130
イヌノミ	121
イネガメ	133
イネノドロナヒムシ	75
イネメクラガメ	135
イネユスリカ	120
イヘシロアリ	50
イヘバイ	130
イヘバイ科	130
イヘバイダマシ科	130
イホタガ	112
イホタガ科	112
イラガ	114

イラガ科	114
インドノミ	131
<b>ウ</b>	
ウスイロカハムシ	
マシ	122
ウスカ	121
ウシアブ	125
ウスタビガ	111
ウスバカマキリ	49
ウスバキトンボ	36
ウスバフユシヤク	112
ウズラガメ	133
ウチハトンボ	36
ウマオヒムシ	41
ウマバエ	130
ウマシラミ	54
ウリハムシ	76
ウンカ科	138
<b>エ</b>	
エグリマルキノ	
コムシ	81
エゾゼミ	137
エゾハサミムシ	44
エビガラスズメ	113
エンマコホロギ	42
エンマムシ	62
エンマムシ科	62, 83
エンマムシモドキ科	65
<b>オ (ヲ)</b>	
オトシブミ	59
オドリバイ	128
オドリバイ科	128
オナシヤハゲラ	37

索引

一

オニヤンマ 36  
 オバタマムシ 62  
 オビガ 112  
 オビガ科 112  
 チビカギバ 111  
 オビカレハ 111  
 オホアカコメツキ 62  
 オホアリ 93  
 オホアリマキ 140  
 オホイトトンボ 36  
 オホキノコムシ科 69, 76, 86  
 オホクチキムシ 84  
 オホコクヌスト 78  
 オホキンガメ 133  
 オホシロアリ 50  
 オホハサミムシ 44  
 オホバトガリバ 113  
 オホハナアブ 129  
 オホハネカクシ 53  
 オホミヅスマシ 60  
 オホヨコバイ 139

カ

カ科 121  
 カイガラムシ 139  
 カウカアブ 124  
 カウモリクモバ 130  
 カハコ科 122  
 カギアヲシヤク 112  
 カギバ科 111  
 カキミカ科 116  
 カキノミガ 116  
 蜂蟻目 4, 12, 17, 32  
 蜂蟻首目 32

カゲロウ科 33  
 カスリヨコバイ 133  
 カタビロチサムシ 58  
 カタビロヒシウンカ 138  
 カツチアブシムシ科 63, 70  
 カツコウムシ 67  
 カツコウムシ科 64, 67, 75, 84  
 カツコウムシダマシ科 68, 80  
 カナブン 60  
 カバイ 120  
 カバイ科 121  
 カバイロコメツキ 62  
 カハクモ科 132  
 カハゲラ 37  
 カハゲラ科 37  
 積翅目 6, 17, 36  
 積翅首目 36  
 カハトンボ 35  
 カハトンボ科 35  
 カヒコ 112  
 カヒコノウシバ 130  
 カプトムシ 60  
 カマキリ 49  
 蟻螂目 9, 13, 48  
 カミキリダマシ 89  
 カミキリダマシ科 89  
 カミキリムシ科 74, 76  
 ガムシ科 61, 67, 77, 84  
 カメムシ科 133  
 カメノコテントウ 79  
 カモハシラミ 53

カラフトマルトグムシ 63  
 カレハガ科 111  
 カレハガ 111  
 カンシヨクロナガガ 134  
 イタ 42  
 カンタン 42

キ

キアブ 124  
 キイロオホキノコムシ 76  
 キイロクチキムシ 84  
 キイロシギアブ 124  
 キイロノミバイ 127  
 奇蟲目 6, 13, 38  
 奇蟲首目 37  
 キヅラミ科 139  
 キスヒモドキ 76  
 キトビムシ 32  
 キノカハムシ科 88, 89  
 キノコバイ科 123  
 キノコヒゲナガシウムシ 59  
 キノコムシ 81  
 キノコムシ科 82  
 キマアリ 89  
 キリウツカガンボ 122  
 キリギリス 41  
 キリギリス科 41  
 キンガメ 133  
 ギンクチバチ 94  
 ギンスヂハマキ 116  
 ギンツバメガ 111

ギンスヂヒゲナガ 118  
 キンバイ 130  
 キンモンガ 111  
 ギンヤンマ 36

ク

クギヌキハサミムシ 44  
 クサアブ 124  
 クスサン 111  
 クダアザミウマ 46  
 クチキムシ科 84  
 クチキムシモドキ 86  
 クチキムシモドキ 86  
 クチアブガメ 133  
 クツハムシ 41  
 クヌギガメ 133  
 クハエダシヤク 112  
 クハカイガラ 139  
 クハガタムシ科 60  
 クハガタムシモドキ 85  
 クハガタムシモドキ科 85  
 クハカミキリ 74  
 クハキヅラミ 112  
 クハゴ 123  
 クハハマダラダマバ 116  
 クハヒメハマキ 87  
 クビカクシ 41  
 クビキリバツタ 137  
 クマゼミ 93  
 クマバチ 134  
 クモガメ 130  
 クモバチ科 76  
 クリヤケシムシ 76  
 クロカミキリ 76  
 クロガメ 133

タロスヂイツカク 88  
 クロタマムシ 62  
 クロトビムシ 32  
 クロノミバイ 127  
 クロバアミメカ 122  
 クロバ 130  
 クロハナノミ 87  
 クロホシフタチ 111  
 クロモンサシガメ 134  
 クロモンナガガメ 134  
 グンバイイトトンボ 36  
 グンバイウンカ 138  
 グンバイムシ 134  
 グンバイムシ科 135

ケ

ケシデナキノコムシ 73  
 ケツラミ 54  
 ケナガガ 117  
 ケナガガ科 117  
 ケバ 122  
 ケバ科 122  
 ケバカアリマキ 140  
 ケモノシラミ 53  
 ケヤキナガタムシ 62  
 ケラ 42  
 ケラ科 42  
 ゲンゴロウ 61  
 ゲンゴロウダマシ 61  
 ゲンゴロタル 71

コ

コイガ 118  
 廣翅目 101  
 コウヤツリアブ 126

コナヒムシ 136  
 コガシラアハフキ 138  
 コガシラアブ 125  
 コガシラアブ科 125  
 コガシラミヅムシ 61  
 コガネムシ科 60  
 コガネムシ類 57  
 ゴキブリ 90  
 ゴキブリ科 48  
 蜚蠊目目 10, 15, 47  
 蜚蠊首目 46  
 コクガ科 118  
 コクソウ 59  
 コクヌスト 78  
 コクヌスト科 78  
 コケムシ 64  
 コケムシ科 64, 68  
 コスカシバ 115  
 コスバメ 113  
 コシホソバチ科 94  
 コシクヒムシ科 59, 66, 74  
 コナガ 117  
 コナシラミ 139  
 コナヒラタムシ 69  
 コナムシ 52  
 コナムシ科 52  
 コバネゴキブリ 48  
 コバンムシ 136  
 コバンムシ科 136  
 コバアリマキ 140  
 コフキコガネ 60  
 コフキツウムシ 59  
 コホロギ科 42  
 ゴマダラナガシク



ヒ	77
コマツモシ	136
コマフアア	125
コマヅムシ	136
ゴミムシ科	58
ゴミムシダマシ	89
ゴミムシダマシ科	86, 89
コマツキムシ科	62
コマツキモドキ	76
コマノシマメイガ	113
ゴモクムシ	58
<b>サ</b>	
サシガメ科	134
蝸蟲目	8, 14, 23, 104
サツマシロアリ	50
サナヘトンボ	36
サルハムシ	75
サンガ科	112
サンカメイチウ	113
サンホーゼカイガラ	139
<b>シ</b>	
シガバチ	94
シギアブ科	124, 125
シテムシ	65
シテムシ科	65, 73, 81, 83, 85
シホカラトンボ	36
シホヤアブ	123
シマアザミウマ	46
シマカハグモ	132
シミ	29
シミ科	29
衣魚目	12, 28
シモフリコマツキ	62

鞘翅目	51
鞘翅目	9, 17, 18, 19, 20
	22, 25, 26, 27, 55
シヤウシヤウバイ	130
シヤウリヤウバツタ	41
シヤクトリガ科	112
シヤチホコガ	112
シヤチホコガ科	112
シユロウンカ	138
シヨウカイボン	71
疊翅目	4, 14, 17, 43
食毛目	19, 52
蟲目	21, 53
シラミ科	54
シラミバイ科	131
シロアリ科	50
シロアリモドキ	38
シロアリモドキ科	38
シロナビアハフキ	138
シロシタホタルガ	114
シロハラカゲロウ	33
シロヒゲナガゾウ	
ムシ	59
シロミノムシ	114
シンクヒガ科	116
<b>ス</b>	
スガ	119
スガ科	119
スカシバ科	115
スキバツリアブ	126
スゲコガネ	60
スズムシ	42
スズメガ科	113
スズメバチ	94

スズメバチ科	94
スナゴミムシダマシ	85
スナムグリゲンゴロ	
ウ	61
スモハマキ	117
<b>セ</b>	
セアカケバイ	122
嚙蟲目	7, 16, 19, 51
セジロウンカ	138
セスダガムシ	67
セスダトビムシ	31
セスダヒタラタアブ	129
セスダムシ	72
セスダムシ科	72
セダカコガシラアブ	125
セマルヘウホンムシ	73
セミ科	137
センチュウガネ	60
總翅目	3, 20, 24, 45
雙翅目	2, 22, 24, 25
	26, 27, 119
ソウムシ	56
ソウムシ科	59
ソナムシ	39
ソナムシ科	39
<b>タ</b>	
タイコウチ	136
ダイコンバイ	130
タカサゴシロアリ	50
タガメ	136
タガメ科	136
タケシンクヒ	78
タケシンクヒムシ科	78

タケナガシンクヒ	77
タマキノコムシ	68
タマバイ科	123
タマムシ	62
タマムシ科	62
タマムシモドキ科	85
<b>チ</b>	
チビカツチアシムシ	69
跳躍目	10, 13, 16, 39
チヤエダシヤク	112
チヤミノガ	114
チヤバネゴキアリ	48
<b>ツ</b>	
ヅキンヨコバイ	138
ツクツクホウシ	137
ツチイナゴ	41
ツチスガリ	94
ツチハンメウ	87
ツハガ科	119
ツハシンクヒムシ科	71
ツハミノガ	119
ツバリガ	113
ツノガメ	133
ツノゼミ	138
ツノゼミ科	138
ツノハヅラミ	53
ツノアトゴミムシ	62
ツノアトゴミムシ科	
	63, 70
ツバメガ科	111
ツマクロキノコバイ	123
ツマクロツハシンク	
ヒ	71

ツマクロヨコバイ	138
ツヤマルトゲムシ	63
ツユムシ	41
ツリアブ科	123
ツルギアブ	126
ツルギアブ科	126
<b>テ</b>	
テナキスヒムシ科	
	66, 69, 76, 86
テナキノコムシ	65
テナキノコムシ科	65, 73
テフバイ	121
テフバイ科	121
テングスケバ	138
テンサンガ科	111
テントウムシダマシ	
科	79
テントウムシ科	79
<b>ト</b>	
同翅目	2, 3, 11, 21, 24
	25, 136
等翅目	5, 49
トガリキヅラミ	139
トガリバ科	113
トゲアリ	93
トゲトビムシ	32
トゲナツシ	43
トコヅラミ	135
トコヅラミ科	135
トツクリバチ	94
トノサマバツタ	41
トビイロタマムシモ	
ドキ	85

トビムシ	31
トビムシ科	31
トビムシモドキ	31
跳蟲目	11, 13, 30
跳蟲亞目	31
トラツリアブ	126
トラハナムグリ	60
トリノミ	131
トリバガ科	113
ドロムシ科	61, 68, 72
蜻蛉目	5, 13, 33
蜻蛉首目	33
<b>ナ</b>	
ナガ科	117
ナガガメ科	134
長跳蟲目	12, 13, 29
ナカモンキノコバイ	133
ナガクチキムシ	87
ナガクチキムシ科	89
ナガトビムシ科	30
ナガヒラタムシ	
	70, 77, 78
ナガヒラタムシ科	70
ナガシンクヒムシ科	
	77, 81
ナガトビムシ	30
ナガドロムシ	80
ナガドロムシ科	80
ナガハヅラミ	53
ナカハヅラミ科	53
ナガハナノミ	72
ナガハナノミ科	72
ナガメ	133

索

引

六

ナシイラガ 114  
 ナシキツラミ 139  
 ナシノチヨツキリソ  
 ウムシ 59  
 ナツメコガ 117  
 ナナフシ 43  
 ナナフシムシ科 43  
 竹節蟲目 10, 16, 42  
 ナホシテントウ 79  
 ナシヒメシクヒガ 116  
 ナシホシケムシ 114  
 ナベアタムシ 136  
 ナラノタマカイガラ 139

ニ

ニイニイゼミ 137  
 ニカメイチウ 113  
 ニクバイ 130  
 ニツウシトリバ 113  
 ニツウシトリバガ科 113  
 ニツウヤホシ 79  
 ニハトリハツラミ 53  
 ニレンコシクヒ 58

ヌ

ヌカカ 123

ネ

ネゲレバ 91  
 ネゲレバ科 91  
 摺翅目 3, 25, 16, 90

ノ

ノコギリカミキリ 74  
 ノコギリクワガタ 60

蚕目 1, 24, 17, 131  
 ノミ 131  
 ノミ科 131  
 ノミバイ 127  
 ノミバツタ 42  
 ノミバツタ科 42

ハ

バクガ 115  
 バクガ科 115  
 ハクロトンボ 35  
 ハサミトビムシ 30  
 ハサミトビムシ科 30  
 ハサミムシ 44  
 ハツラミ科 53  
 ハチモドキ 128  
 バツタ科 41  
 ハナアブ 129  
 ハナアブ科 129  
 ハナカミキリ 74  
 ハナノミ科 87, 90  
 ハナバチ 93  
 ハナムケリ 60  
 ハネカクシムシ 56  
 ハネカクシムシ科 64  
 ハバネムシ 83  
 ハマキガ科 117  
 ハマキモドキ 119  
 ハマキモドキガ科 119  
 ハマダラカ 121  
 ハマダラシギアブ 124  
 ハムシ科 76  
 ハムシダマシ 89  
 ハムシダマシ科 89  
 ハラダロカツチアブシ

ムシ 63  
 ハラナガイトトンボ 36  
 ハラビロカマキリ 49  
 ハラビロガメ 134  
 ハリガメ 134  
 ハルゼミ 137  
 半翅首 2, 131  
 ハンメウ 53  
 ハンメウ科 87

ヒ

ヒカノコガ 114  
 ヒクラシ 137  
 ヒゲナガ 118  
 ヒゲナガキノコバイ 123  
 ヒゲナガガ科 118  
 ヒゲナガトビムシ科 32  
 ヒゲナガゾウムシ 59  
 ヒゲナガゾウムシ科 59  
 ヒシウンカ 138  
 ヒシバツタ 41  
 ヒシバツタ科 41  
 ヒツツシラミバイ 130  
 ヒトツラミ 54  
 ヒメアカホシ 79  
 ヒメアブ 125  
 ヒメカツチアブシムシ 63  
 ヒメカメムシ 125  
 ヒメカメムシ科 135  
 ヒメキノコムシ 78  
 ヒメキノコムシ科 78  
 ヒメコガシラミゾムシ 61  
 シ 61  
 ヒメコツラミ 139  
 ヒメシヤク 112

ヒメハナノミ 76  
 ヒメマキムシ 83  
 ヒメマキムシ科 83  
 ヒメハナノミ科 69, 76  
 ヒメハマキガ科 116  
 ヒメヒラタアブ 129  
 ヒラタアシバイ 129  
 ヒラタアブ 129  
 ヒラタカイガラ 139  
 ヒラタカメムシ 135  
 ヒラタカメムシ科 135  
 ヒラタグハガタムシ  
 科 60  
 ヒラタヨコバイ 138  
 ヒラタケシキスヒ 76  
 ヒラタムシ科  
 66, 69, 73, 88  
 ヒラタシテムシ 65  
 ヒラタシテムシモド  
 キ 78  
 ヒラタエンマムシ 62  
 ピロウドコガネ 60  
 ピロドツリアブ 126

フ

フキロキセラ 140  
 フタツメカギバ 111  
 フタツメゴミムシ 53  
 フタテンヨコバイ 138  
 フタバカゲロウ 33  
 フチヒゲガメ 133  
 フタモンメクラガメ 135  
 フヂマメトリバ 113  
 フチミヤクヨコバイ 138  
 フドウスカシバ 115

ブドウトリバ 113  
 ブユ 122  
 ブユ科 122

ヘ

ヘウタンゴミムシ 58  
 ヘウホンムシ 72  
 ヘウホンムシ科  
 70, 72, 73  
 ベツコウカハムシ 122  
 ベツコウハゴロモ 138  
 ベニヒラタムシ 73  
 ヘリガメ科 134

ホ

ホクトウガホ 114  
 ホクトウガ科 114  
 ホシカムシ 84  
 ホシガメ 134  
 ホシシヤク 112  
 ホシメバイ 128  
 ホソチドリバイ 128  
 ホソカ 121  
 ホソカ科 121  
 ホソガ 117  
 ホソガ科 117  
 ホソカハムシダマシ 122  
 ホソカタムシ 82  
 ホソカタムシ科 82  
 ホソクビアリモドキ 83  
 ホソサシガメ 134  
 ホソドロムシ 61  
 ホソハマキガ科 116  
 ホソヘリガメ 134  
 ホタル科 64, 67, 71, 89

ホホヅキガメ 134

マ

マイマイカブリ 53  
 マキアハフキ 138  
 膜翅目 6, 15, 17, 18, 20  
 23, 26, 27, 91  
 膜翅首目 91  
 マクソガムシ 67  
 マクソコガネ 60  
 マダラオカマコホロ  
 ギ 41  
 マダラガ科 114  
 マダラキツラミ 139  
 マツカレハ 111  
 マツノキホシゾウム  
 シ 59  
 マツノムクリカイガ  
 ラ 139  
 マツムシ 42  
 マツモムシ 136  
 マツモムシ科 136  
 マドバイ 126  
 マドバイ科 126  
 マメコガネ 60  
 マメゾウ 75  
 マメゾウ科 75  
 マメハンメラ 87  
 マルウンカ 138  
 マルガメ 133  
 マルキノコムシ 81  
 マルキノコムシ科 69, 81  
 マルツノゼミ 138  
 マルトゲムシ科 63, 79  
 マルトビムシ 31

索

引

七

マルトビムシ科	31	ミミフシ	140	モンカゲロウ	33
圓跳蟲亞目	31	脈翅目 3, 9, 18, 19, 23		モントガリバ	113
マルドロムシ	80		102	<b>ヤ</b>	
マルドロムシ科	80	脈翅首目	101	ヤツバコシノクヒ	58
マルハツラミ	53	ミヤマアカネ	36	ヤドリバイ	130
マルハナノミ	72	ミヤマクハガタ	59	ヤノネカイガラ	139
マルハナノミ科	72	ミンミン	137	ヤブカ	121
マルミヅムシ	136	<b>ム</b>		ヤマトシロアリ	50
<b>ミ</b>					
ミキテラハンメウ	58	ムカシトンボ	35	ヤママユ	111
ミカンガメ	133	ムカシトシホ科	35	ヤリバイ	127
ミヤンバイ	130	ムギノメクラガメ	135	ヤリバイ科	127
ミカンハマキ	115	ムグリガ科	118	ヤンマ科	36
ミザンムシ	79	無翅亞綱	28	<b>ユ</b>	
ミザンムシ科	79	ムシヒキアブ	126	有翅亞綱	32
ミザンムシモドキ	80	ムシヒキアブ科	126	ユスリカ科	123
ミザンムシモドキ科	80	ムラサキガメ	133	<b>ヨ</b>	
ミヅアブ	124	<b>メ</b>			
ミヅアブ科	124	メイガ科	113	ヨコバイ科	139
ミヅカマキリ	136	メクラアブ	125	ヨツホシテントウム	
ミヅガメ	134	メクラガメ科	135	シダマシ	79
ミヅキハガメ	134	メダカガメ	134	ヨツモンヒメヨコバ	
ミツギリソウムシ	59	メダマアブ	129	ヒ	138
ミツギリソウムシ科	59	メバイ科	128	<b>ラ</b>	
ミツスマシ	60	メミヅムシ	135	駱駝蟲目 8, 20, 22, 102	
ミツスマシ科	60	メンガタスバメ	113	ランノキノコバイ	123
ミツバチ	93	<b>モ</b>			
ミツバチ科	93	毛翅目 4, 20, 21, 23, 105		<b>リ</b>	
ミツバチシラミバイ	130	モウセンガ	118	鱗翅目 4, 15, 22, 23, 24	
ミツバチシラミバイ科	130	モクメガ	112	27, 106	
ミヅムシ	136	モヽガ科	115	リンゴノメンチウ	140
ミノムシガ科	114	モヽシノクヒガ	116	リンゴマルコシノク	
ミミヅク	139	モヽムグリガ	118	ヒ	58

リンゴメクラガメ	135
<b>ル</b>	
ルビロウムシ	139
ルリテントウムシダ	
マシ	79
ルリハムシ	75
ルリミヅアブ	124
<b>ワ</b>	
ワタノメイガ	113
ワタフキカイガラ	139
ワタミガ	116
ワタミガ科	116
ワモンゴキアブ	48
ワラジカヒガラ	139

索引

<b>A</b>			
Acanthocoris	134	Anisobas	44
Acanthoderus	43	Anisoptera	35
Acanthosoma	133	Anisozygoptera	35
Acherontia	113	Anomala	60
Acorutes	31	Anomoneura	139
Acridiidae	41	Anopheles	121
Acridium	41	Antegaster	36
Acropterus	111	Anthaerea	111
Acrothidium	75	Anthicidae	88
Adela	118	Anthobium	64
Adelphocoris	135	Anthocoris	135
Aegeria	115	Anthocoridae	135
Aegeriadae	115	Anthomyia	130
Aelia	133	Anthrax	126
Aenaria	133	Anthrenus	63
Aeolothrips	46	Anthribidae	59
Aeschnidae	36	Anthribus	59
Agdistis	113	Apha	112
Aglossa	113	Aphalara	139
Agrilus	62	Apherocheirus	136
Agriion	36	Aphididae	140
Agriionidae	36	Aphis	140
Agriotes	62	Aphodius	60
Aleyrodes	139	Aphomia	113
Aleyrodidae	139	Aphrophora	138
Allectula	84	Apidae	93
Alsophila	112	Apion	59
Alucita	113	Apis	93
Alucitidae	113	Apriona	74
Amphicillus	68	Apterygoxena	28
Anastoeus	126	Aradus	135
Anax	36	Aradidae	135
Anisops	136	Arthropleona	31
Ancylopus	79	Asilidae	126
		Asilus	126
		Aspidiotus	139
		Atherix	124
		Atropidae	52
		Attacidae	111
		Attagenus	69
		Atelabus	59
		Aulacophora	76
		<b>B</b>	
		Baetis	33
		Balclutha	138
		Baryrrhynchus	59
		Belostoma	136
		Berytidae	134
		Bibio	122
		Bibionidae	122
		Blattia	48
		Blattariae	10, 47
		Blatteformia	46
		Blattidae	48
		Blephaloceridae	122
		Blissus	134
		Boarmia	112
		Bombus	93
		Bombycidae	112
		Bombyliidae	126
		Bombylius	126
		Bombyx	112
		Borboridae	130
		Bostrychus	77
		Bostrychidae	77
		Bothrideres	82
		Brahmaea	112
		Brahmaeidae	112
		Braula	130

10

Braulidae	130	Cercopidae	138	Clyptotryphus	42
Brenthidae	59	Cercyon	67	Cnemidotus	70
Bruchidae	75	Ceroplastes	139	Cnidocampa	114
Bruchus	75	Cerostoma	117	Coccidae	139
Buprestidae	62	Cerura	112	Coccinella	79
Buprestis	62	Ceruridae	112	Coccinellidae	79
Byrrhidae	63	Cetonia	60	Coccorhynchus	59
Byrrhus	63	Chalcophora	62	Coenomyia	124
Bythinus	82	Chalcosia	114	Colophonora	119
Byturidae	66	Chalioides	114	Coleoptera	9, 55
Byturus	76	Chauliops	134	Coleopteroidea	54
		Chilo	113	Collembola	11, 20
		Chirocoris	79	Colydiidae	82
		Chironomidae	113	Commophilidae	116
		Chironomus	123	Conicera	127
		Chlaenius	58	Conocephalus	41
		Chrysochroa	62	Conopidae	118
		Chrysocoris	133	Conops	128
		Chrysomelidae	76	Coptotermes	50
		Chrysops	123	Coptosoma	133
		Cicada	137	Coreidae	134
		Cicadidae	137	Corixa	136
		Cicadula	138	Corixidae	136
		Cicindela	58	Corrodentia	7, 51
		Cimex	135	Corylophidae	79
		Cimicidae	135	Corylophus	79
		Cicidae	69	Corymbites	62
		Cis	81	Corynetes	84
		Cistellidae	81	Cosmopteryx	116
		Cladognathus	60	Cossidae	114
		Claccon	33	Crabro	94
		Clania	114	Creophilus	56
		Cleridae	64	Cryptarcha	69
		Clerus	67	Cryptophagus	69
		Cletus	134	Cryptotympana	137

索引

11